

山梨県北巨摩郡高根町

# 東久保遺跡

県営圃場整備事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1984

高根町教育委員会

東久保遺跡発掘調査報告書 正誤表

ページ	行 数	正	誤
P 95	9 行目	(壁柱穴を伴う遺構)	(壁穴を伴う遺構)
P 101	22 行目	堀内 真	掘内 真
図版29		第 8 号住居址	第 8 号号住居址
図版28		第 1 号住居址(1) 第 2 号住居址(2,3,4) 第 3 号住居址(5) 第 4 号住居址(6~13)	



東久保遺跡出土鉄滓

## 序 文

本調査は昭和58年度県営圃場整備事業に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査で先に発掘調査を行ない発見された大規模な集落跡地と石棺群の青木遺跡の北隣りです。字名が東久保のため、この地名を遺跡名にしましたが、調査をすゝめるに従い地元民が伝説的に語り伝えてきた、通称「鍛治林」の呼び名を裏づける数多くの住居跡の鉄滓、羽口、工房跡が発掘されました。

山梨県内には、此程大規模な鍛治屋集団跡は発掘されておらず、原料の鉄鉱石の入手方法も含めて、当遺跡における学術的意義は非常に重要であり、且つ貴重な遺跡であると思われます。

本町では、これからも開発事業に伴う発掘調査が数多く予測されますが、今回の調査は、その一部であり、断片的な調査であると考えております。今後、是等先人達の埋もれた足跡を系統的に整理、解明し、後世に伝えることが、我々の責務であると考えております。

終りに、今回の発掘調査に御協力下さった、土地所有者を始めとする関係者の方々に深く感謝の意を表すと共に、今後の御協力を重ねてお願い申し上げます。

昭和59年3月31日

高根町教育委員会

教育長 奥水喜富

## 例　　言

1. 本書は、県営圃場整備事業に伴う東久保遺跡の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 本調査は、県北土地改良事務所との負担協定及び文化庁・山梨県より補助金を受けて、高根町教育委員会が実施した。
3. 遺跡は、山梨県北巨摩郡高根町村北割字東久保、青木に所在した。
4. 本調査は、高根町教育委員会が昭和58年8月8日から昭和58年10月12日まで実施した。
5. 本遺跡出土の鉄滓の成分分析は、山梨県機械金属工業指導所に依頼し、作成されたものである。
6. 本書巻頭のカラー写真は、県北印刷（株）の右部章、米島義征両氏によるものである。
7. 本調査における図面、写真、出土遺物は高根町教育委員会が保管している。
8. 本報告書の遺物実測は高柳、中嶋、三井、トレースは植松、長谷川、写真・編集は雨宮、榎本、執筆は雨宮が行なった。
9. 発掘調査及び本書作成にあたって次の諸先生方の御指導助言をいただいた。

末木健（山梨県教育委員会文化課）　坂本美夫（山梨県埋文センター）

新津健（山梨県埋文センター）　保坂康夫（山梨県埋文センター）

武藤雄六（長野県片戸尻考古館）　山路恭之助　深沢裕三（須玉町教育委員会）

佐野勝広（日本考古学协会会员）　岡本範之（長坂町教育委員会）

野口道夫（明野中学校教諭）　藤原和徳　上條幹人（山梨県機械金属工業指導所）

（順不同、敬称略）

### 10. 発掘調査組織

調査主体……高根町教育委員会

　調査担当……雨宮正樹

　調査補助員……伊藤正幸

　事務担当……植松伸治　中嶋　靖　白倉民雄

　原　一元　島　正樹

### 11. 本書作成にあたり、昭和57年度に山梨県教育委員会文化課が調査した青木北遺跡の資料を活用させていただいた。

### 12. 掘出の遺構縮尺は、住居址、掘立柱建物址は $\frac{1}{10}$ と $\frac{1}{15}$ と $\frac{1}{20}$ がある。

### 13. 住居址カマドは $\frac{1}{10}$ である。

### 14. 住居址カマド内の点線は焼土範囲である。

### 15. 遺物の縮尺は $\frac{1}{10}$ であり、断面が黒く塗られているのは須恵器、内面に濃めのスクリーントーンは黒色土器、断面上に斜めのスクリーントーンは灰釉陶器を示す。

### 16. 遺構断面図の水平線上の数字は、海拔高度（m）を示す。

17. 掃図内の方位記号は磁北である。
18. 柱穴（ピット）内の数字は深さを示す。
19. 掃図中の遺物番号は、遺物表と共通である。
20. 本書で用いた地図は、昭和51年10月、国土地理院発行の2万5千分の1を原図としている。
21. 発掘調査参加者  
　浅川一郎、浅川児治、浅川修、跡部浩史、有賀望、小宮山良一、清水恒、平塙長生、古屋章夫、藤森浩、丸茂博幸、矢崎茂男、  
　浅川苔子、小川せき子、博林新七、奥水義一、小林あさよ、下倉静夫、清水あづま、  
　清水茂子、中沢祐美子、藤原芳郎、三井静代、八巻栄、八巻知子、横森秀男  
　会見仁、浅川英三、浅川美代、浅川光子、浅川輝枝、浅川洋子、浅川満江、千野光子、  
　中嶋ねのえ、細田みぎわ。
22. 遺物整理参加者  
　安達尚恵、石原友興、保坂小梅、宮沢久美子、下倉知子。

## 目 次

序 文	
例 言	
挿図目次	
図版目次	
I. 遺跡の位置と地理的歴史的環境	1
II. 調査に至る経緯と経過	1
III. 遺 構	4
1. 墓穴住居址	4
2. 挖立柱建物址	42
3. 槽状遺構	49
4. 土 壤	50
5. その他	53
IV. 遺 物	54
1. 住居址出土遺物	54
2. 住居址出土遺物表	74
V. ま と め	94
1. 遺構について	94
a. 墓穴住居址	94
b. 挖立柱建物址	94
c. 槽状遺構	94
d. 土 壤	95
e. そ の 他	95
2. 出土遺物について	95
a. 住居址内出土土器	95
b. 石製品	98
c. 石 帯	98
d. 砥 石	98
e. 鉄製品	98
f. 羽口について	98
g. 鉄滓について	99
鉄滓分析表	100
3. 鍛冶工房址	101
VI. おわりに	101
参考文献	101
図 版	102

## 挿 図 目 次

第1図	東久保遺跡位置図	2
第2図	検出遺構分布図	3
第3図	第1号住居址実測図	4
第4図	第2号住居址実測図	5
第5図	第3号住居址実測図	6
第6図	第4号住居址実測図	7
第7図	第5号住居址実測図	8
第8図	第6号住居址実測図	9
第9図	第7, 9号住居址実測図	10
第10図	第8号住居址実測図	11
第11図	第10号住居址実測図	12
第12図	第11号住居址実測図	13
第13図	第12号住居址実測図	14
第14図	第13号住居址実測図	15
第15図	第15号住居址実測図	17
第16図	第16号住居址実測図	17
第17図	第14, 17号住居址実測図	18
第18図	第18, 19号住居址実測図	20
第19図	第20号住居址実測図	21
第20図	第21号住居址実測図	22
第21図	第22号住居址実測図	24
第22図	第23号住居址実測図	24
第23図	第24号住居址実測図	25
第24図	第25号住居址実測図	26
第25図	第26号住居址実測図	27
第26図	第27号住居址実測図	28
第27図	第28, 29号住居址実測図	30
第28図	第30号住居址実測図	31
第29図	第31号住居址実測図	32
第30図	第1号住居址カマド実測図	33
第31図	第2号住居址カマド実測図	33
第32図	第3号住居址カマド実測図	33
第33図	第4号住居址カマド実測図	34
第34図	第5号住居址カマド実測図	34
第35図	第6号住居址カマド実測図	34
第36図	第8号住居址カマド実測図	35
第37図	第9号住居址カマド実測図	35
第38図	第10号住居址カマド実測図	35
第39図	第11号住居址カマド実測図	36
第40図	第12号住居址カマド実測図	36
第41図	第13号住居址カマド実測図	36
第42図	第14号住居址カマド実測図	37
第43図	第15号住居址カマド実測図	37
第44図	第16号住居址カマド実測図	37
第45図	第17号住居址カマド実測図	38
第46図	第19号住居址カマド実測図	38
第47図	第20号住居址カマド実測図	38
第48図	第22号住居址カマド実測図	39
第49図	第23号住居址カマド実測図	39
第50図	第24号住居址カマド実測図	39
第51図	第26号住居址カマド実測図	40
第52図	第27号住居址カマド実測図	40
第53図	第28号住居址カマド実測図	40
第54図	第29号住居址カマド実測図	41
第55図	第30号住居址カマド実測図	41
第56図	第1号建物址実測図	42
第57図	第2号建物址実測図	43
第58図	第3号建物址実測図	44
第59図	第4号建物址実測図	45
第60図	第5号建物址実測図	46
第61図	第6号建物址実測図	47
第62図	第7号建物址実測図	48
第63図	第1号溝状遺構実測図	49
第64図	第2号溝状遺構実測図	49
第65図	土壤第1類	50
第66図	土壤第2類	51
第67図	土壤第3類	51
第68図	土壤第4類	52
第69図	土壤第5類	52
第70図	燧柱穴を伴う遺構実測図	53
第71図	第1, 2, 3, 4号住居址出土川土器実測図	54
第72図	第4号住居址出土遺物実測図	55
第73図	第5号住居址出土遺物実測図	56
第74図	第6号住居址出土遺物実測図	57
第75図	第7, 8, 9号住居址出土遺物実測図	58
第76図	第10, 11号住居址出土遺物実測図	59
第77図	第12, 13, 14号住居址出土遺物実測図	60
第78図	第15, 16, 17号住居址出土遺物実測図	61
第79図	第17, 18, 19号住居址出土遺物実測図	62
第80図	第19, 20号住居址出土遺物実測図	63
第81図	第21号住居址出土川土器実測図	64
第82図	第22, 23号住居址出土遺物実測図	65
第83図	第23, 24号住居址出土遺物実測図	66
第84図	第24号住居址出土遺物実測図	67
第85図	第25, 26号住居址出土遺物実測図	68
第86図	第27, 28号住居址出土遺物実測図	69
第87図	第29, 30号住居址出土遺物実測図	70
第88図	出土縄文土器実測図	71
第89図	出土羽口実測図	72
第90図	出土遺物(石器, 鉄器)実測図	73

## 図版目次

- 図版1 遺跡遠景・近景  
図版2 遺跡全景  
図版3 第1号住居址 カマド 第2号住居址  
図版4 第2号住居址 カマド 第3号住居址 カマド  
図版5 第4号住居址 カマド 階段状遺構  
図版6 第5号住居址 カマド 第6号住居址  
図版7 第6号住居址 カマド 第7号住居址 第8号住居址  
図版8 第8号住居址 カマド 第9号住居址 カマド  
図版9 第10号住居址 カマド 第11号住居址  
図版10 第11号住居址 カマド 第12号住居址 第13号住居址  
図版11 第13号住居址 カマド 第14号住居址 カマド  
図版12 第15号住居址 カマド 第16号住居址  
図版13 第16号住居址 カマド 第17号住居址 カマド  
図版14 第18号住居址 第19号住居址 カマド  
図版15 第20号住居址 カマド 第20号住居址出土遺物(石器)  
図版16 第21号住居址 第22号住居址 カマド  
図版17 第22号住居址内金床石 羽口出土状況 錠出土状況  
図版18 第23号住居址 カマド 第24号住居址  
図版19 第24号住居址 カマド 第25号住居址 第26号住居址  
図版20 第26号住居址 カマド 第27号住居址 カマド  
図版21 第28号住居址 カマド 第29号住居址  
図版22 第29号住居址 カマド 第30号住居址 カマド  
図版23 第2号掘立柱建物址 第3号掘立柱建物址 第4号掘立柱建物址  
図版24 第33号住居址 第1号溝状遺構 第2号溝状遺構  
図版25 土塙群 その他 完掘状況  
図版26 土塙第1類 第2類 第3類  
図版27 土塙第4類 第4類完掘状況 第5類  
図版28 第1・2・3・4号住居址出土遺物  
図版29 第5・6・8・9号住居址出土遺物  
図版30 第11・13・15・16号住居址出土遺物  
図版31 第17・18・20・21・22号住居址出土遺物  
図版32 第23・24・26・27号住居址出土遺物  
図版33 第28・29・30号住居址出土遺物  
図版34 黒書拡大写真  
図版35 石器・鉄器・縄文土器  
図版36 羽口写真

## I. 遺跡の位置と地理的歴史的環境

高根町は、山梨県の北端部に位置し、東は須玉町、西は長坂町及び大泉村、北は長野県南佐久郡南牧村の各町村に隣接し、標高約570m～2900mの八ヶ岳南西麓にあり、町の大部分が高原地帯である。

八ヶ岳は、フォッサマグナという、本州を中央で二分する、大地殻帶に地質時代の第三紀末から第四紀洪積世にかけて噴出した火山群であり死火山である。その主峰は、赤岳であり、それより続く洪積台地に高根町はある。この洪積地は、須玉川及びその下流域の塩川と釜無川によって侵食され、比高約100mの急崖を持つ台地を形成し、七里ヶ原と呼ばれている。

この崖は、南は韮崎市から北は高根町の山間部まで続き、その総延長は20数kmにわたり、山間部と平野部を明瞭に区分し、交通、交易の障害となっている。

東久保遺跡は、高根町村山北割字東久保・青木に所在し、標高約745mで、北より南へ向う緩傾斜地である。高根町には、縄文時代から歴史時代までの遺跡が多数みられ、東久保遺跡と同時代の平安時代の遺跡では、青木北遺跡・湯沢遺跡・海道前遺跡があり、湯沢遺跡からは出土例の少ない、鎧甲金具や金銅製の鈴が出土している。また、この地域周辺は、中世において逸見郷と呼ばれ、長野県の佐久や諏訪地域との交通上の重要な拠点の一つでもあった。

東久保遺跡の北側には旭山砦があり、『日本城郭大系』によると武田時代、それ以降に使われた狼煙台といわれ、現在でも土塁が残っている。

## II. 調査に至る経緯と経過

高根町では、圃場整備事業を昭和53年度より10ヶ年計画で実施しており、昭和58年度事業予定地内の旭地区において、埋蔵文化財の有無を確認するため試掘調査を行なったが、遺構及び遺物は確認できなかった。しかし、この予定地は昭和57年度において、県文化課が発掘調査した青木北遺跡のすぐ北隣りにあり、青木北遺跡より検出された堅穴住居址が、発掘調査区域外に続くことが判明しており、このため昭和58年度事業予定面積のうち1万m<sup>2</sup>を対象として、記録保存を目的とした緊急発掘を実施することとなり、高根町教育委員会が主体となって昭和58年8月8日より同年10月12日まで実施した。

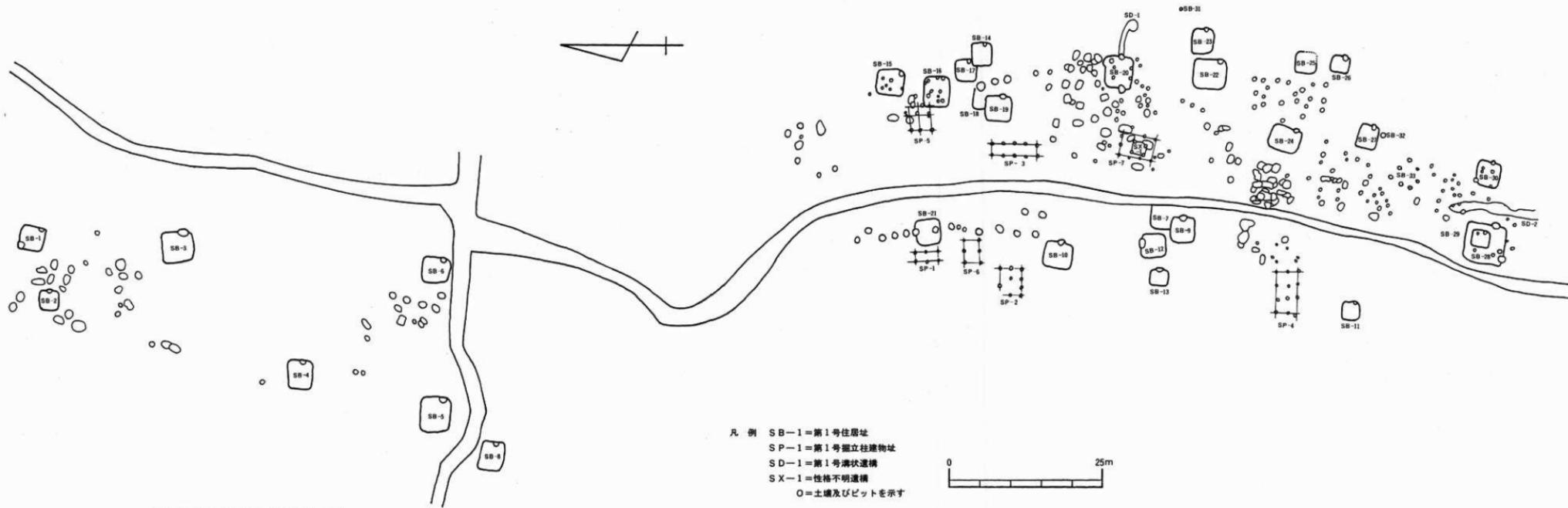
東久保遺跡の発掘調査は、昭和58年5月27日から同年6月26日まで、重機を使って表土除去を行ない、その後作業員を入れ遺構確認の予備調査を行なった。本格的な調査を開始したのは、同年8月8日からで、調査区域内に農道のセンター杭が設定されていたのでこれを基準杭として、調査区全体に10m方眼のグリッドを設定し8月12日より掘り下げ作業に入った。同年12月12日に遺跡全体測量及び全体写真を撮影し、その他全ての作業を終えて東久保遺跡の発掘調査を完了した。

最終的に検出された遺構は、堅穴住居址33軒・掘立柱建物址7棟・溝状遺構2本・土壙160基・その他1の計203遺構である。



- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 東久保(平安) | 5. 船山(弥生)  |
| 2. 青木北(平安) | 6. 海道前(平安) |
| 3. 青木(縄後)  | 7. 上の原(縄中) |
| 4. 梅の木(縄中) | 8. 旭山古(中世) |

第1図 東久保遺跡及び周辺遺跡位置図



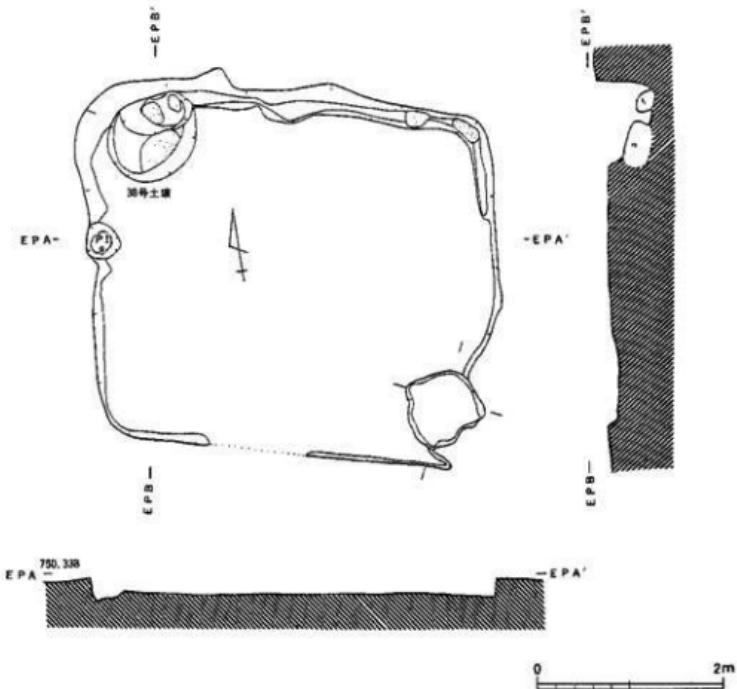
第2図 検出遺構分布図（縮尺500分の1）

### III. 遺構

#### 1. 堅穴住居址

##### 第1号住居址

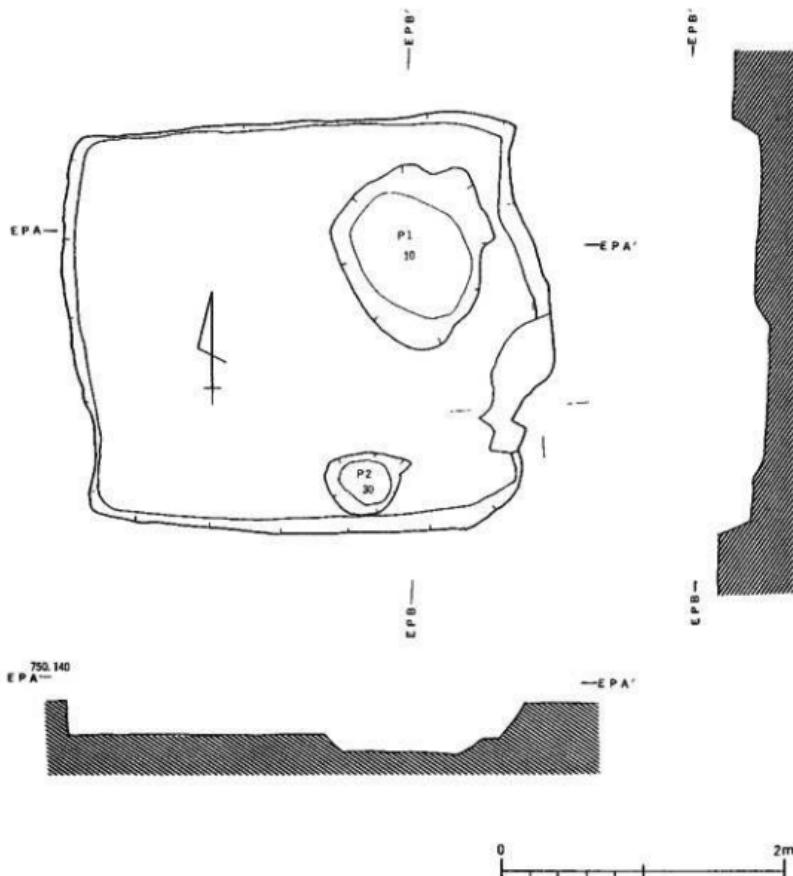
本住居址は遺跡内の北端に位置し、プランは東西4.4m、南北4mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-98°-Eである。地山はひばり沢の氾濫等によって、流された礫や小石が散乱しており、この面から掘り込んで住居址は造られていた。床面はロームを固めた床で、遺存状態は良好である。壁は5~10cmの高さであり、カマドは耕作などによって破壊されていた。住居址の西北の角に第38号土壙があり、住居址に伴うものかは、不明である。周溝は北壁の直下だけに確認された。



第3図 第1号住居址実測図(1/6)

## 第2号住居址

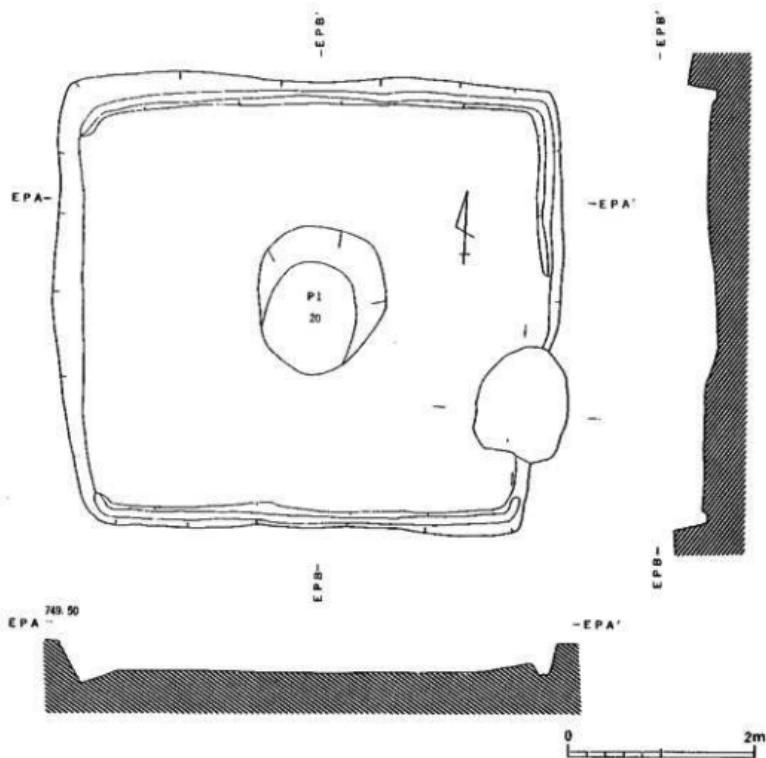
本住居址は第1号住居址から西南へ約6m離れた地点に位置し、プランは東西3.4m、南北3mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-87°-Eである。床面はロームを固めた床である。カマドは第1号住居址と同様で破壊されており、北側に東西1m、南北1.3m、深さ10cmの長方形のピットがあり、住居址に伴うものかは不明である。周溝は確認されなかった。



第4図 第2号住居址実測図(%)

### 第3号住居址

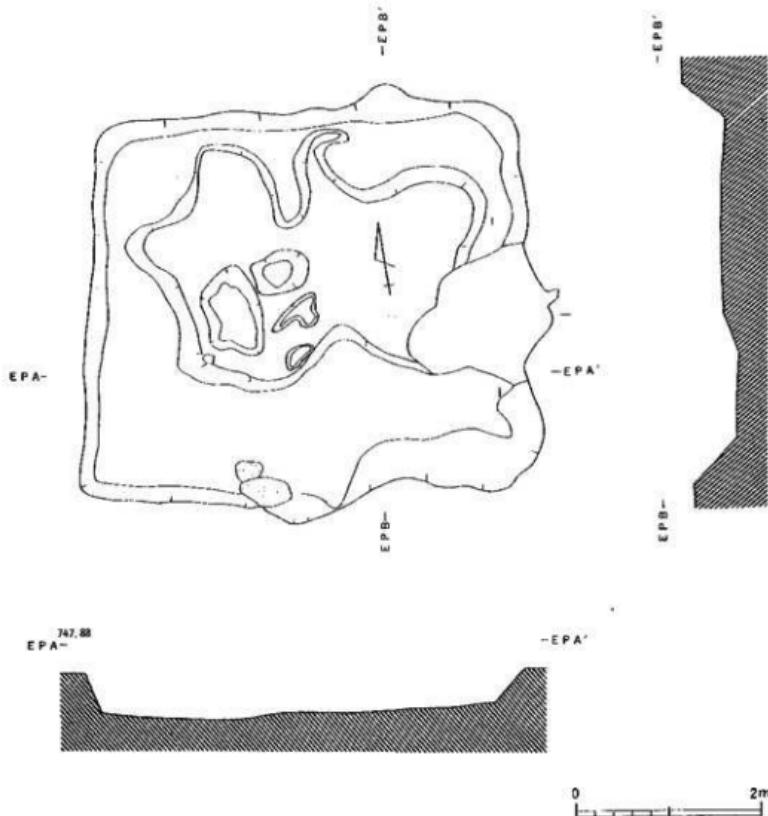
本住居址は第1号住居址から南へ約24m離れた地点に位置し、プランは東西5.3m、南北4.8m、の隅丸方形を呈し、主軸方向はN-91°-Eである。床面はロームを固めた床で、遺存状態は良好である。カマドは石組カマドであり、東壁の南に設置されている。全長95cm、幅110cmで天井部は崩壊し、焚口部付近で火井部に使用されたと思われる半石が2~4個認められた。袖に40cm前後の石を1個使用している。火床は床面にほとんど掘り込みはみられず、形態は梢円形を呈し、壁への掘り込みは26cm前後である。住居址のほぼ中央付近に直径1.5m、深さ20cmのピットがあり、その北西へ30cm前後離れたところより羽口が出土しており、覆土中からは鉄滓が出土している。周溝は壁の直下を巡り、西壁だけ確認できなかった。



第5図 第3号住居址実測図(%)

#### 第4号住居址

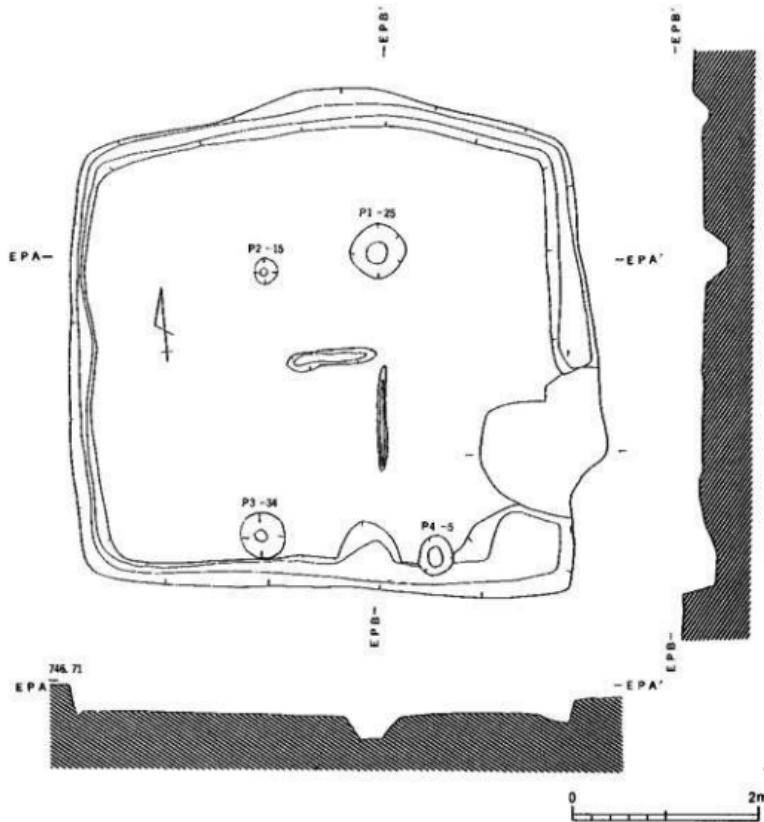
本住居址は第3号住居址より南西へ28m離れた地点に位置し、プランは東西4.7m、南北4.3mの隅丸方形を呈し、上軸方向はN-97°-Eである。床面はロームを固めた貼床が、住居址内の中央よりやや北側にかけて残存しており、各コーナー周辺は軟弱であり、周溝は確認できなかった。カマドは石組カマドであり、東壁のほぼ中央に設置されている。全長1.6m、幅90cmで天井部は崩壊しているが、袖石は原位置を保っていた。南壁の中央部付近に入口と思われる平石を使用した階段状の遺構が見られる。



第6図 第4号住居址実測図(1/6)

### 第5号住居址

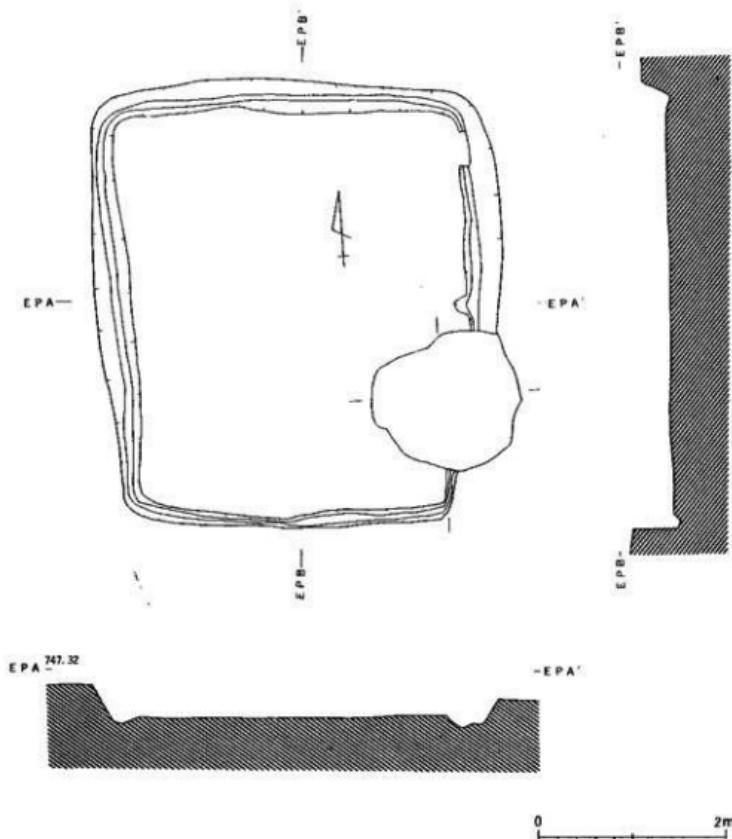
第4号住居址より南へ22m離れた地点に位置し、プランは東西 5.4m、南北 5.4mの隅丸方形を呈し、上軸方向はN-93°-Eである。床面はロームを固めた床で、住居址のほぼ中央に直交するように2本、溝がみられた。カマドは石組カマドであったと思われ、東壁の中央よりやや南に設置されていた。カマドは全長 1.5m、幅67cm、深さは床面より21cmを測るが、遺存状態は全体的に悪い。ピットは4本みられ、P<sub>1</sub>は直径60cm、深さは25cm、P<sub>2</sub>は直径15cm、深さは15cm、P<sub>3</sub>は直径35cm、深さは34cm、P<sub>4</sub>は直径35cm、深さは 5 cmを測る。周溝は壁直下を巡り、全周している。



第7図 第5号住居址実測図(16)

### 第6号住居址

本住居址は、第5号住居址より東へ18m離れた地点に位置し、プランは東西4.3m、南北4.8mの隅丸方形を呈し、主軸方向N-91°-Eである。床面はロームを固めた床で、周溝は壁直下をカマド部分を除き全周している。カマドは石組カマドであり、全長1.7m、幅97cm、深さ12cm掘り下げて、構築されている。カマドの位置は、東壁の南よりにつくられており、壁を22cmを掘る。周溝は、カマドを除き、壁直下を全周している。



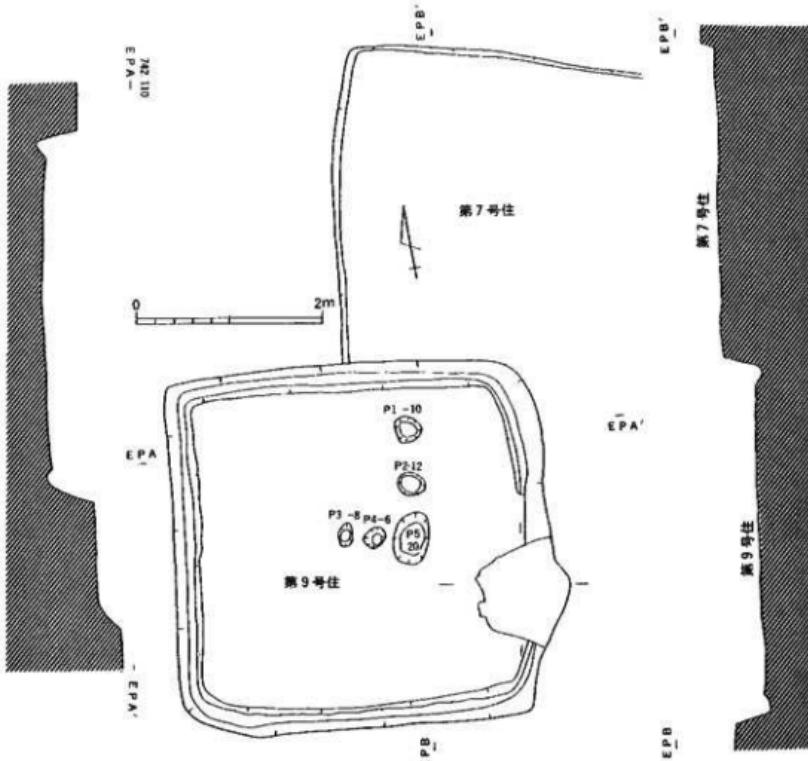
第8図 第6号住居址実測図(1/6)

### 第7号住居址

本住居址は、第9号住居址によって南側を、東側は用水路によって切られて存在し、遺存状態はきわめて悪い。プランは残存する壁より東西3.2m、南北3.4mの隅丸方形を呈すると思われる。主軸方向はN-100°-Eである。床面はロームを固めた床面であり、羽口と鉄滓が出土している。カマドは前述のとおり、用水路によって破壊されている。

### 第9号住居址

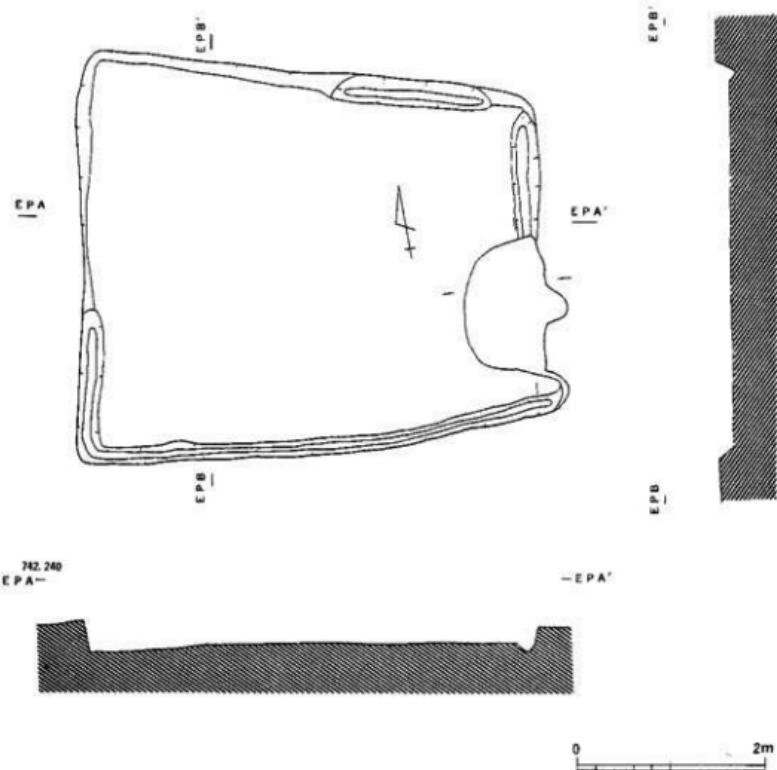
本住居址は、遺跡内のほぼ中央付近に存在しており、第7号住居址を掘り込んで構築されている。プランは東西4m、南北3.9mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-98°-Eである。床面はロームを固めた床面であり、周構は壁直下を全周している。カマドは東壁のほぼ中央に設置されていた。カマドは石組カマドであり、天井部は崩壊し、袖石が1個残っている。全長75cm、幅60cmであり、床面への火床の掘り込みは、ほとんど見られない。



第9図 第7, 9号住居址実測図(1/6)

### 第8号住居址

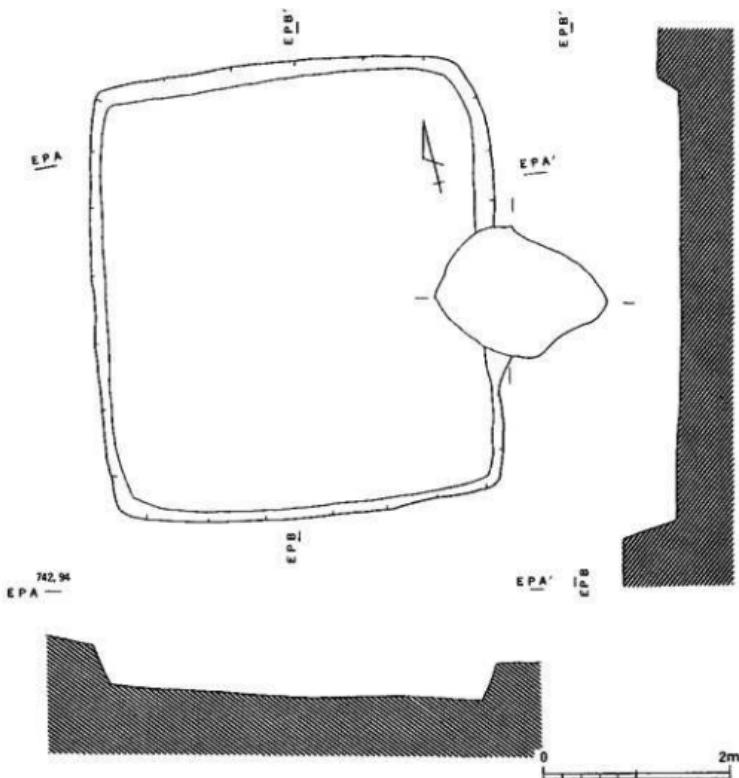
本住居址は、第5号住居址から南へ3m離れた地点に位置し、プランは東西4.0m、南北の東辺3.4m、西辺4.4mのややひずんだ隅丸方形を呈し、主軸方向はN-96°-Eである。床面はロームを固めた床面であり、周溝は壁直下を巡り、北西の角とそれから、西壁と北壁の2.5mづつのところだけ周溝はない。カマドは東壁のやや南よりに設置されており、石組カマドであったと思われる。天井部は崩壊し、焚口部付近に天井部に使用されたと思われる平石が2個認められた。カマドの大きさは全長70cm、幅67cm、深さ12cmを測り、壁への掘り込みは認められない。



第10図 第8号住居址実測図(2)

### 第10号住居址

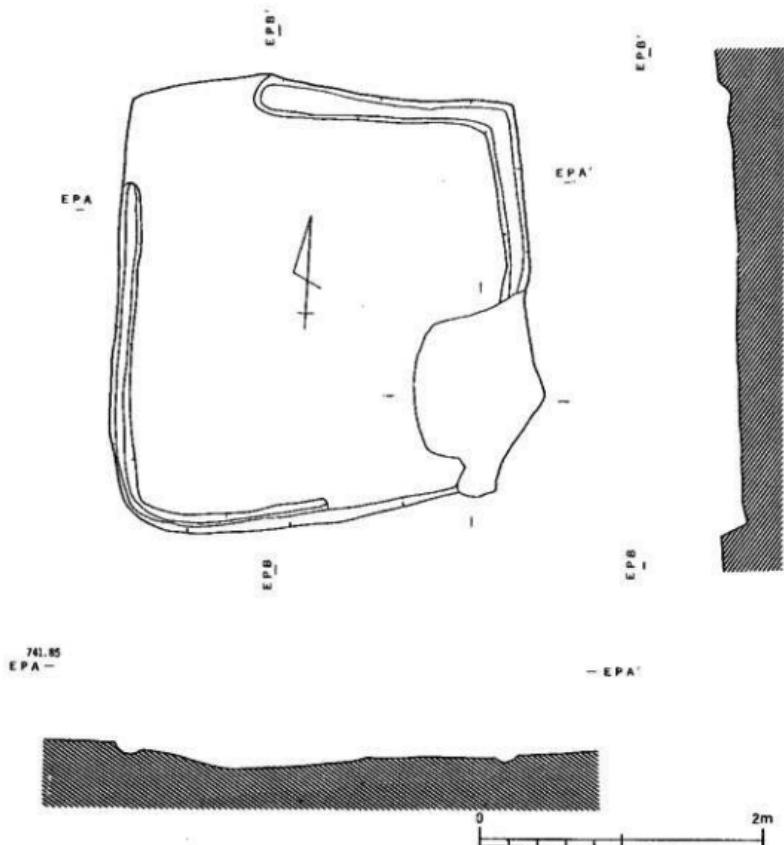
本住居址は、第9号住居址より北へ12m離れた地点に位置し、プランは東西4.3m、南北4.9mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-105°-Eである。床面はロームを主体に一部黒褐色土を使用して貼床し、遺存状態はきわめて悪い。カマドは東壁の中央付近に設置され、全形をよくとどめているが、燃焼部の天井は崩壊し、袖石と煙道部の天井石が残っているだけであった。全長1.9m、幅65cmであり、床面への火床の掘り込みはほとんど見られない。



第11図 第10号住居址実測図(%)

### 第11号住居址

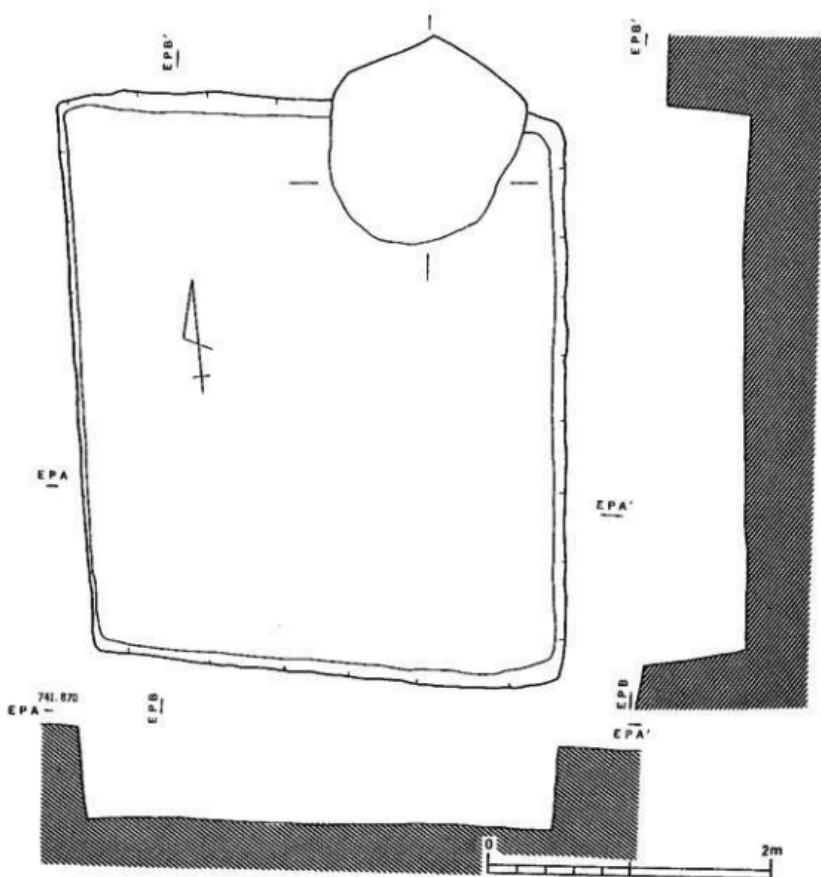
本住居址は、第9号住居址より南西へ30m離れた地点に1軒だけ位置し、プランは東西2.8m、南北3.2mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-99°-Eである。床面はロームで固めた床で、周構は北東の角周辺と南西の角周辺のみに見られる。カマドは石組カマドであったと推定され、東壁の南に設けられている。全長90cm、幅1.2mである。天井部は崩壊し、焚口部付近に天井部で使用されたと思われる平行が4～5個見られる。



第12図 第11号住居址実測図(1)

### 第12号住居址

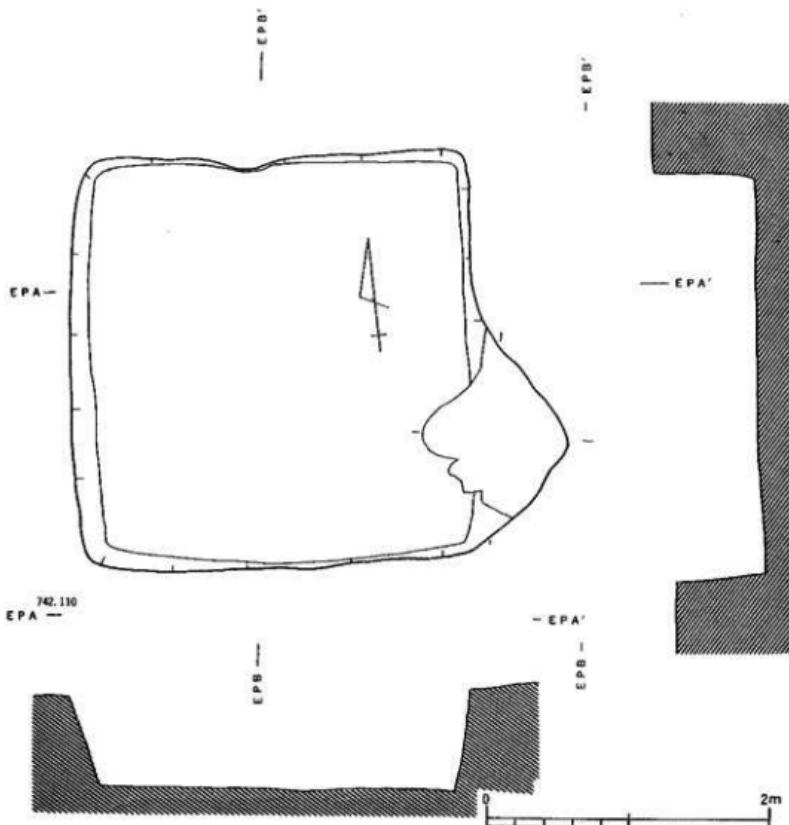
本住居址は、第9号住居址より北西へ1m離れた地点に位置し、プランは東西3.4m、南北4.0mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-9°-Eである。全体的に暗褐色土層を掘り込んでいたため、床も壁もあまり良好ではなく、周溝も確認できなかった。壁の状態は、北壁73cm西壁66cm南壁60cm東壁70cmを測り、壁は急激な立ち上がりをしめしている。カマドは遺構内唯一の北カマドであり、石組カマドであったと推定される。



第13図 第12号住居址実測図 (1/40)

### 第13号住居址

本住居址は、第12号住居址より西へ2m離れた地点に位置し、プランは東西2.8m、南北2.9mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-99°-Eである。全体的に暗褐色土層を掘り込んで構築されているため、床も壁もあまり良好ではなく、周溝も確認できなかった。壁の状態は、北壁78cm西壁63cm南壁64cm東壁77cmを測り、壁は第12号住居址と同様急激な立ち上りをしめしている。カマドは東壁の南よりに設置され、石組カマドであった。天井部は崩壊し、右袖の袖石だけは確認できたが、左袖は確認できなかった。壁を63cmほど掘り込み、カマドの大部分は住居址外に構築されており、全長1.03m、幅1.3mを測る。



第14図 第13号住居址実測図 (1/6)

#### 第14号住居址

本住居址は第10号住居址から東へ30m離れた地点に位置し、第17号住居址を掘り込んで存在し、プランは東西3.9m、南北3.6mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-95°-Eである。床面はロームを固めた床であり遺存状態は良好である。壁高は北壁44cm西壁54cm南壁10cm東壁34cmを測る。周溝は北西の角と南壁を除き壁直下に、幅20~32cm、深さ5cmで巡っている。カマドは石組カマドであったと思われ、東壁の南よりに設けられており全長90cm、全幅94cmを測る。

#### 第17号住居址

本住居址は第16号住居址から南へ1m離れた地点に位置し、前述の第14号住居址により南東の角が切られて存在する。プランは東西3.9m、南北3.3mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-82°-Eである。床面はロームを固めた床面であり、遺存状態は良好である。壁高は北壁50cm西壁50cm南壁41cm東壁42cmを測る。周溝は壁直下を幅20~40cm、深さ5~10cmで全周を巡っている。カマドは東壁の中央に構築されており、石組カマドである。カマドの遺存状態は良好で左右の袖と天井石の一部も残っていた。全長1.2m、全幅90cmを測り、焚口部には天年石と思われる平石が2~3個みられる。壁には掘り込みはほとんど見られず、燃焼部を中心に床面から約10cm皿状に掘り込む。煙道部は緩やかな立ち上がりをしている。本住居址は、火災屋と見られ、特に南西の角から中央付近にかけて、投げ込んだと見られる石が40個ほど見られ、その石の下からは焼土と共に炭化物が検出された。北東の角には焼け落ちたと見られる屋根材の一部が炭化して出土している。

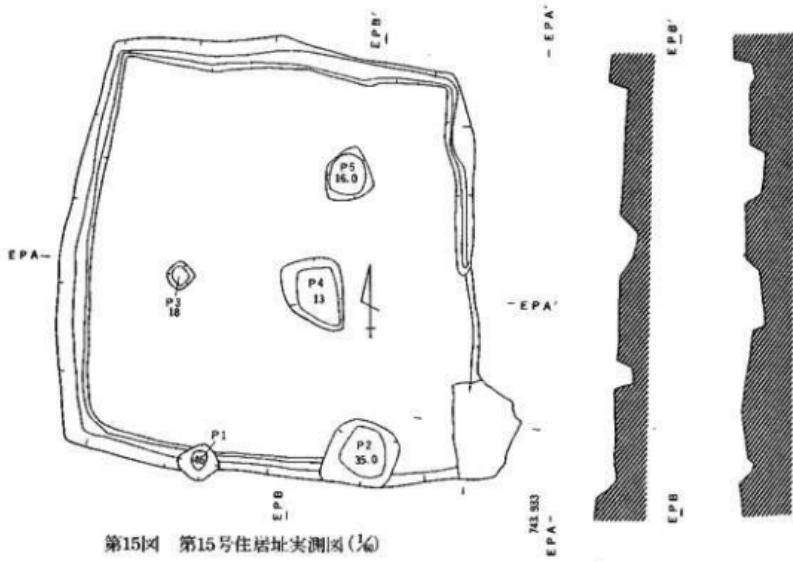
#### 第15号住居址

本住居址は第14号住居址から北へ12m離れた地点に位置し、プランは東西4.5m、南北4.5mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-96°-Eである。床面はロームを固めた床であるが遺存状態はあまり良好ではなかった。壁高は北壁16cm西壁18cm南壁19cm東壁19cmを測る。周溝はカマド付近を除き、壁直下を全周していた。ピットは5本あり、P<sub>1</sub>は直径40cm深さ46cm、P<sub>2</sub>は直径70cm深さ34cm、P<sub>3</sub>は直径30cm深さ19cm、P<sub>4</sub>は直径70cm深さ11cm、P<sub>5</sub>は直径10cm深さ16cmを測る。カマドは石組カマドであったと思われ、東壁の南よりに設けられていたが、耕作等の破壊によって、遺存状態は悪かった。

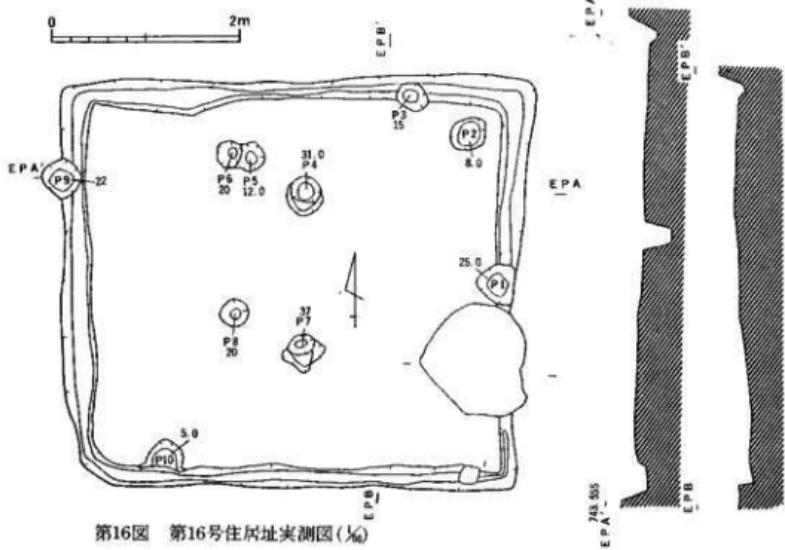
#### 第16号住居址

本住居址は第15号住居址から南へ3m離れた地点に位置し、プランは東西5.2m、南北4.4mの隅丸方形を呈し、主軸方向N-96°-Eである。床面はロームを固めた床面であり、遺存状態は良好である。壁高は北壁20cm西壁9cm南壁13cm東壁22cmを測り、周溝を壁直下を幅20~50cm、深さ9cm前後で全周を巡っている。ピットは10本見られ、P<sub>1</sub>は直径40cm深さ31cm、P<sub>2</sub>は直径35cm深さ8cm、P<sub>3</sub>は直径30cm深さ20cm、P<sub>4</sub>は直径40cm深さ30cm、P<sub>5</sub>は直径30cm深さ16cm、P<sub>6</sub>は直径30cm深さ23cm、P<sub>7</sub>は直径40cm深さ38cm、P<sub>8</sub>は直径30cm深さ18cm、P<sub>9</sub>は直径40cm深さ27cm、P<sub>10</sub>は直径30cm深さ8cmを測るが、本住居址とは関係ないものと思われる。カマドは東壁の南よ

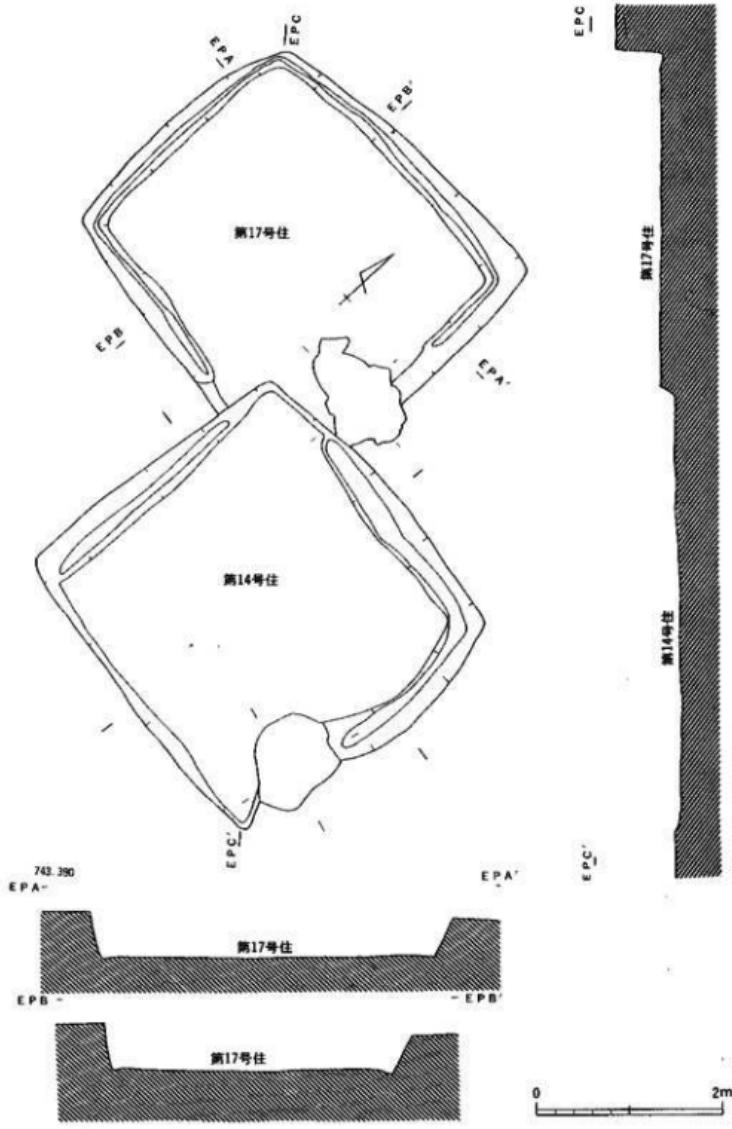
りに設けられており、石組カマドであったと思われる。全長 1.1m 全幅 1 m を測るが、天井部及び袖部も崩壊していた。



第15図 第15号住居址実測図(16)



第16図 第16号住居址実測図(16)



第17図 第14, 17号住居址実測図(3)

### 第18号住居址

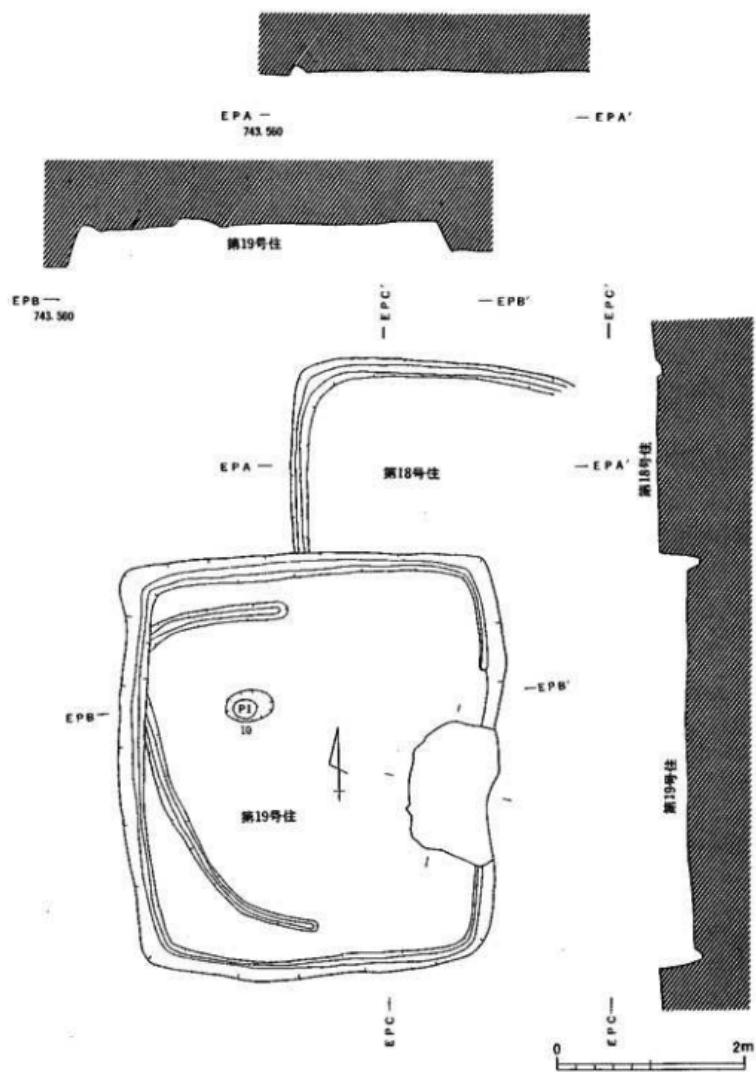
本住居址は第17号住居址から南西へ2m離れた地点に位置し、第19号住居址によって南側を切られており、耕作等によって削平されており遺存状態は悪い。プランは東西3.0m、南北2.0mで隅丸方形を呈すると思われる。主軸方向はN-97°-Eである。床面は暗褐色土を主体に固められている。壁は床面とほぼ同じ高さで西壁と北壁に確認できる。周溝の幅は15~20cm、深さは6cm前後を測る。

### 第19号住居址

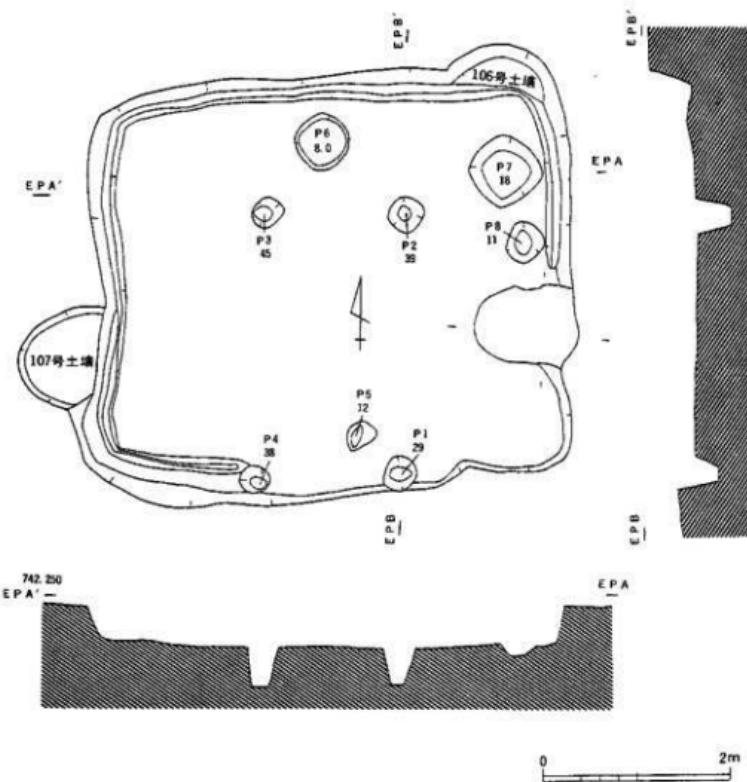
本住居址は第16号住居址から南へ6m離れた地点に位置し、第18号住居址を切って存在し、プランは東西4.1m、南北4.6mで隅丸方形を呈し、主軸方向はN-109°-Eである。床面はロームを固めた床である。周溝は壁直下を回るものと、西壁から30~70cm離れたところに周溝が巡っている。壁直下にある周溝は幅7~15cm、深さは2~5cmを測る。壁から離れたところを巡る周溝は幅10~20cm、深さは2~3cmを測る。ピットは1本あり、直径40cm深さ10cmを測る。カマドは東壁のほぼ中央にあり、石組カマドであり遺存状態は良好であった。天井部は平石を数個をのせてつくられ、石と石の隙間に補強材として白色粘土を使用している。燃焼部を中心に床面から約11cm皿状に掘り込んでつくられている。煙道部は壁への掘り込みが見られ25cm深掘られており、一段平坦部があるが急に立ち上がっている。全長1.4m、幅85cmで焚口部で幅1mを測る。

### 第20号住居址

本住居址は第19号住居址から南へ15m離れた地点に位置し、プランは東西5.1m南北4.5mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-94°-Eである。床面はロームを固めた床であり、遺存状態は良好である。周溝は南壁の一部とカマド部分を除き、壁直下を巡り幅30cm前後、深さ2~4cmを測る。本住居址には土壙が2基あり、西壁の南がわと北東の角に存在する。ピットは遺構中に8本みられP<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>までは柱穴と思われる。P<sub>1</sub>は直径40cm深さ25cm、P<sub>2</sub>は直径60cm深さ40cm、P<sub>3</sub>は直径30cm深さ42cm、P<sub>4</sub>は直径30cm深さ28cm、P<sub>5</sub>は直径25cm深さ12cm、P<sub>6</sub>は直径60cm深さ9cm、P<sub>7</sub>は直径70cm深さ17cm、P<sub>8</sub>は直径40cm深さ9cmを測る。ピットの配列を見ると、P<sub>1</sub>とP<sub>4</sub>は南壁の壁際にあり、P<sub>2</sub>とP<sub>3</sub>は北壁から1.4m前後離れた位置にある。P<sub>1</sub>からP<sub>4</sub>までの距離は1.5m、P<sub>1</sub>からP<sub>2</sub>までの距離は2.8mを測る。P<sub>3</sub>からP<sub>2</sub>までの距離は1.5m、P<sub>3</sub>からP<sub>4</sub>までの距離は2.9mを測り、ややひずんだ長方形になっている。カマドは東壁の南により構築された石組カマドであり遺存状態は良好である。袖石は右袖に1個、左袖に7個ほど見られ、燃焼部に天井部で使われたと思われる平石が2個ほど見られる。本住居址は第106号土壙と第107号土壙によって、西壁の南と北東の角はこれらによって切られている。第106号土壙は直径1.2m深さ36cm、第107号土壙は1.1m深さ28cmを測る。



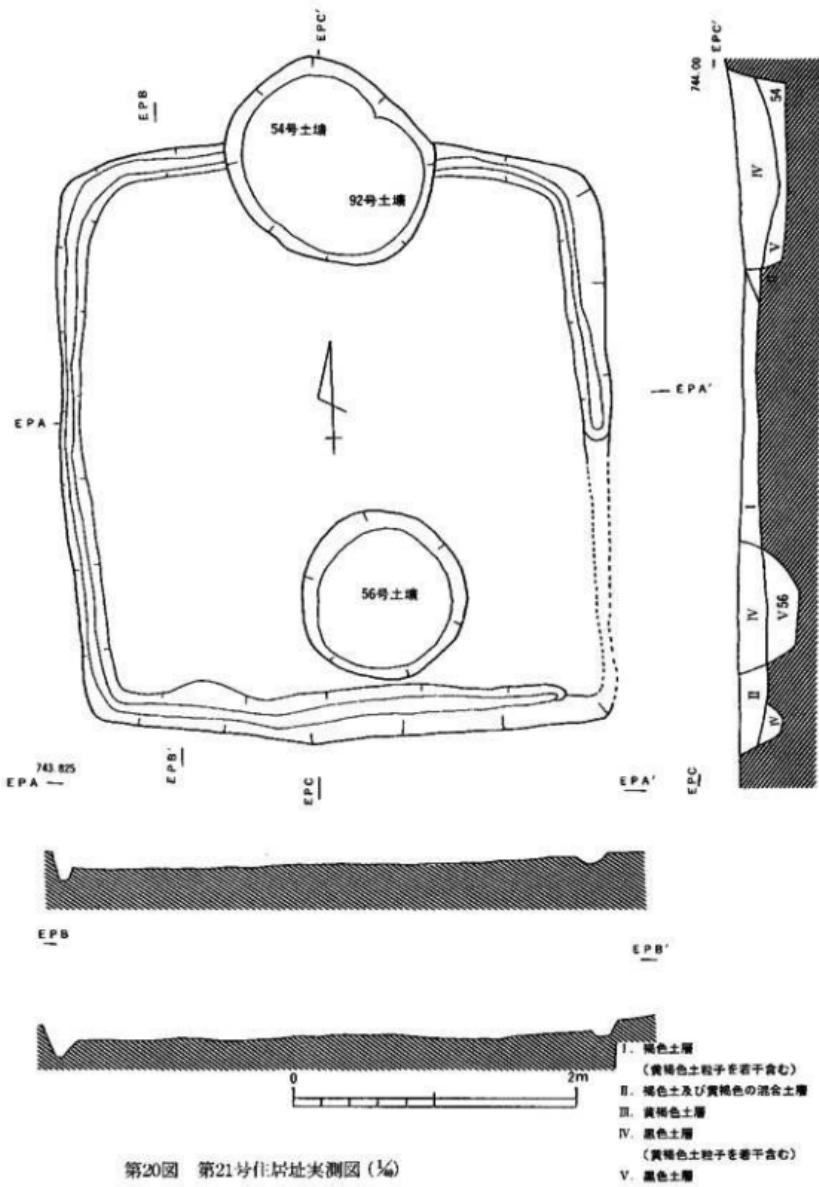
第18図 第18, 19号住居址実測図(3)



第19図 第20号住居址実測図(%)

#### 第21号住居址

本住居址は第10号住居址より北へ17m離れた地点に位置し、プランは東西 3.9m、南北 4.1mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN—96°—Eである。床面はロームを固めた床である。壁は耕作等によって削平されており、北壁12cm西壁17cm南壁13cm東壁3cmを測る。カマドは東壁の南よりにあったと思われるが破壊されており不明である。本住居址は第54号土壙、第56号土壙、第92号土壙によって切られている。これらの土壙は住居址を掘り込んで存在する。第54号土壙は円形であり直径1.24m深さ0.45m、第56号土壙は円形であり直径 1.1m深さ0.43m、第92号土壙は第54号土壙で切られており及び大きさは不明である。



第20図 第21号住居址実測図 (1/4)

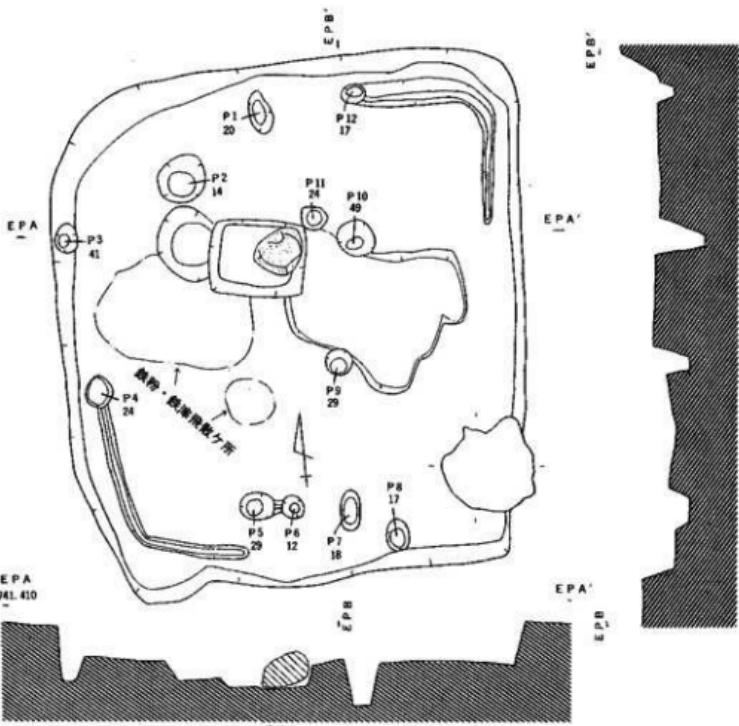
### 第22号住居址

本住居址は第20号住居址から南へ10m離れた地点に位置し、プランは東西 5.0m、南北 5.7mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-93°-Eである。床面は黒褐色土を主体に黄褐色粘土を用いて床面をつくっており、遺存状態はあまり良好ではなかった。周溝は、カマド部と東壁を除き壁から10~20cm離れ深さは3~5cmで巡っている。ピットは12木あり、P<sub>1</sub>は直徑25cm深さ20cm、P<sub>2</sub>は直徑50cm深さ13cmを測り粘土が詰められている。P<sub>3</sub>は直徑20cm深さ26cm、P<sub>4</sub>は直徑35cm深さ24cm、P<sub>5</sub>は直徑30cm深さ34cm、P<sub>6</sub>は直徑25cm深さ16cm、P<sub>7</sub>は長径45cm短径20cmの橢円で深さ17cm、P<sub>8</sub>は直徑30cm深さ15cm、P<sub>9</sub>は直徑30cm深さ26cm、P<sub>10</sub>は直徑40cm深さ46cm、P<sub>11</sub>は直徑25cm深さ20cm、P<sub>12</sub>は直徑20cm深さ18cmを測る。住居址内の中央より、やや北西に寄ったところに南北80cm東西1m深さ31cmの長方形のピットとそのすぐ西側に直徑80cm深さ22cmのピットがある。

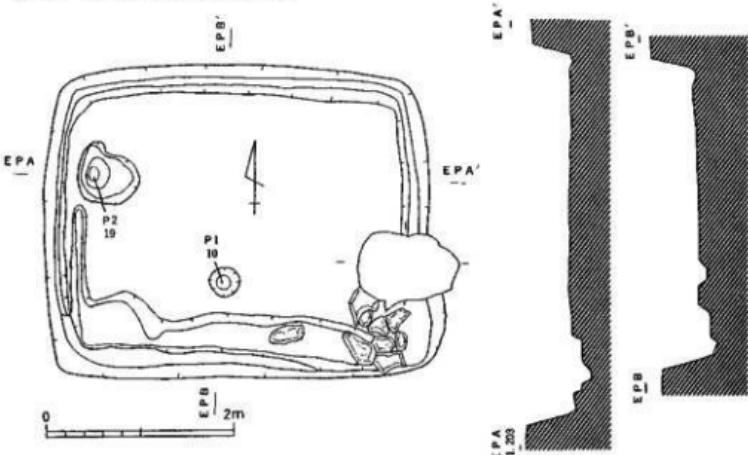
カマドは東壁の南よりに構築された右組カマドであり、遺存状態はあまり良好ではなかった。袖石は右袖に1個残るのみで、燃焼部に天井石と思われる平石が7個ほど見られる。P<sub>9</sub>とP<sub>10</sub>の間に黄褐色土が床直上10cm前後で、南北1.2m東西2.0mの範囲で遺存していた。覆土中や床直上に多くの鉄滓がみられ、特に北西の角からは、元形にはぼ近い羽口がまとまって5本出土している。北東の角付近から床直で鎌が出土している。

### 第23号住居址

本住居址は第22号住居址より東へ1m離れた地点に位置し、プランは東西4.1m南北3.3mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-89°-Eである。壁の状態は、北壁45cm西壁54cm南壁54cm東壁40cmを測り、全体に黒褐色土層を切り込んでつくられているため、あまり良好ではなかった。周溝はカマド部を除いて幅5~25cm、深さ3~12cmの規模ではほぼ全周する。カマドは石組カマドであり、東壁の南よりに構築されて全長1.08m、幅0.85mをはかる。袖石は右袖に2個、左袖に2個あり、燃焼部に天井部の平石と思われる石が8個ほどあり、カマド中央部付近には支柱石が残っていた。カマドの南側には、8個ほど平石を並べた住居址内の遺構があるが、使用目的は不明である。本住居址にはピットが2本あり、P<sub>1</sub>は直徑30cm深さ7cm、P<sub>2</sub>は直徑30cm深さ18cmを測る。



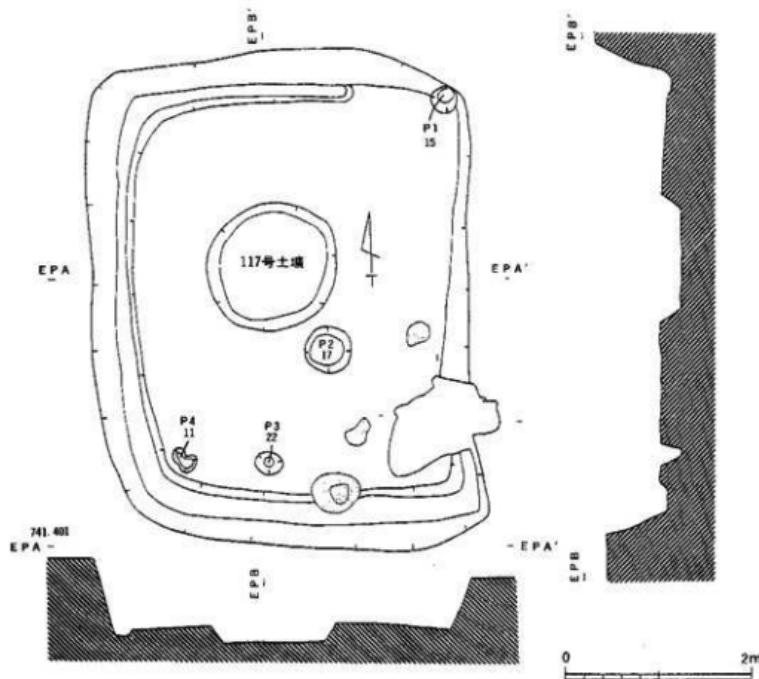
第21図 第22号住居址実測図 (1/6)



第22図 第23号住居址実測図 (1/6)

### 第24号住居址

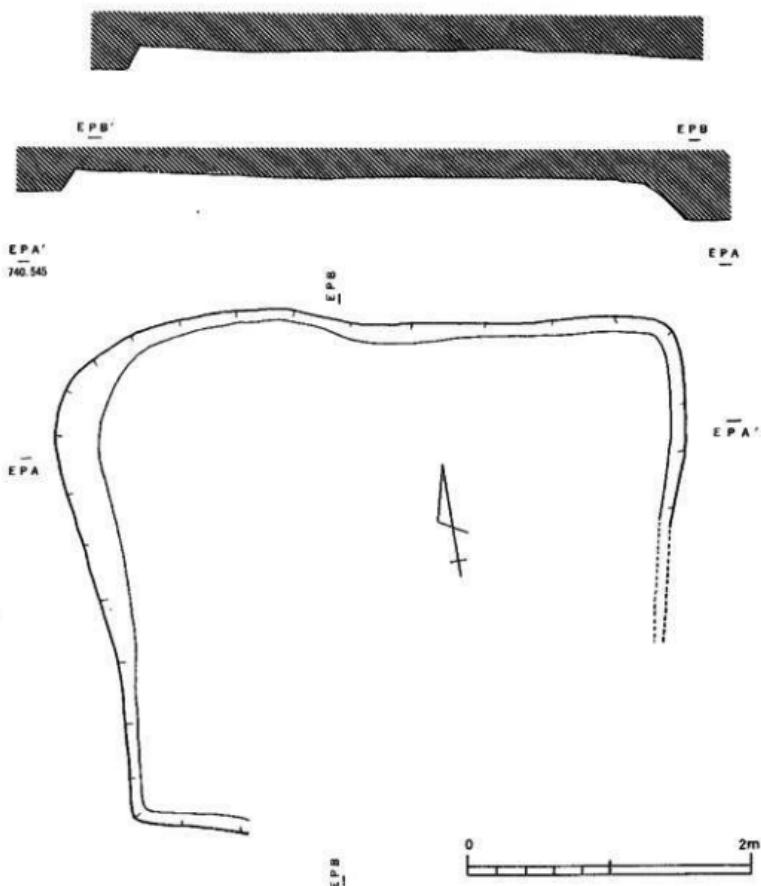
本住居址は第22号住居址より南へ10m離れた地点に位置し、プランは東西 4.0m、南北 5.3mのややひすんだ隅丸方形を呈し、主軸方向はN—99° Eである。壁の状態は、北壁77cm西壁77cm南壁58cm東壁54cmを測り、全体に黒褐色土層を切り込んでつくられているため、あまり良好ではなかった。周溝はカマド部と東壁を除いて、幅10～25cm、深さ5～8cmの規模でほぼ全周する。カマドは石組カマドであり、東壁の南よりに構築されており全長 1.2m、幅1.17mを測る。袖石は右袖に7個、左袖に4個見られ、焚口付近には天井部に使われたと思われる平石が、4～5個見られる。住居址中央部には直径 1.4m深さ20cmの土壙がある。ピットは4本あり、P<sub>1</sub>は直径30cm深さ15cm、P<sub>2</sub>は直径50cm深さ19cm、P<sub>3</sub>は直径30cm深さ20cm、P<sub>4</sub>は直径20cm深さ16cmを測る。床直上において焼土の広がりが2ヶ所見られ、北側は直径90cm、南側のものはそれよりも小さく直径40cmを測る。出土遺物は覆土中及び床直上より鐵滓が出土しており、覆土中ではあるが砥石が1個出土している。



第23図 第24号住居址実測図(1/6)

### 第25号住居址

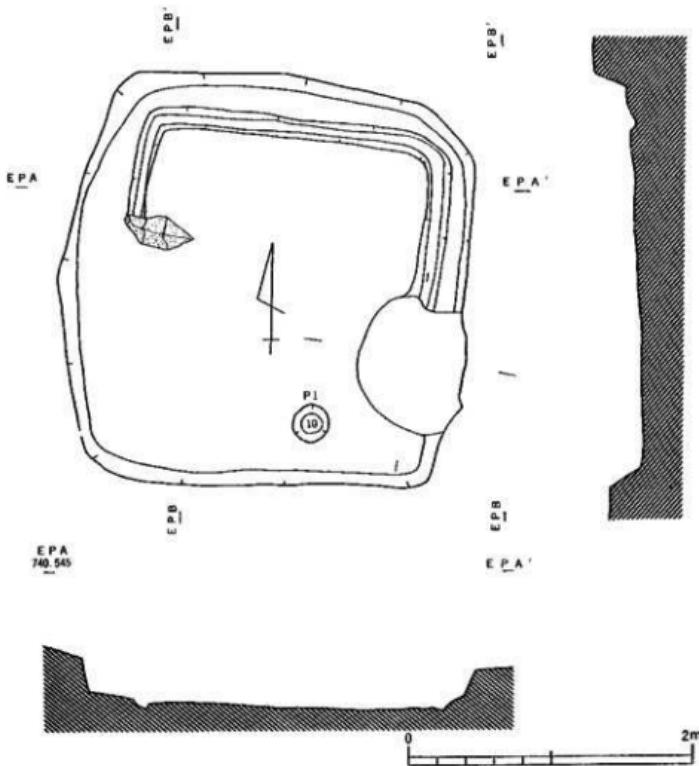
本住居址は第24号住居址より南東へ9m離れた地点に位置しているが、耕作等によって削平されて南東の壁は飛ばされているが、残っている壁でプランを追うと、東西4.3m、南北3.6mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-98°-Eである。壁の状態は、北壁17cm西壁12cm南壁7cm東壁5cmを測り、全体に黒褐色土層を切り込んでつくられているため、あまり良好ではなかった。カマドは前述のように耕作によって破壊されている。



第24図 第25号住居址実測図(1/4)

### 第26号住居址

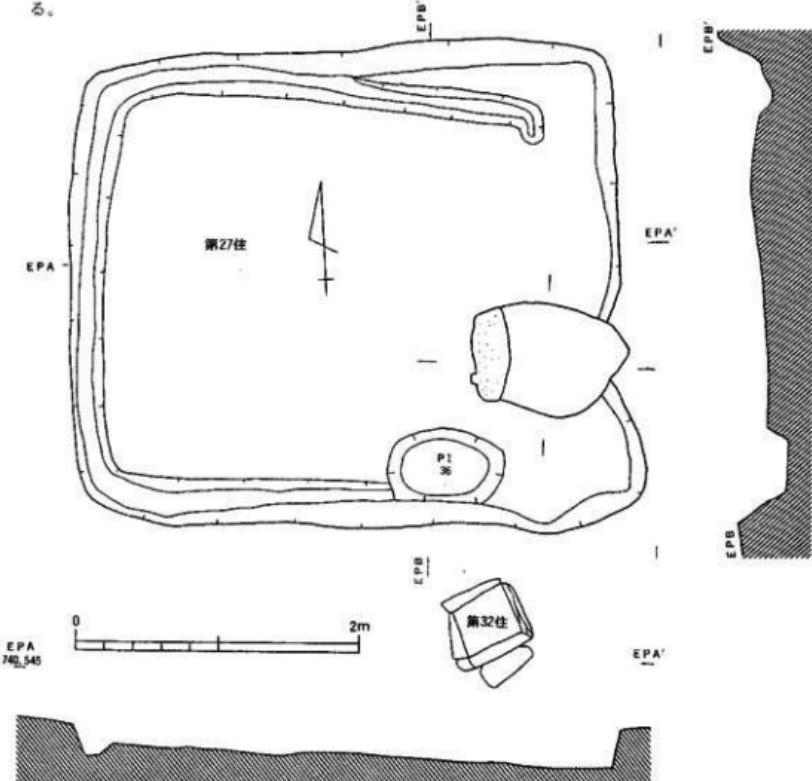
本住居址は第25号住居址より南へ2.3m離れた地点に位置し、プランは東西2.8m、南北2.9mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-10°-Eである。壁の状態は、北壁27cm、西壁24cm、南壁22cm、東壁20cmを測り、全体的に黒褐色土層を込んでつくられているため、あまり良好ではなかった。床面は黒褐色土を主体に、黄褐色土を用いておりあまり良好ではなかった。周溝は南壁と西壁の一部とカマド部分を除き存在する。周溝は壁から5~30cm離れた所に位置し幅10cm前後、深さ5cm前後を測る。カマドは東壁の南よりに構築されており、石組カマドである。全長76cm、幅90cmで袖石は右袖に1個、左袖に1個あり、燃焼には天井部に使われたと思われる半石が5個ほど見られる。燃焼部のほぼ中心部に支脚と思われる立石が1個存在する。



第25図 第26号住居址実測図(16)

### 第27号住居址

本住居址は第26号住居址より南西へ9m離れた地点に位置し、プランは東西3.8m、南北3.4mの隅丸方形を呈し、主軸方向をN-104°-Eである。壁の状態は、北壁32cm西壁15cm南壁11cm東壁27cmを測り、全体的に黄褐色土を切り込んでつくられているため、壁の立ち上がりは良好である。床面はロームを固めた床であり比較的良好であった。カマドは東壁の南よりに構築されており、石組カマドであり、遺存状態は良好であった。カマドの袖の状態は右袖には袖石が1個あり、それを補強する形で白色粘土を主体にした補強材が使われていた。左袖は破壊されており袖石が1個確認できた。焚口部には天井部に使われたと思われる横65cm、幅25cmの石が1個あり、燃焼部には7個ほど見られる。床面においてピットが1本あり長径80cm短径50cm深さ36cmを測る。周溝は東壁とカマド部を除いて全周しており幅10~15cm、深さ3~8cmを測る。



第26図 第27号住居址実測図(1/6)

### 第28号住居址

本住居址は第27号住居址より南西へ19m離れた地点に位置し、プランは東西6.4m、南北6.4mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-102°-Eである。壁の状態は、耕作等によって著しく削平されており、北壁62cm、西壁の高いところでは52cm、低いところでは22cm、南壁9cm、東壁の高いところでは34cm、低いところでは10cmを測る。北側は黄褐色土層を切り込んでつくられているが、南側は黒褐色土層を切り込んでいるため、北壁の立ち上りは良好であるが、南壁の立ち上りはやや不明瞭である。周溝はカマド部分と北西の角の一部を除き全周する。幅10cm前後、深さ3~5cmである。床面は住居址内の北側半分はロームを固めた床で良好であるが、南側半分は、黒褐色土であるためやや良好である。ピットは9本見られ、そのうちP<sub>1</sub>からP<sub>3</sub>までは住居址に伴うものと思われる。P<sub>1</sub>は直径40cm深さ33cm、P<sub>2</sub>は直径40cm深さ24cm、P<sub>3</sub>は直径40cm深さ33cm、P<sub>4</sub>は直径40cm深さ20cm、P<sub>5</sub>は直径50cm深さ5cm、P<sub>6</sub>は直径30cm深さ15cm、P<sub>7</sub>は直径30cm深さ12cm、P<sub>8</sub>は東西65cm南北55cm深さ20cm、P<sub>9</sub>は直径1.2m深さ36cmを測る。

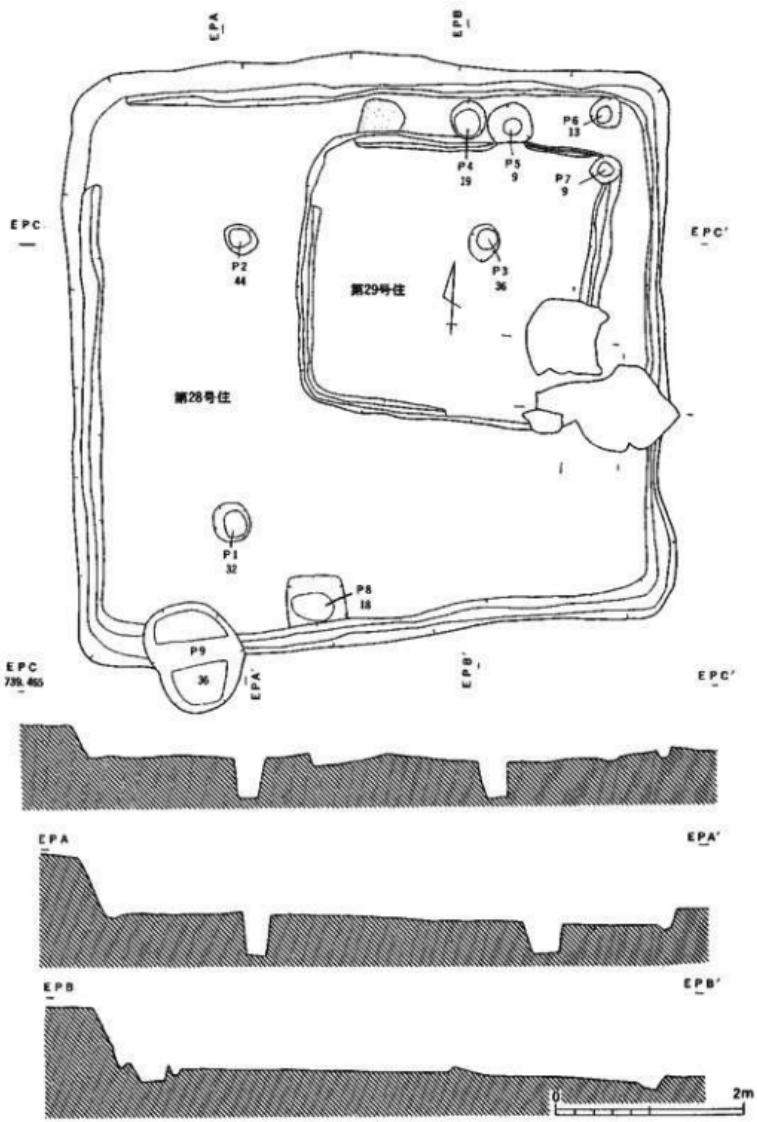
カマドは東壁の南よりに構築されており、石組カマドと思われ、右袖に袖石と思われる立石が1個あり、左袖には、袖石の掘り込みが見られる。焚口部には、天井部に使われていたと見られる平石が7個ほどあり、燃焼部にも天井部の石が5個ほどある。カマドの大きさは、全長1.4m幅93cmを測る。

### 第29号住居址

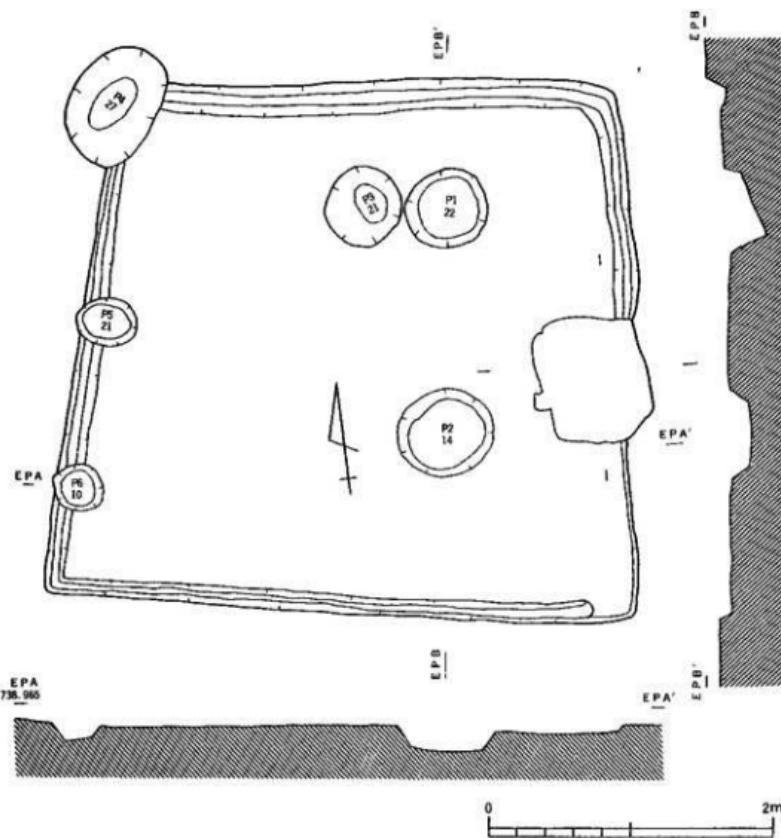
本住居址は第28号住居址を切り込んで存在するため、第28号住居址と同様に著しく削平されている。プランは東西3.3m南西3.1mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-106°-Eである。壁の状態は、北壁4cm西壁12cm南壁6cm東壁3cmを測る。床面はロームを固めた床であり、遺存状態は良好である。周溝はカマド部と南壁の東半分及び北西の角を除き壁直下を、幅5cm前後、深さ3cm前後で全周する。カマドは東壁の南よりに構築され、破壊されているが、石組カマドと思われる。袖と見られるところには、袖石の掘り込みと思われるピットが両袖にあり、燃焼部にはピットが存在し、全長72cm幅80cmを測る。

### 第30号住居址

本住居址は第28号住居址より東へ6m離れた地点に位置し、プランは東西4.0m、南北3.8mの隅丸方形を呈し、主軸方向はN-101°-Eである。壁の状態は、北壁12cm西壁1cm南壁8cm東壁6cmを測り、全体的にソフトローム面を掘り込んでいるため、床面は良好であった。周溝はカマド部と東壁のカマドより南側を除いて、幅5~10cm深さ4cm前後で壁直下を全周する。カマドは東壁のほぼ中央に構築されており、石組カマドであり、全長77cm幅78cmを測る。ピットは6本あり、P<sub>1</sub>は直径55cm深さ27cm、P<sub>2</sub>は直径70cm深さ16cm、P<sub>3</sub>は直径55cm深さ23cm、P<sub>4</sub>は長径85cm短径60cm深さ58cm、P<sub>5</sub>は直径40cm深さ20cm、P<sub>6</sub>は直径35cm深さ8cmを測る。



第27図 第28, 29号住居址実測図(3)



第28図 第30号住居址実測図(%)

#### 第31号住居址

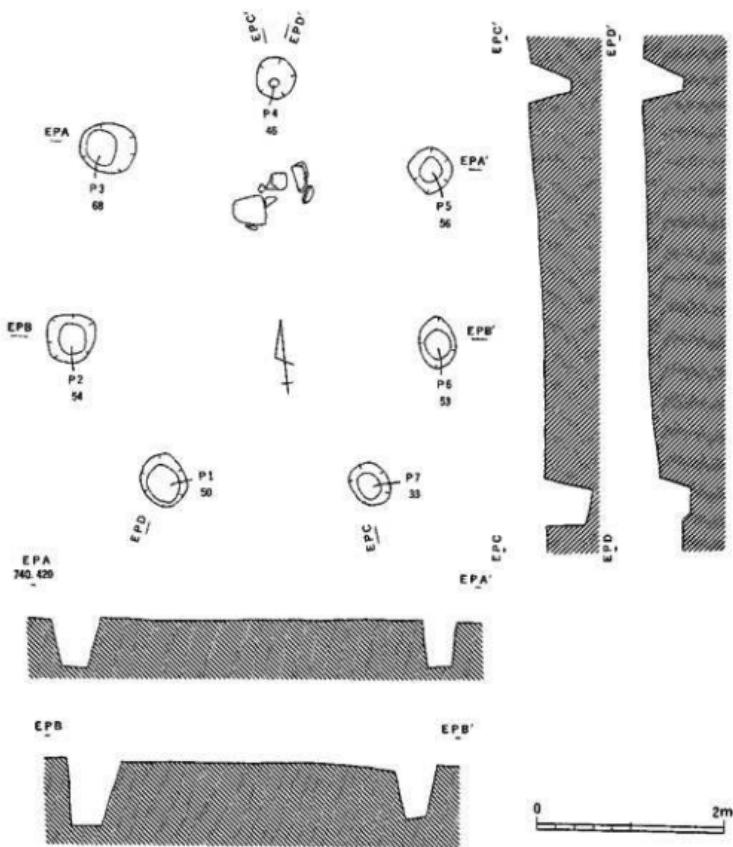
本住居址は第23号住居址より東へ4m離れた地点に位置している。遺構面を確認している段階で埋ガメが確認されたため、周辺部を精査したが、住居址の掘り込みは確認できなかった。

#### 第32号住居址

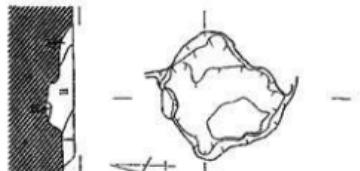
本住居址は第27号住居址より南へ50cm離れた地点に位置している。遺構面を確認する段階で南北50cm東西60cm深さ31cmの石圓炉が確認されたため、周辺部を精査したが、柱穴は確認できなかった。

### 第33号住居址（縄文中期）

本住居址は第28号住居址より北へ6m離れた地点に位置している。遺構面を確認する段階で柱穴が7本検出できた。その中心部からやや南よりに石窯と思われる遺構がある。 $P_1$ は直径50cm深さ50cm、 $P_2$ は直径55cm深さ53cm、 $P_3$ は直径60cm深さ68cm、 $P_4$ は直径40cm深さ44cm、 $P_5$ は直径45cm深さ55cm、 $P_6$ は直径50cm深さ50cm、 $P_7$ は直径50cm深さ30cmを測り、それぞれの隣合う柱の間は中心から中心まで2m前後である。

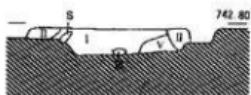


第29図 第31号住居址実測図 (2)



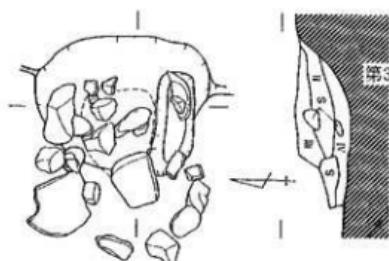
第30図 第1号住居址カマド

- I. 茶褐色土層（黄褐色土粒子を含む）
- II. 粘黄褐色土及び赤褐色土の混合土層（黒色土を含む）
- III. 赤褐色土層（焼成部焼土層）
- IV. 粘黄褐色（ハードローム層）
- V. 珐茶褐色土層（赤褐色土粒子を若干含む）



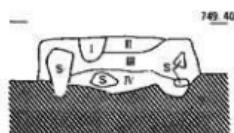
第31図 第2号住居址カマド

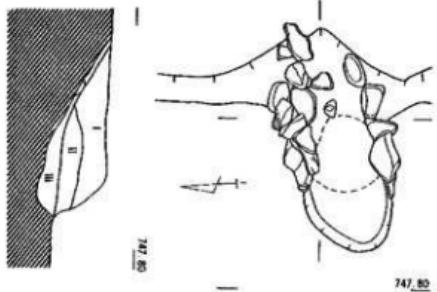
- I. 黑褐色土（黄色土粒及び微小な赤色土粒が混入）
- II. 黑褐色土（黄色土粒が散在）
- III. 棕褐色土
- IV. 黑褐色土（やや赤味が加っている）
- V. 黑褐色土（黑色粒が少量含む）
- VI. 黑色土（黄色粒が混入）



第32図 第3号住居址カマド

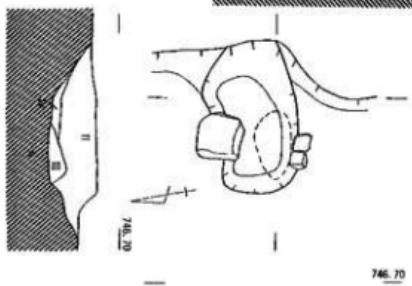
- I. 黑色土層（腐化物混入）
- II. 棕褐色土層
- III. 茶褐色土層（黄褐色土粒子を含む）
- IV. 茶褐色土層（黄褐色土粒子及び粘茶褐色土粒子を含む）





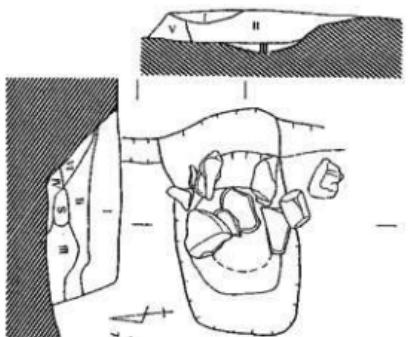
第33図 第4号住居址カマド

- I. 棕色土層
- II. 茶褐色土層（黄褐色土粒子を含む）
- III. 黄褐色土層（黄褐色土粒子及び緑赤褐色土粒子を多量に含む）



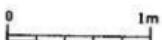
第34図 第5号住居址カマド

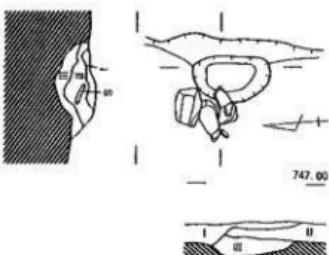
- I. 黒色土層
- II. 緑褐色土層（細かな焼土粒子を多量に含む）
- III. 緑黄褐色土層
- IV. 緑赤褐色土層
- V. 細土土及び黄褐色土の混合土層



第35図 第6号住居址カマド

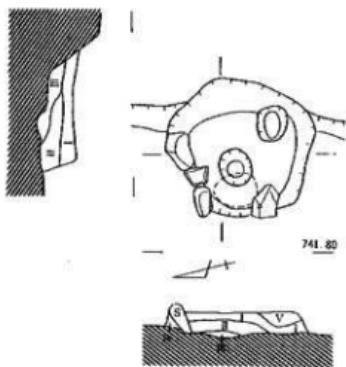
- I. 棕色土層
- II. 茶褐色土層（緑赤褐色土粒子及び黄褐色土粒子を若干含む）
- III. 茶褐色土層（緑赤褐色土粒子及び黄褐色土粒子を多量に含む）
- IV. 緑黄褐色土層
- V. 棕色土層（緑黄褐色土粒子をやや多く含む）
- VI. 茶褐色土層（黄褐色土ブロックを含む）





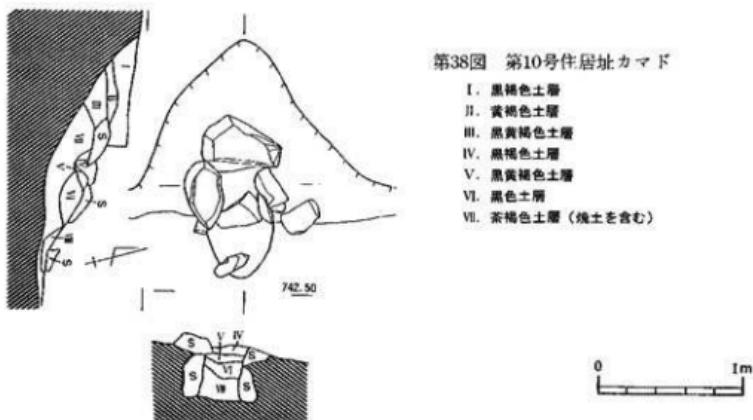
第36図 第8号住居址カマド

- I. 棕色土層（黄褐色土微粒子を多量に含む）
- II. 紫黃褐色土層（赤褐色土粒子を多量に含む）
- III. 棕色土層（褐及び砂質粒子を多量に含む）
- IV. 黄褐色土層（褐色土が若干混入する）
- V. 紫黃褐色土及び褐色土の混合土層



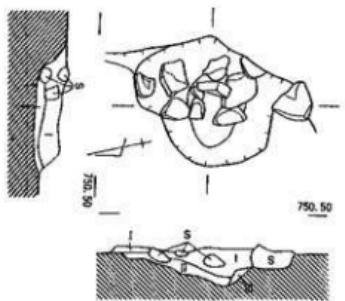
第37図 第9号住居址カマド

- I. 棕色土層（黄褐色土粒子を多量に含む）
- II. 黑褐色土層（黄褐色土粒子及び暗褐色土粒子を若干含む）
- III. 黑褐色土層（黄褐色土が若干混入する）
- IV. 茶褐色土層（黄褐色土微粒子を含む）
- V. 棕色土層（黄褐色土ブロックを含む）



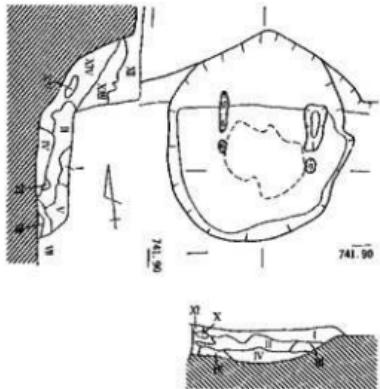
第38図 第10号住居址カマド

- I. 黑褐色土層
- II. 黄褐色土層
- III. 紫黃褐色土層
- IV. 黑褐色土層
- V. 黑黃褐色土層
- VI. 黑色土層
- VII. 茶褐色土層（焼土を含む）



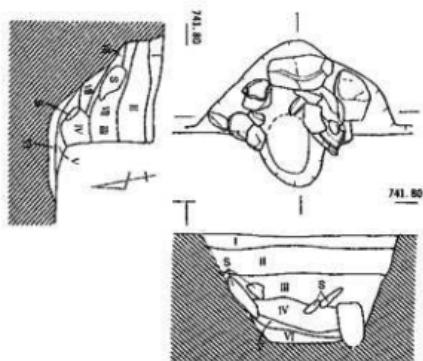
第39図 第11号住居址 カマド

- I. 黄褐色土層（黄褐色土粒子を多量に含む）
- II. 暗褐色土層
- III. 黄褐色土層（砂質灰白色土粒子が若干混入する）



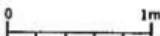
第40図 第12号住居址 カマド

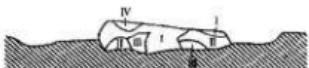
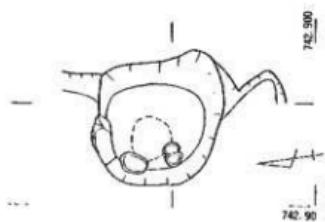
- I. 黄褐色土層（焼土をやや含む）
- II. 茶褐色土層（焼土を含む）
- III. 黄褐色土層（上層よりやや赤味がかっている）
- IV. 赤色土層（焼土）
- V. 黒色土層（褐色土が散在する）
- VI. 黑色土層
- VII. 茶褐色土層（褐色土が混入する）
- VIII. 棕褐色土層
- IX. 黄褐色土層（右端に焼土が在り）
- X. 茶褐色土層（焼土を含有）
- XI. 灰白色土層（粘土質）
- XII. 黑色土層
- XIII. 黒色土層（黄土を含む）
- XIV. 棕褐色土層（黄土が散在）
- XV. 茶褐色土層（焼土）



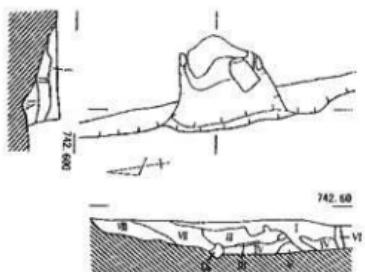
第41図 第13号住居址 カマド

- I. 黑色土層
- II. 増褐色土層（黄褐色土粒子を若干含む）
- III. 暗褐色土層（淡黄褐色土ブロックを含む）
- IV. 黑褐色土層（赤褐色土粒子及び暗黄褐色土粒子を若干含む）
- V. 暗黄褐色土層（褐色土が若干混入する）
- VI. 赤褐色土層（焼成部強土層）
- VII. 黄褐色土層（ソフトローム層）
- VIII. 黑色土層
- IX. 黄褐色土層



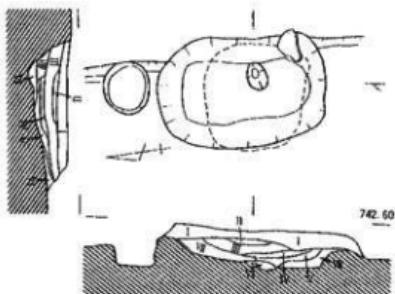


- 第42図 第14号住居址 カマド
- I. 棕色土層（黄褐色土粒子及び暗褐色土粒子を若干含む）
  - II. 棕色土層（灰白色土粒子及び黄褐色土粒子をやや多く含む）
  - III. 明褐色土層（明赤褐色土粒子を多量に含む）
  - IV. 黄褐色土層
  - V. 暗黃褐色土層
  - VI. 緑黃褐色土層（赤褐色土粒子をやや含む）



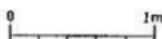
第43図 第15号住居址 カマド

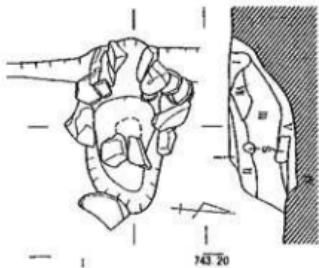
- I. 黒色土層
- II. 黄褐色土層（多量の黄色土粒（微小な）が散在）
- III. 赤色土層（純土から成る）
- IV. 黒色土層（黄色土粒が混入）
- V. 棕色土層（黄色土粒、黒色土粒が散在）
- VI. 黑色土層（黄色土粒、赤色土粒が散在する）
- VII. 黄色土層（黑色土が混入）
- IX. 棕色土層



第44図 第16号住居址 カマド

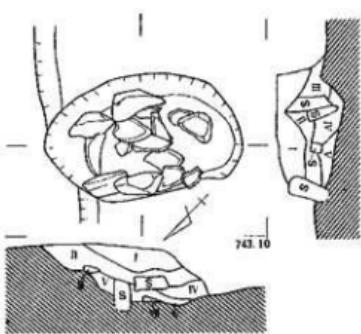
- I. 暗褐色土層（赤褐色土粒子が若干混入する）
- II. 明赤褐色土層
- III. 暗赤褐色土及び褐色土の混合土層
- IV. 赤褐色土及び黄褐色土の混合土層
- V. 明赤褐色土層（茶褐色土を若干含む）
- VI. 黑色土層
- VII. 棕色土層（黄褐色土ブロック及び粒子を若干含む）





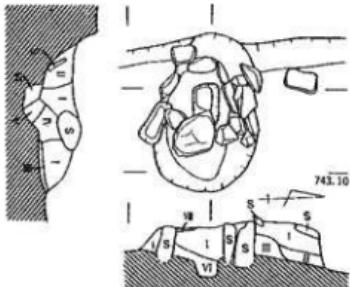
第45図 第17号住居址 カマド

- I. 黒色土層
- II. 明褐色土層（黄褐色土粒子を若干含む）
- III. 褐色土層（赤褐色土粒子を多量に含む）
- IV. 暗褐色土及び黑色土の混合土層  
（暗赤褐色土粒子を若干含む）
- V. 暗赤褐色土層（焼成部焼土層）
- VI. 黑色土層（I層に比べて粒子が細かく粘性が弱い）
- VII. 暗褐色土層（黑色土をやや多く含み、また灰白色粒子を若干含む）



第46図 第19号住居址 カマド

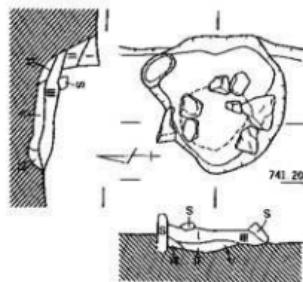
- I. 棕色土層（培養褐色土粒子を含む）
- II. 暗黃褐色土層
- III. 明褐色土層（黄褐色土の小ブロックを多量に含む）
- IV. 明褐色土層（黄褐色土粒子を多量に含む）
- V. 棕色土層（暗赤褐色土粒子を若干含む）
- VI. 欽紫黃褐色土層
- VII. 赤褐色層（焼土層）



第47図 第20号住居址 カマド

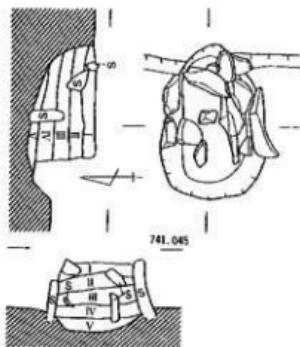
- I. 明褐色土層（黄褐色土粒子を若干含む）
- II. 棕色土層（黄褐色土粒子及び黄色土をブロックで含む）
- III. 灰白色粘土層（カマドの袖部分を形成する土）
- IV. 棕色土層（黄褐色土粒子と焼土粒子を含む）
- V. 明褐色土層（黄褐色土粒子と焼土粒子を含む）
- VI. 暗褐色土層（黄褐色土粒子及び焼土粒子及び炭化物を含む）
- VII. 黑色土層





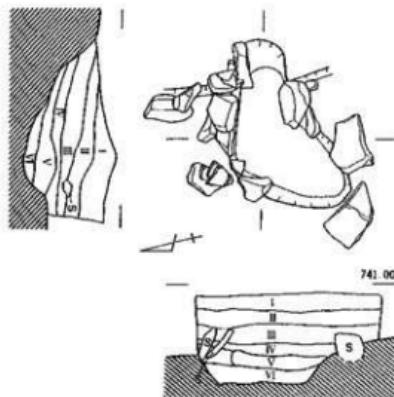
第48図 第22号住居址カマド

- I. 黒褐色土層（ローム粒子を含む）
- II. 黒褐色土層（ローム粒子、炭化物を含む）
- III. 灰褐色土層（白色粘土、炭化物焼土を多く含む）
- IV. 明褐色土層（白色粘土、焼土を多く含む）
- V. 焼土層
- VI. 灰褐色土層（炭化物、焼土を含む）
- VII. 灰褐色土層（多くの焼土を含む）



第49図 第23号住居址カマド

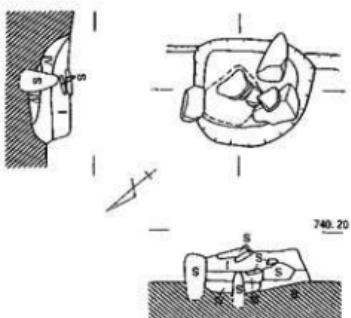
- I. 黒褐色土層（ローム粒、炭化物を含む）
- II. 黑褐色土層（ローム粒、焼土、炭化物を含む）
- III. 黑褐色土層（ローム粒、焼土を多く含む）
- IV. 黑褐色土層（ロームブロック、焼土ブロックを含む）
- V. 赤褐色土層（焼土層）



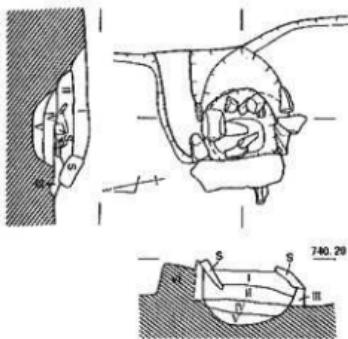
第50図 第24号住居址カマド

- I. 黒褐色土層（少量の焼土を含む）
- II. 黑褐色土層（炭化物、焼土、ローム粒子を含む）
- III. 黑褐色土層（炭化物、焼土を多く含む）
- IV. 明褐色土層（焼土、ロームを多く含む）
- V. 明褐色土層（焼土ブロック、炭化物を多く含む）
- VI. 焼土層
- VII. 明褐色土層（ロームブロック、焼土を多く含む）

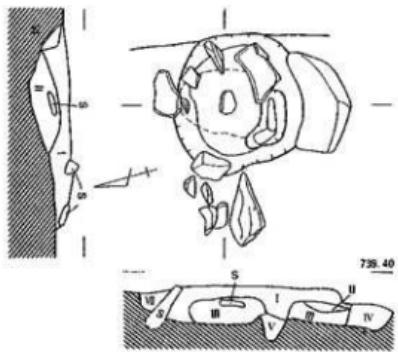




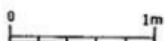
第51図 第26号住居址カマド  
 I. 黒褐色粘土層（黄色土と焼土を粒で含む）  
 II. 黒褐色粘土層（黄色土をブロックで含む）  
 III. 焼土層  
 IV. 黒褐色粘土層（黄色土と粘土を粒で含み第I層よりしまっている）

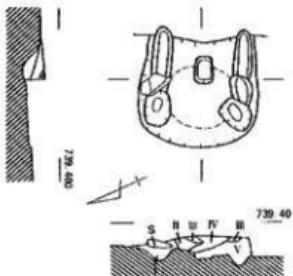


第52図 第27号住居址カマド  
 I. 棕褐色粘土層（黄色土を粒子で含む）  
 II. 棕褐色粘土層（黄色土及び焼土を含む）  
 III. 棕褐色粘土層（黄色土をブロックで含む）  
 IV. 焼土層  
 V. 黄褐色ローム（比熱を受けている）  
 VI. 黑褐色粘土層〔袖〕（黄色土及び灰白色粘土を含んでいる）



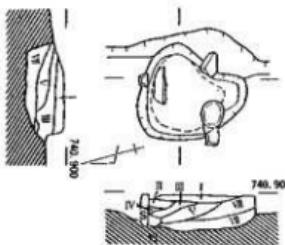
第53図 第28号住居址カマド  
 I. 黑褐色粘土層（黄色土及び焼土を粒で含む）  
 II. 灰色粘土層〔袖〕（黄色土を粒で含む）  
 III. 焼土  
 IV. 灰黑色粘土層（黄色土及び焼土をブロック状で含む）  
 V. 灰色粘土層（焼土を粒子で含む）  
 VI. 黑黄色粘土層（黄色土を含む）  
 VII. 黑褐色粘土層（黄色土を若干含むが焼土粒は含まない）





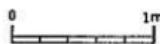
第54図 第29号住居址カマド

- I. 黒灰色粘土層（黄色土の粒子を若干含む）
- II. 黒褐色粘土層（黄色土及び焼土を含む）
- III. 反褐色粘土層
- IV. 黑褐色粒土層
- V. 黑褐色粒土層



第55図 第30号住居址カマド

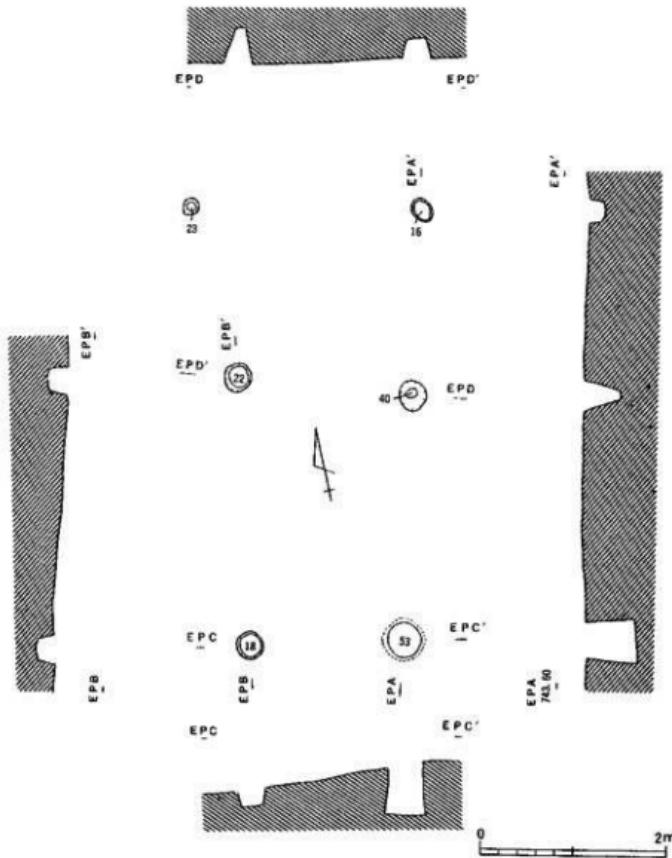
- I. 黑褐色土層（ローム、炭化物を含む）
- II. 黑褐色土層（ローム、炭化物、焼土を含む）
- III. 黑色土層（炭化物、焼土を多く含む）
- IV. 黑色土層
- V. 焼土層
- VI. 明褐色土層（焼土、ロームブロックを含む）
- VII. 黑褐色土層（白色粘土、ロームブロックを含む）
- VIII. 黑褐色土層（焼土、炭化物、白色粘土、ロームを多く含む）



## 2. 掘立柱建物址

### 第1号掘立柱建物址

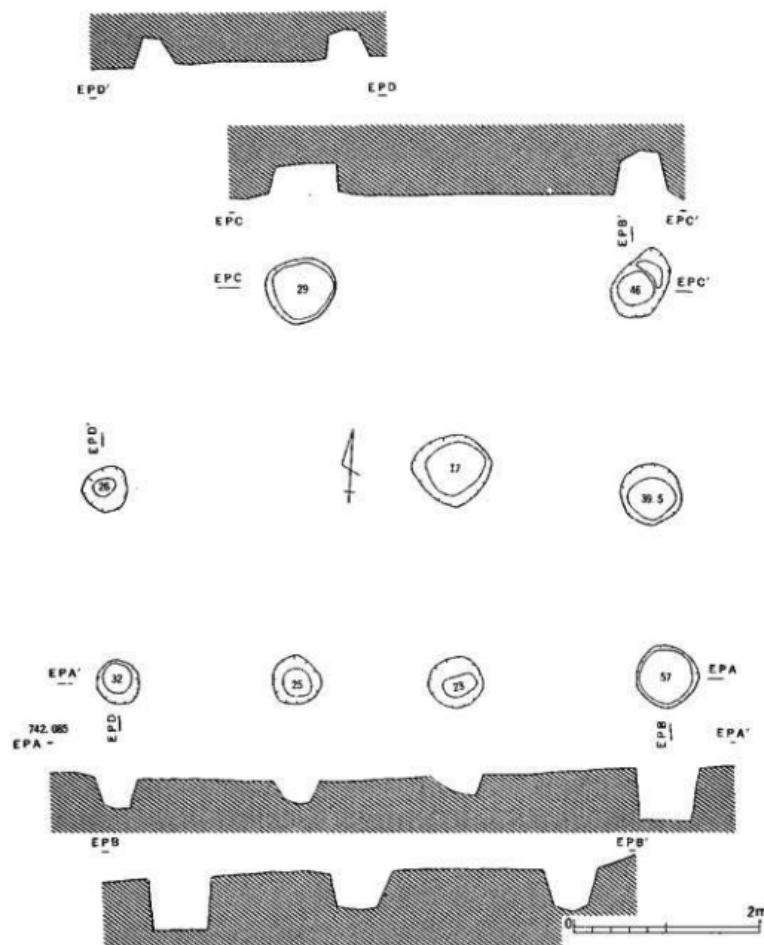
本建物址は第21号住居址より西へ1m離れた地点に位置し、東西1間(2m)×南北2間(4.8m)の掘立柱建物址であり、主軸方向はN-11°-Eである。柱間寸法は梁行2.8m、桁行1.6mで、柱穴は直径18~35cm、深さは確認面から15~60cmを測り円形を呈する。



第56図 第1号掘立柱建物址実測図(56)

### 第2号掘立柱建物址

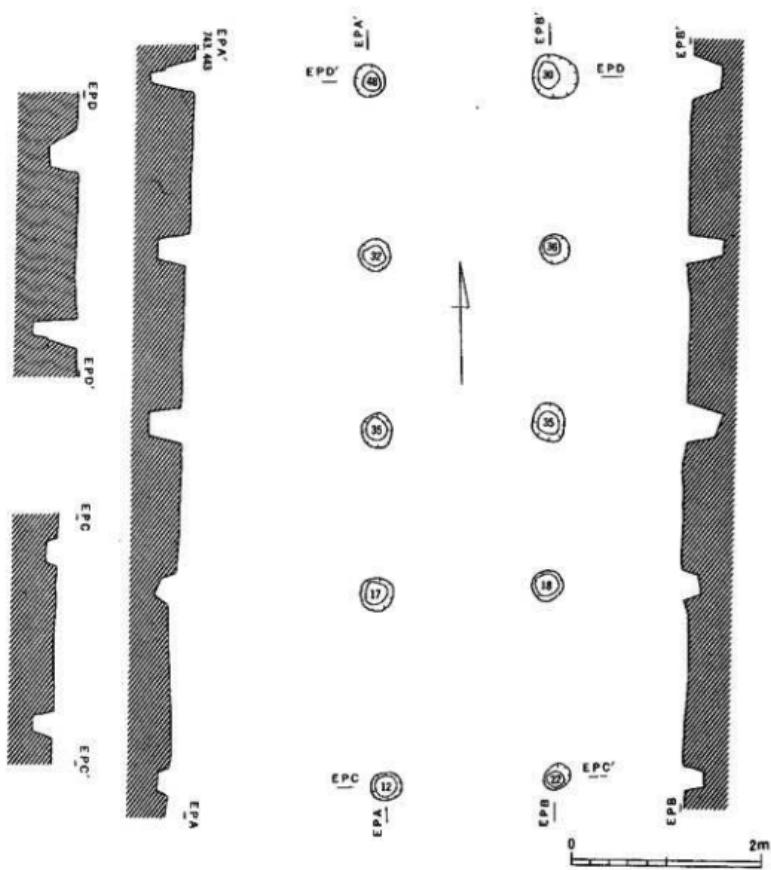
本建物址は第21号住居址より南西へ5m離れた地点に位置し、東西3間(6.5m)×南北2間(5m)の掘立柱建物址であり、主軸方向はN-90°-Eである。柱間寸法は深行2.8m、桁行1.8~2mで、柱穴は直径50~60cm、深さは確認面から30~50cmを測り、円形を呈する。



第57図 第2号掘立柱建物址実測図(36)

### 第3号掘立柱建物址

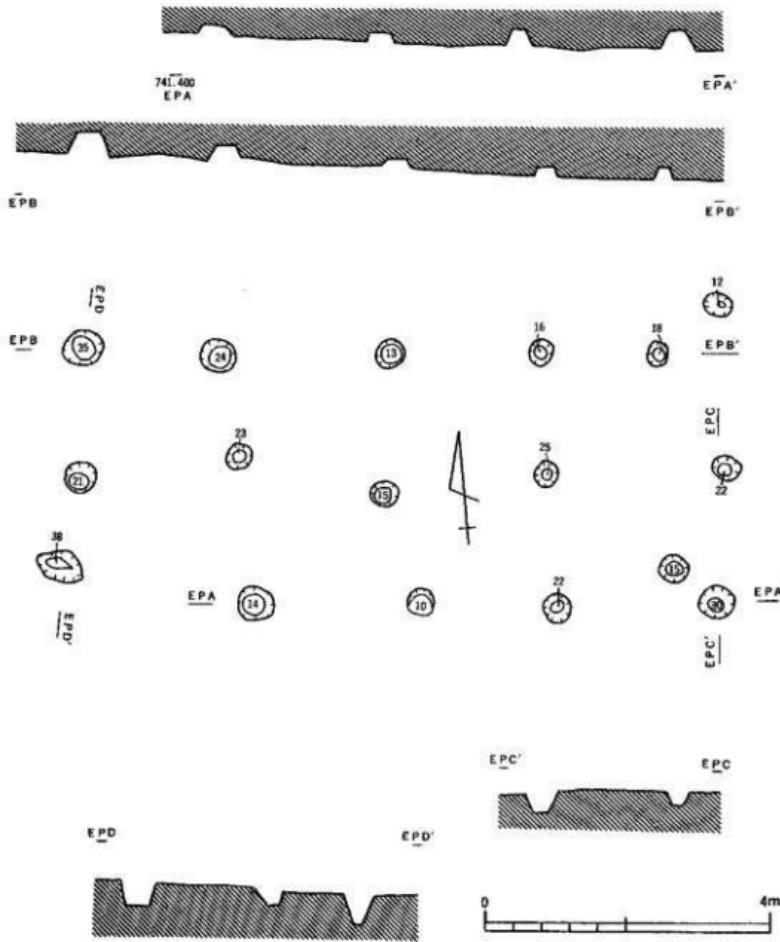
本建物址は第19号住居址より西へ3m離れた地点に位置し、東西1間(2m)×南北4間(7.8m)の掘立柱建物址であり、主軸方向はN-5°-Eである。柱間寸法は深行1.8m、桁行1.8~2mで、柱穴は直径30cm前後、深さは確認面から40cm前後を測り、円形を呈する。



第58図 第3号掘立柱建物址実測図(2)

#### 第4号掘立柱建物址

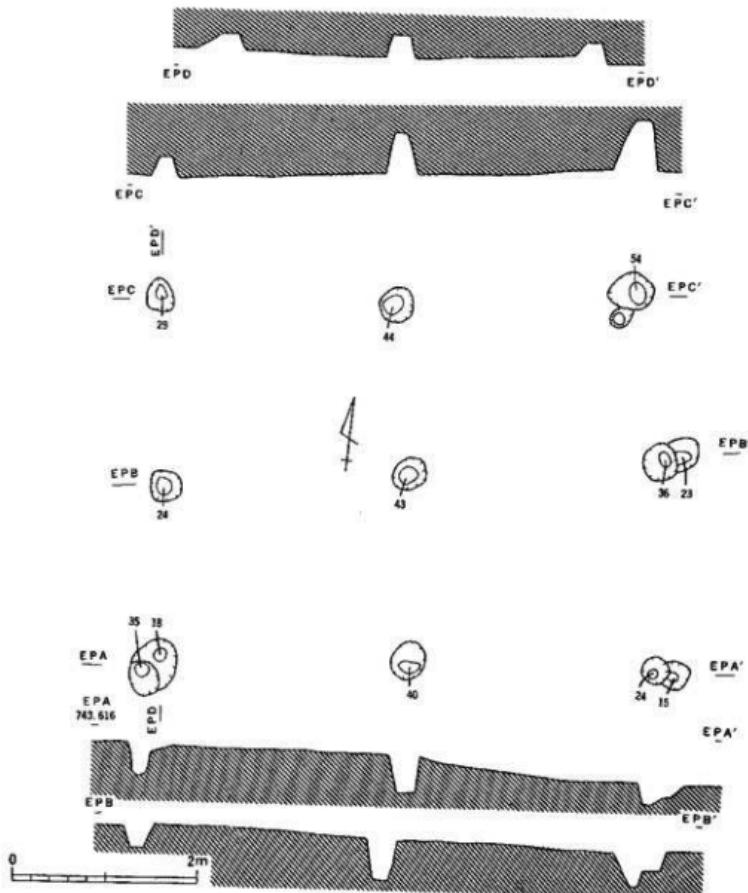
本建物址は第16号住居址より南西へ16m離れた地点に位置し、東西4間(9.5m)×南北2間(3.7m)の掘立柱建物址であり、主軸方向はN-94°-Eである。柱間寸法は深行2~2.3m桁行1.8mで、柱穴は直径30~35cm、深さは確認面より10~40cmを測り、円形を呈する。



第59図 第4号掘立柱建物址実測図(3)

### 第5号掘立柱建物址

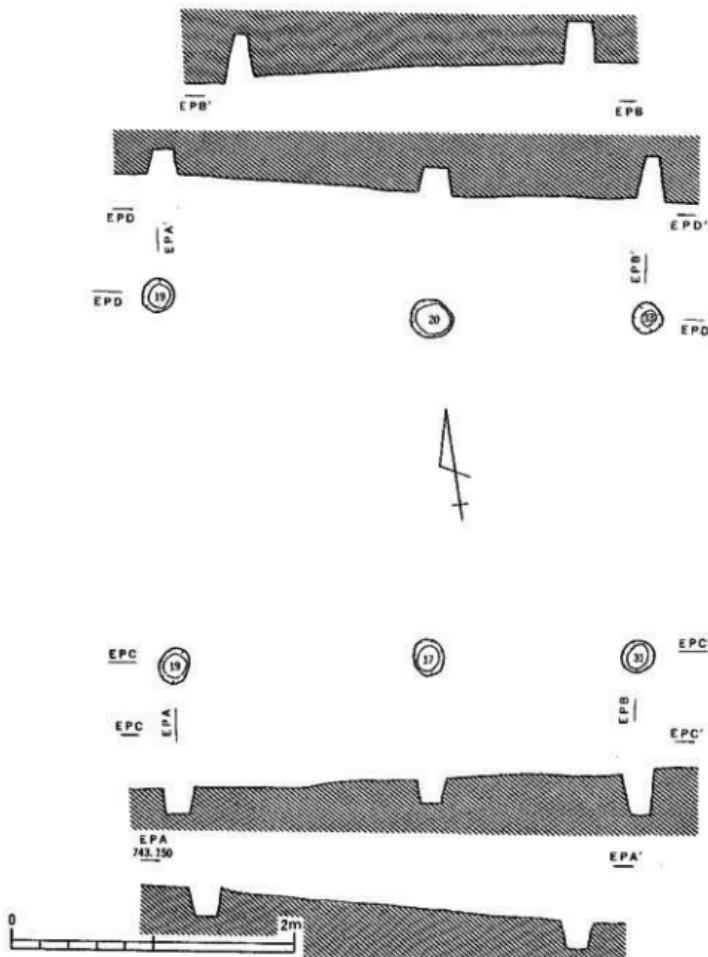
本建物址は第15号住居址と第16号住居址を切り込んでつくられており東西3間(6m)×南北3間(4.4m)の掘立柱建物址であり、主軸方向はN-12°-Eである。柱間寸法は深行1.8~2m、桁行2~2.5mで、柱穴は直径30~40cm、深さは確認面から20~50cmを測り、柱穴の掘り方は円形及び楕円形を呈し、ややひずんだ形態をもつ柱穴が多い。東の柱穴列に建て替えが認められる。



第60図 第5号掘立柱建物址実測図(3)

### 第6号掘立柱建物址

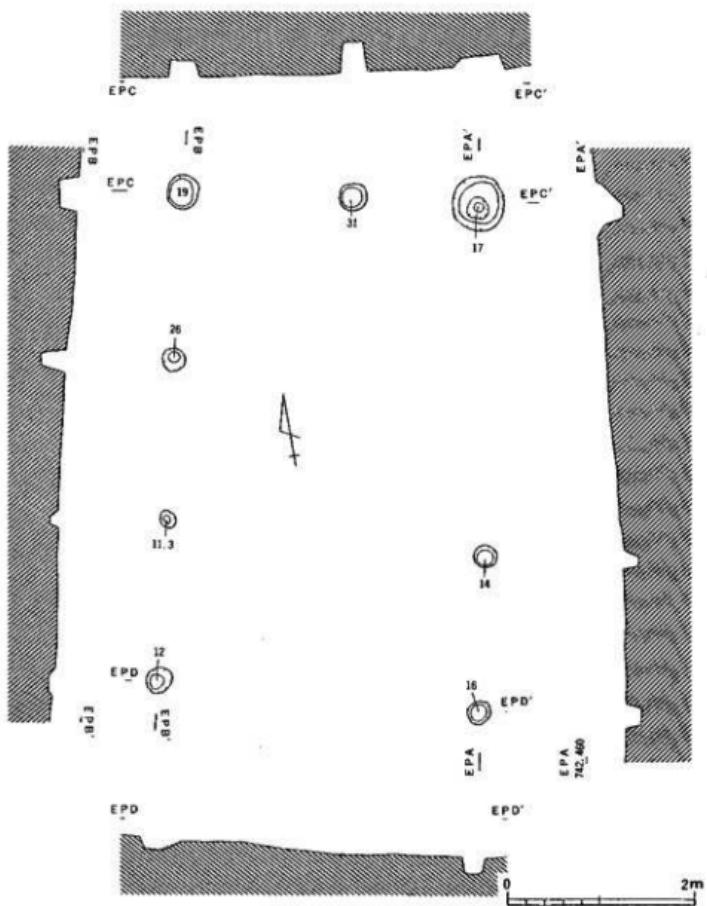
本建物址は第21号住居址から南西へ3m離れた地点に位置し、東西2間(3.7m)×南北1間(2.8m)の掘立柱建物址であり、主軸方向はN-100°-Eである。柱間寸法は深行 1.8~2m、桁行 2.5mで、柱穴は直径20cm前後、深さは確認面から20cm前後を測り、円形を呈する。



第61図 第6号掘立柱建物址実測図 (16)

### 第7号掘立柱建物址

本建物址は第20号住居址より南西へ14m離れた地点に位置し、東西2間(3.6m)×南北3間(5.6m)の掘立柱建物址であり、主軸方向はほぼ磁北方向である。柱間寸法は深行1.8m、桁行1.4~1.8mで、柱穴は直径20~60cm、深さは確認面から15~30cmを測り、円形を呈する。



第62図 第7号掘立柱建物址実測図(1a)

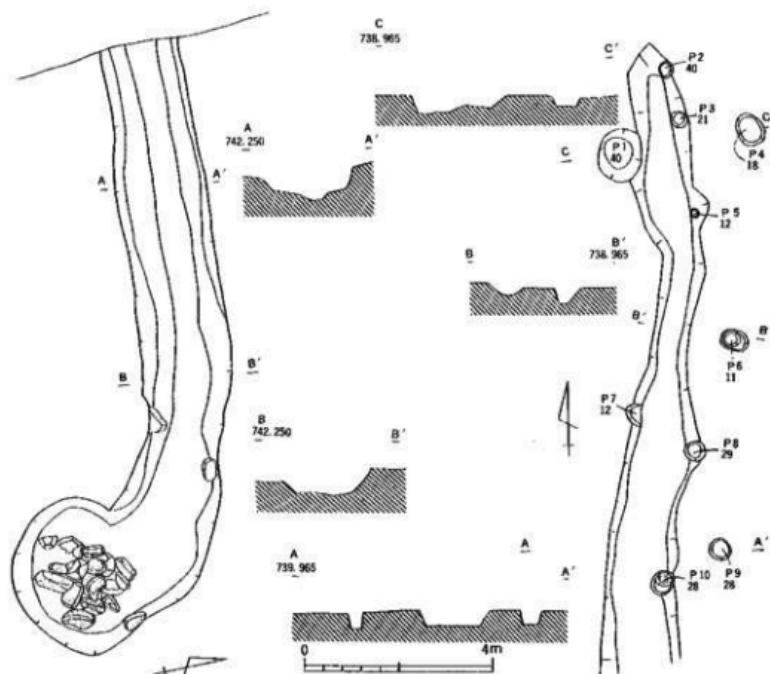
### 3. 溝状遺構

#### 第1号溝状遺構

第20号住居址の東に位置し、西から東に流れをもつ溝である。幅40~50cm、深さは確認面から20~30cm前後を測る。断面はU字状を呈しており、東端には集石の土壙が見られ、溝との関係は不明である。

#### 第2号溝状遺構

第28号住居址と第30号住居址にはさまれた地点に位置し、北から南に流れをもつ溝であり、幅50~80cm、深さは確認面から30~50cm前後を測り、断面はU字状を呈しており南端部は耕作等によって破壊されており不明である。この溝の中および溝によって切られているピットより鉄滓が出土している。



第63図 第1号溝状遺構実測図

第64図 第2号溝状遺構実測図

#### 4. 土 塚

遺跡内において160基検出されている。土壤はローム層を掘り込んでつくられており、土壤が単独では検出されず約10~20基が1つの単位で、形態上から次のように区分することができる。

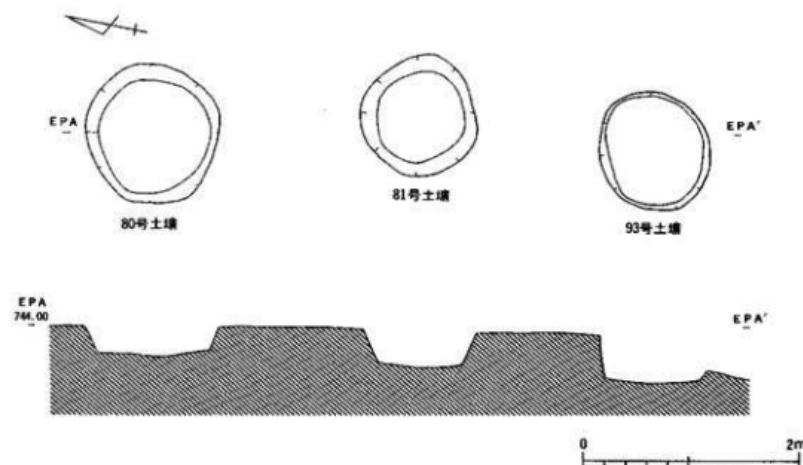
**第1類** —— 形態的には円形を呈し、壁の立ち上りは垂直に近い立ち上りをしめし、底は平坦である。直径1.2m前後、深さは10~60cm前後を測る。

**第2類** —— 形態的には長方形あるいは長楕円形を呈し、壁の立ち上りは垂直に近い立ち上りをしめし、底は平坦である。縦2m前後、横1m前後、深さは20~50cm前後を測る。

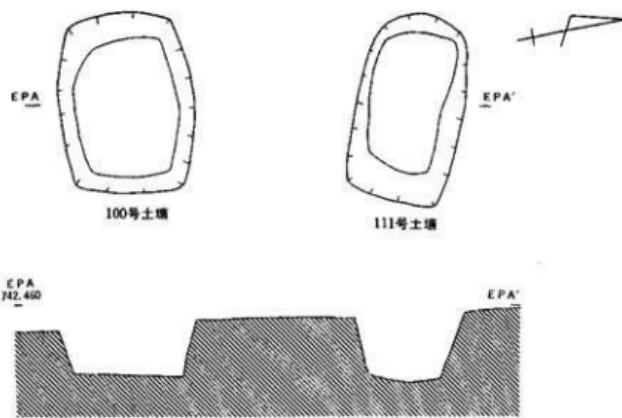
**第3類** —— 形態的には円形を呈し、壁の立ち上りはゆるやかなカーブを描き、底は平坦であり、覆土中に集石が見られる。直径1m前後、深さは30~50cm前後である。

**第4類** —— 形態的には長方形及び長楕円形を呈し、壁の立ち上りは垂直に近い立ち上りをしめし、底は平坦である。縦2.2m、横1.5m、深さは80cmを測り、覆土中に集石が見られる。

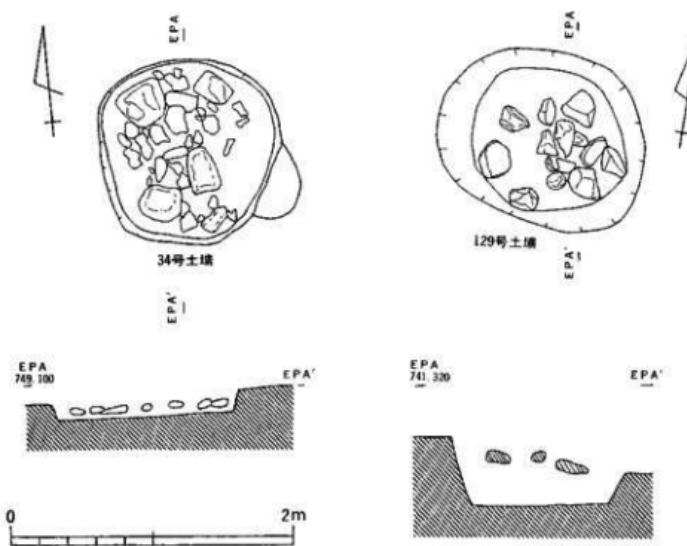
**第5類** —— 形態的には不定形をしめし、壁の立ち上りはゆるやかであり、底は平坦であり、深さは10~30cm前後を測る。覆土中より集石が見られ、第45号土壤より砾石が1個出土している。



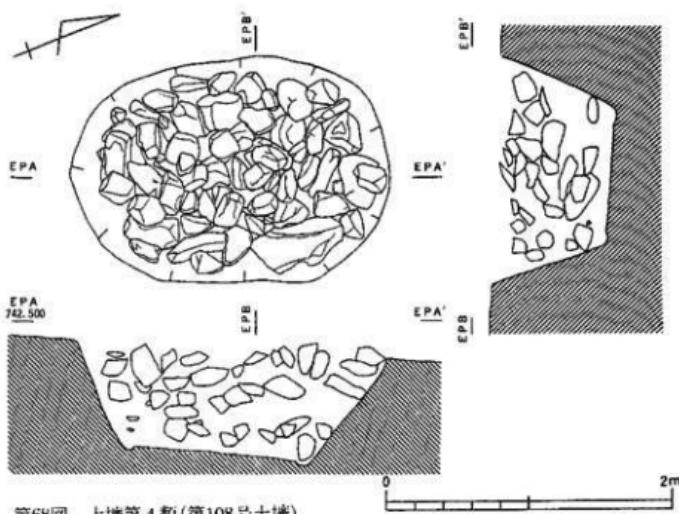
第65図 土塚 第1類 (第80・81・93号土塚)



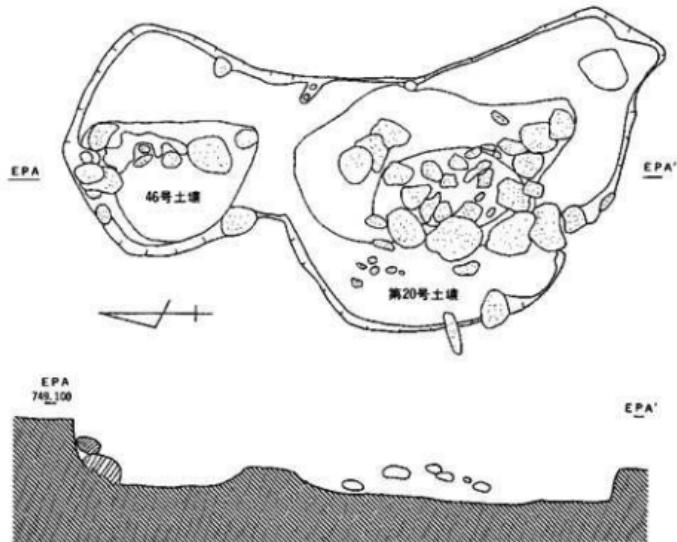
第66図 土壌第2類(第100・111号土壤)



第67図 土壌第3類(第34・129号土壤)



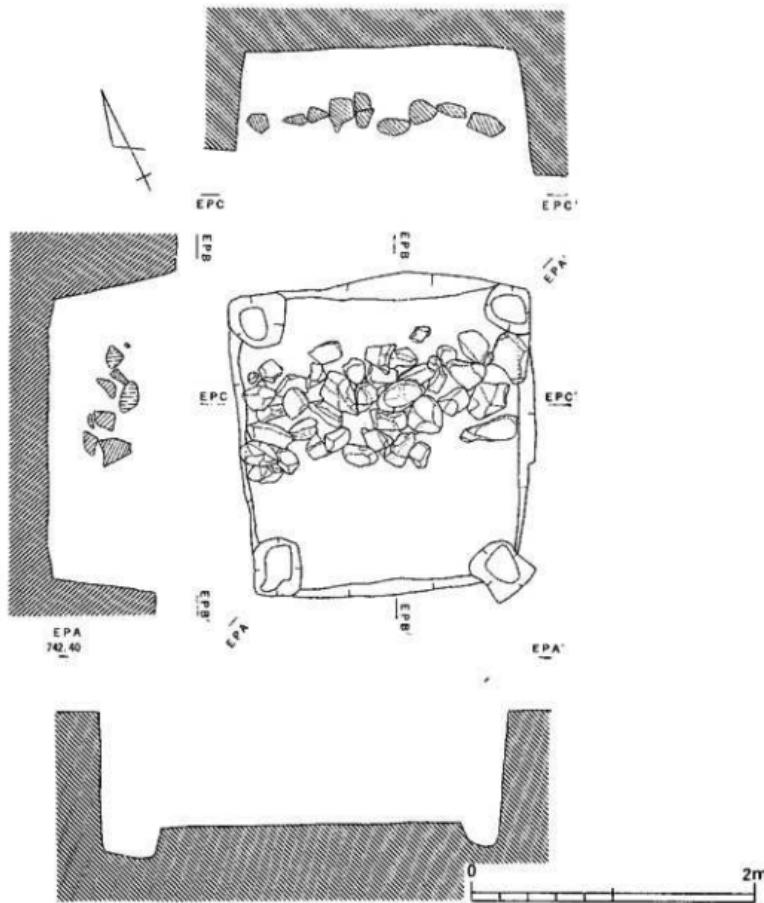
第68図 上壤第4類(第108号土壤)



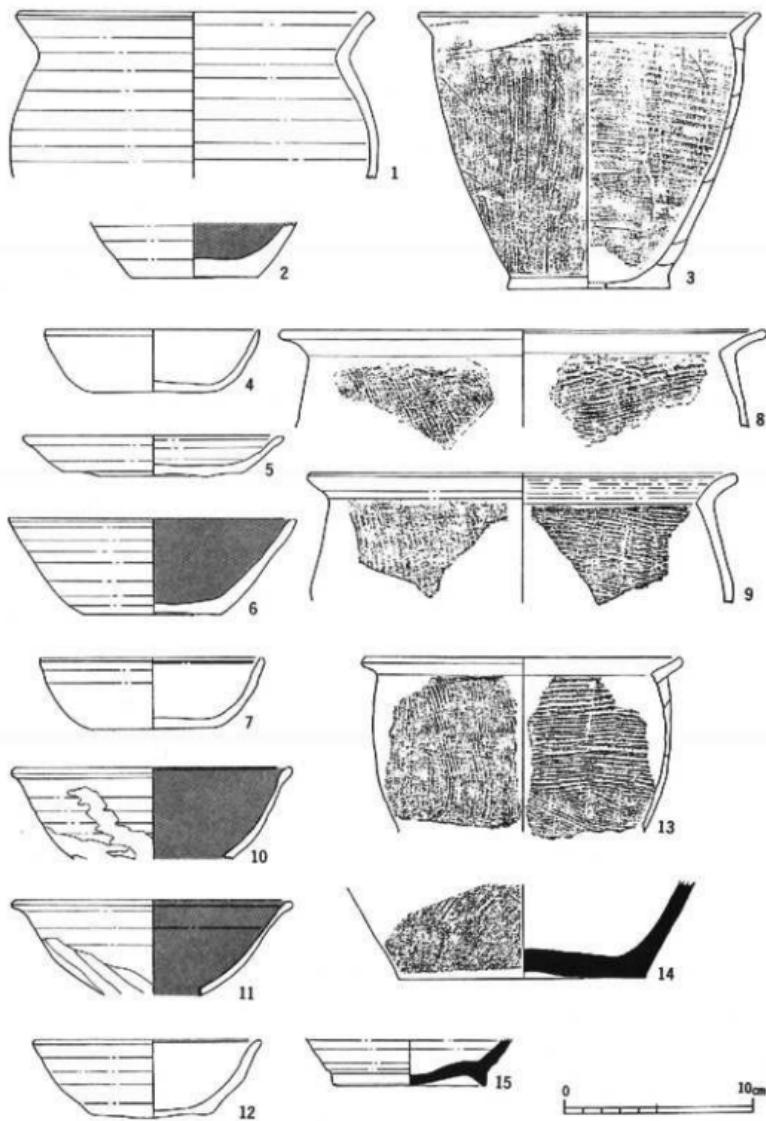
第69図 土壤第5類(第46・20号土壤)

## 5. その他の

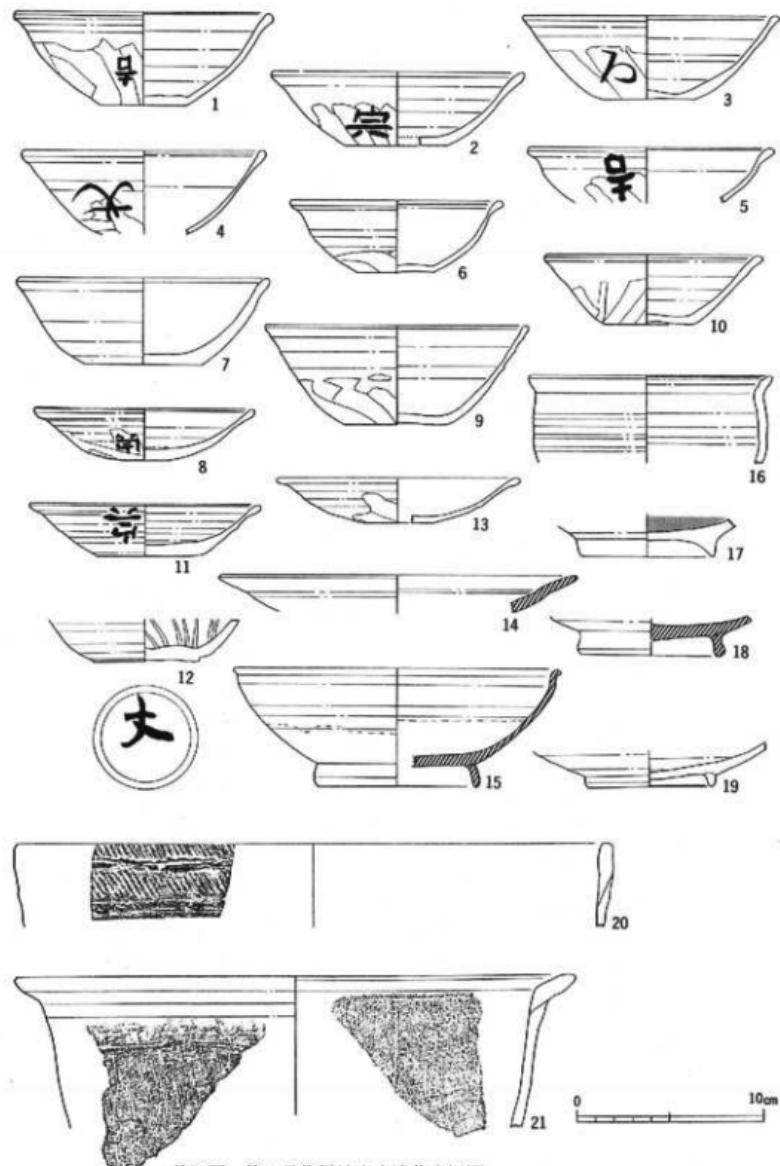
第20号住居址より南西へ9m離れた地点に位置し、プランは東西2.1m、南北2.1mの方形を呈し、造構内覆土中に集石が見られる。造構の深さは確認面より60cmを測り四つの隅に壁柱穴が掘り込まれている。



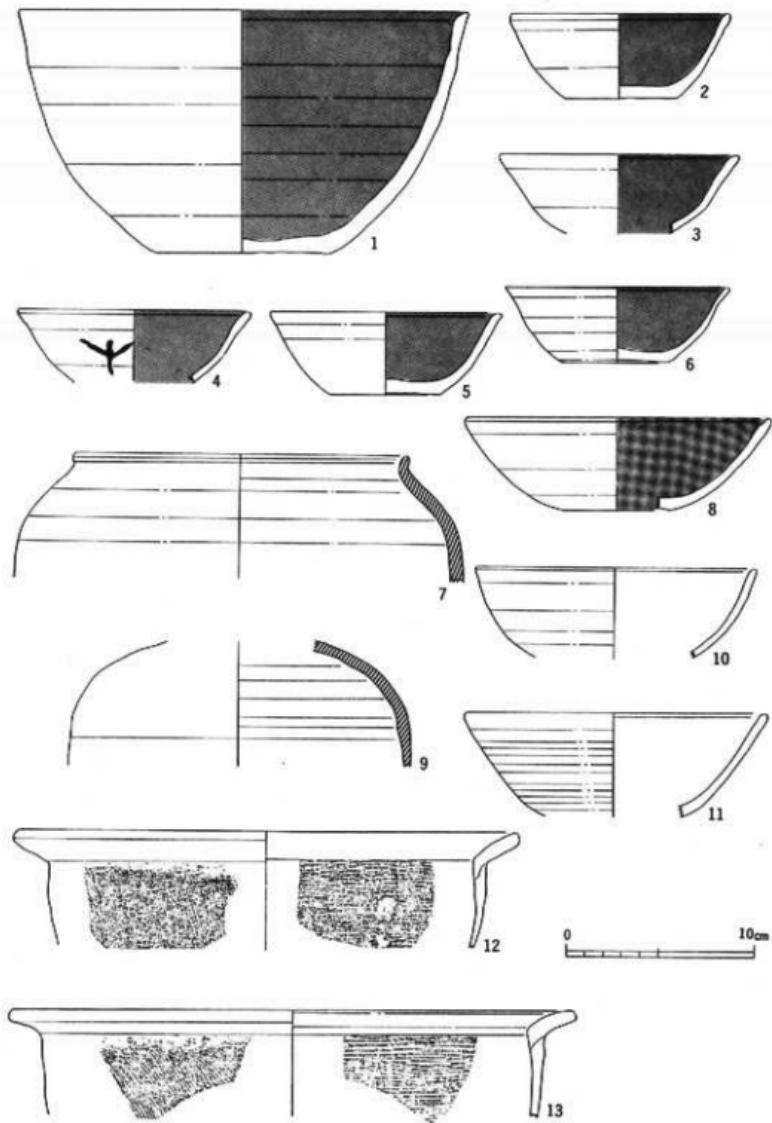
第70図 壁柱穴を伴う造構実測図



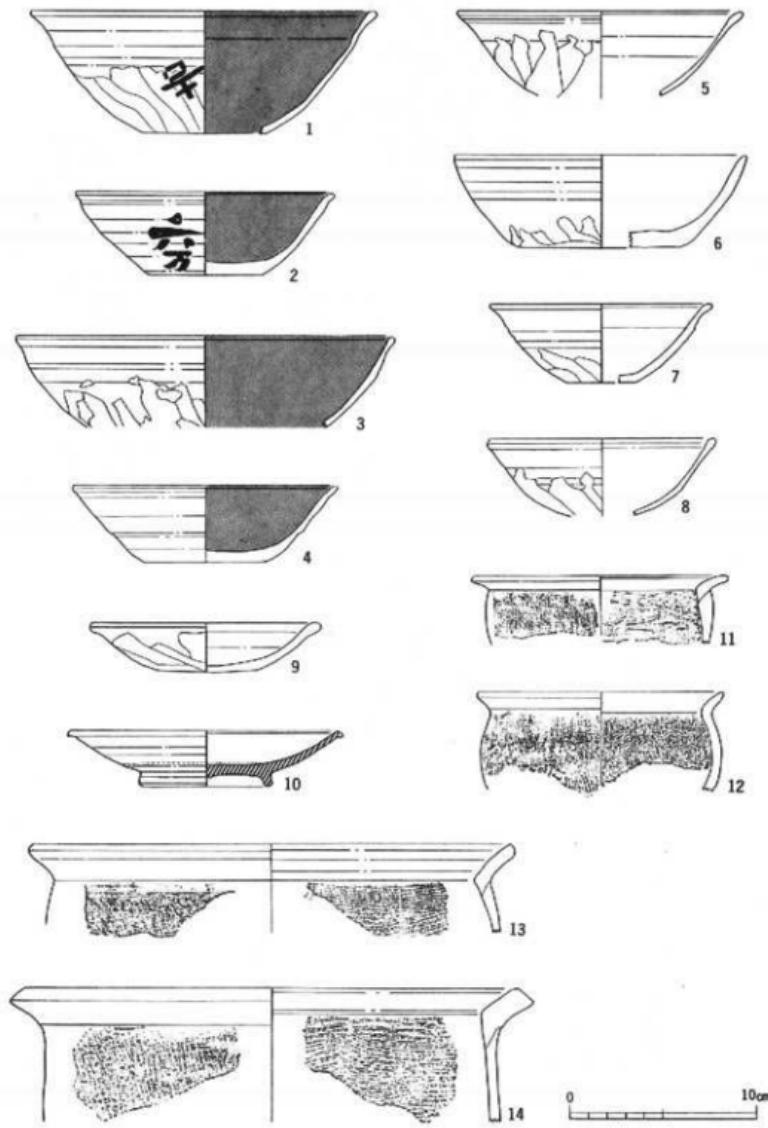
第71図 第1号住居址(1,2) 第2号住居址(3~6) 第3号住居址(7~9)  
第4号住居址(10~15) 出出土器実測図



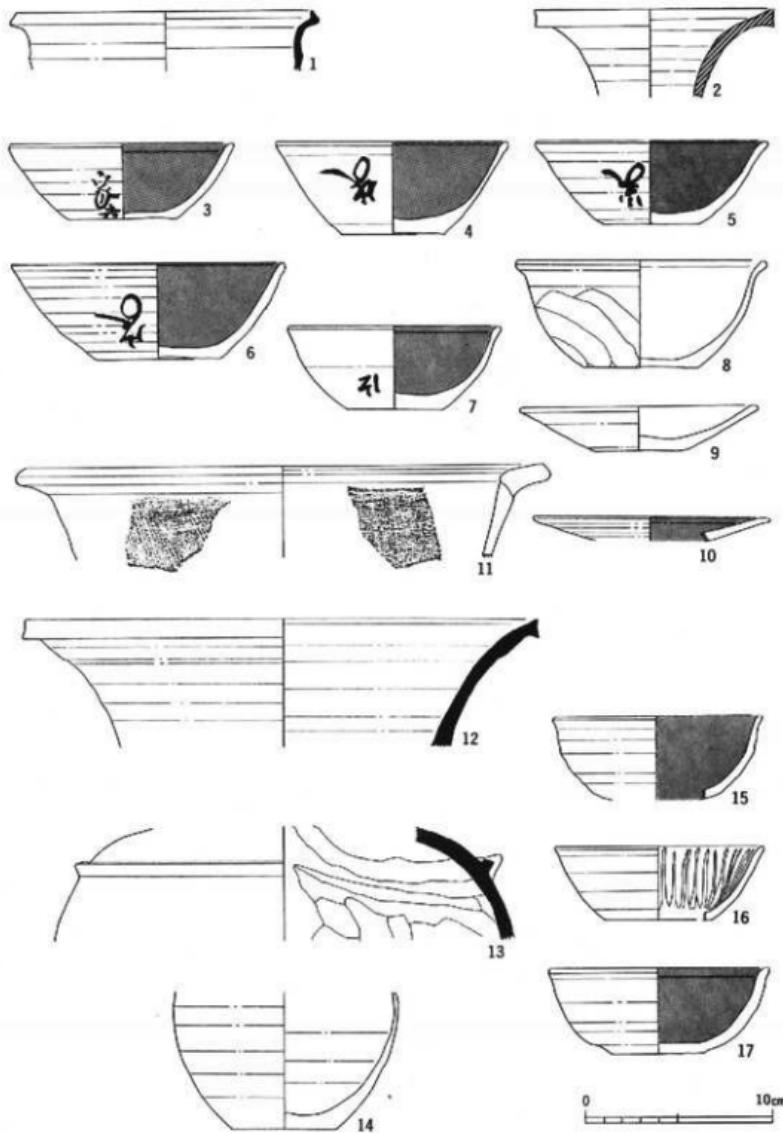
第72図 第4号住居址出土遺物実測図



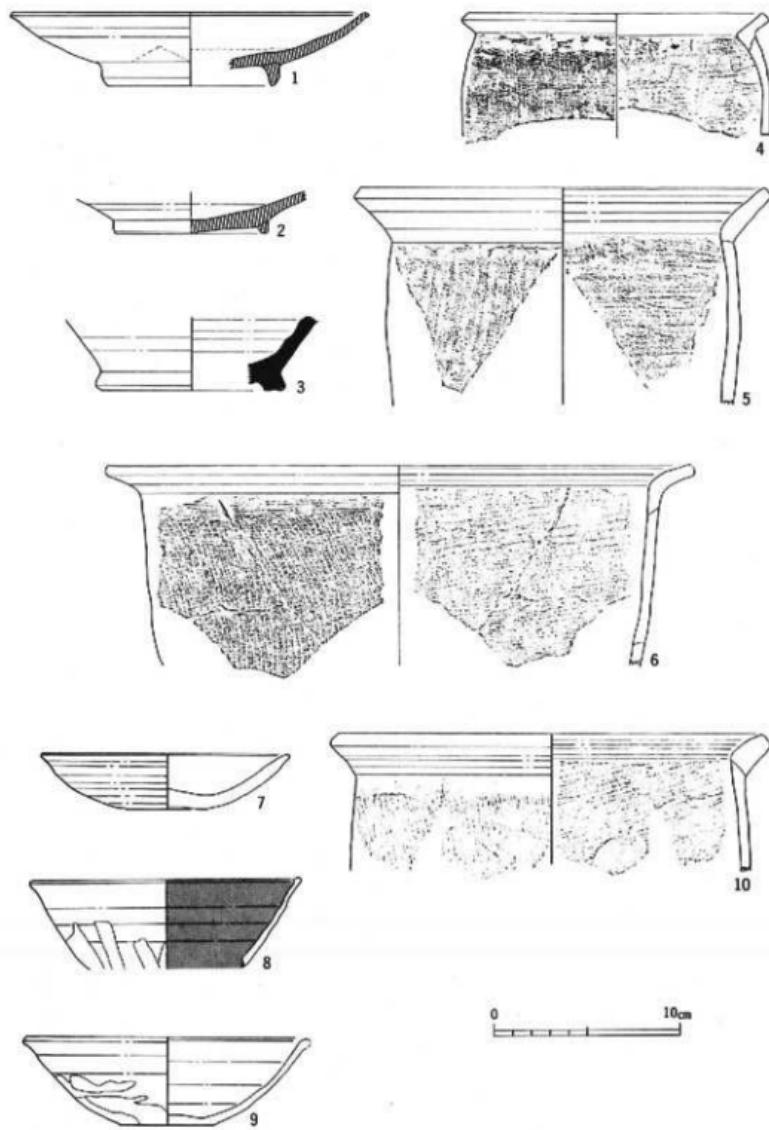
第73図 第5号住居址出土遺物実測図



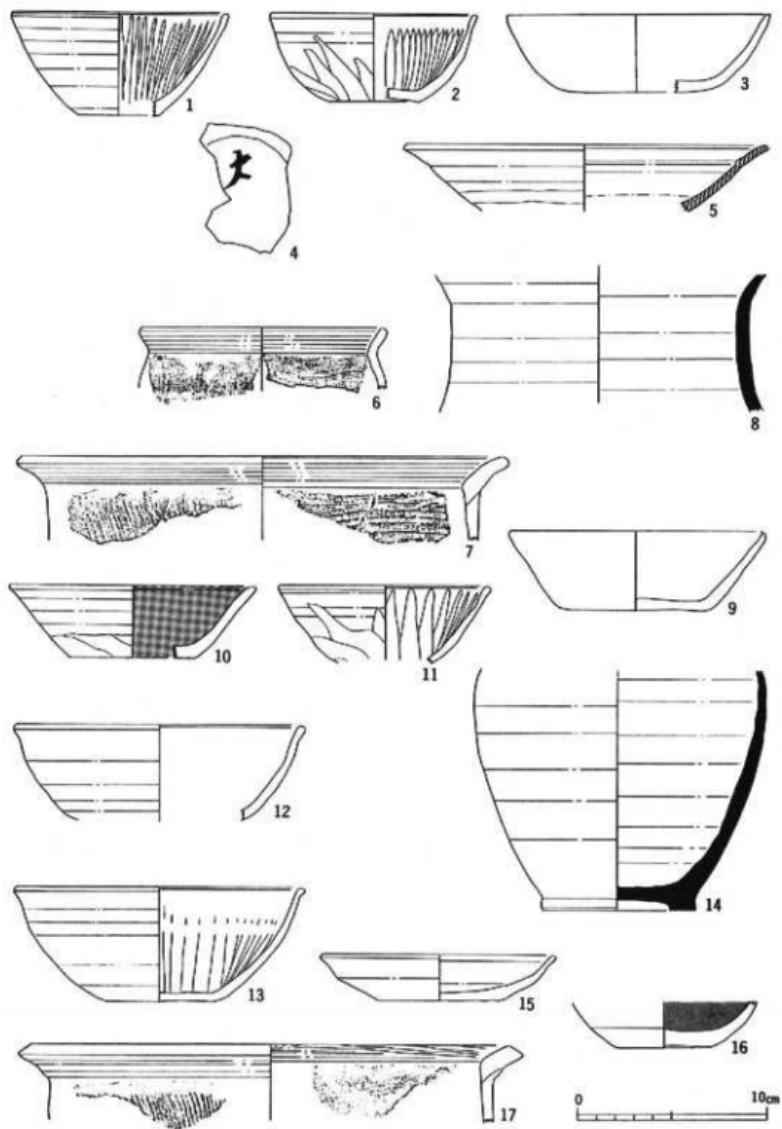
第74図 第6号住居址出土遺物実測図



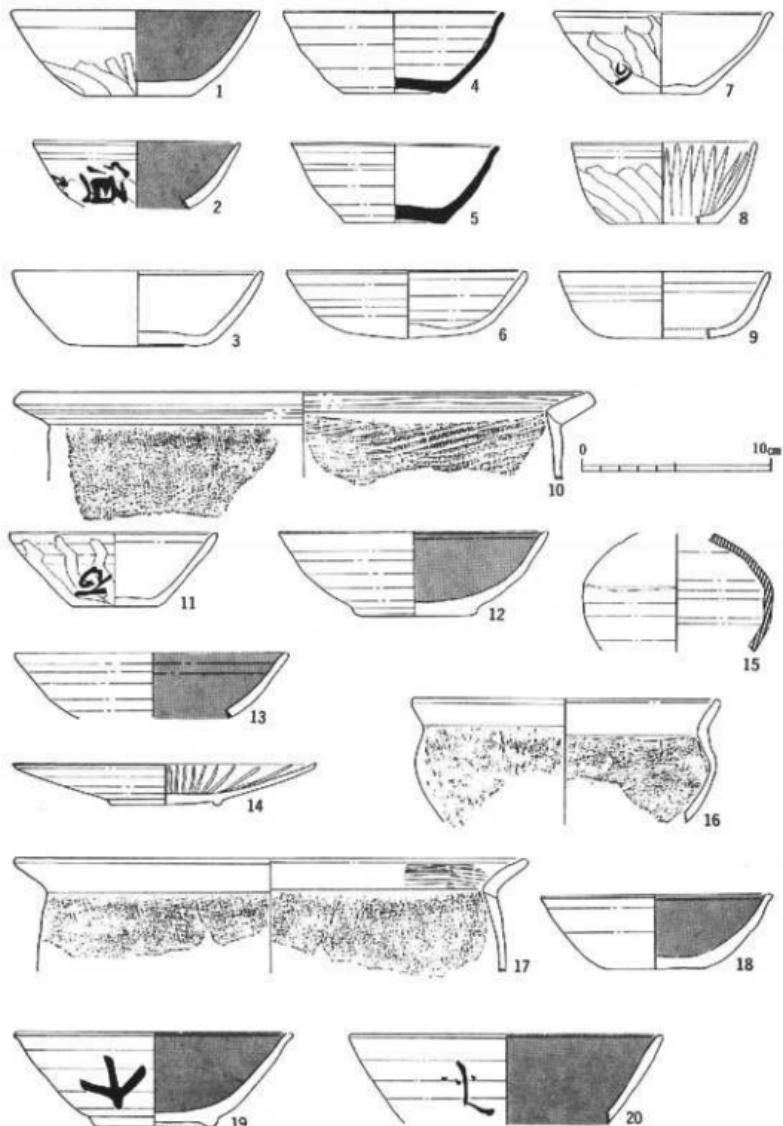
第75図 第7号住居址(1,2) 第8号住居址(3~12) 第9号住居址(13~17) 出土遺物実測図



第76図 第10号住居址(1~6) 第11号住居址(7~10) 出土遺物実測図

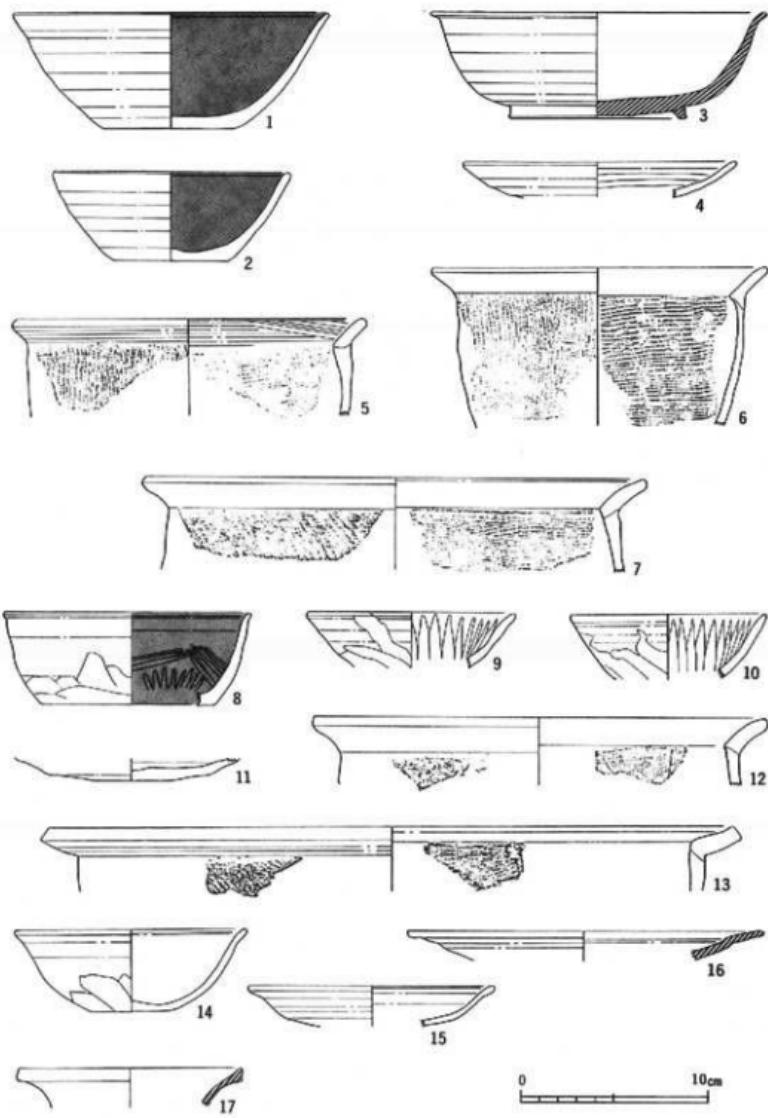


第77図 第12号住居址(1~8) 第13号住居址(9) 第14号住居址(10~17) 出土遺物実測図



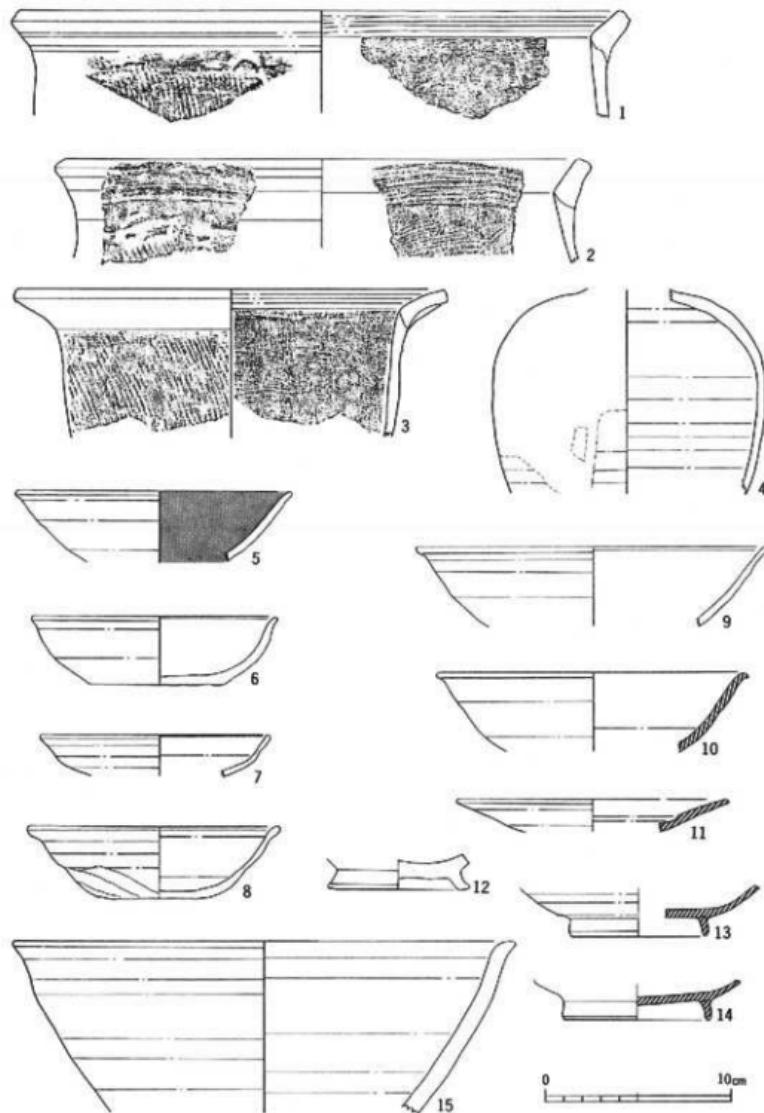
第78図 第15号住居址(1~10) 第16号住居址(11~17)

第17号住居址(18~20) 出土遺物実測図

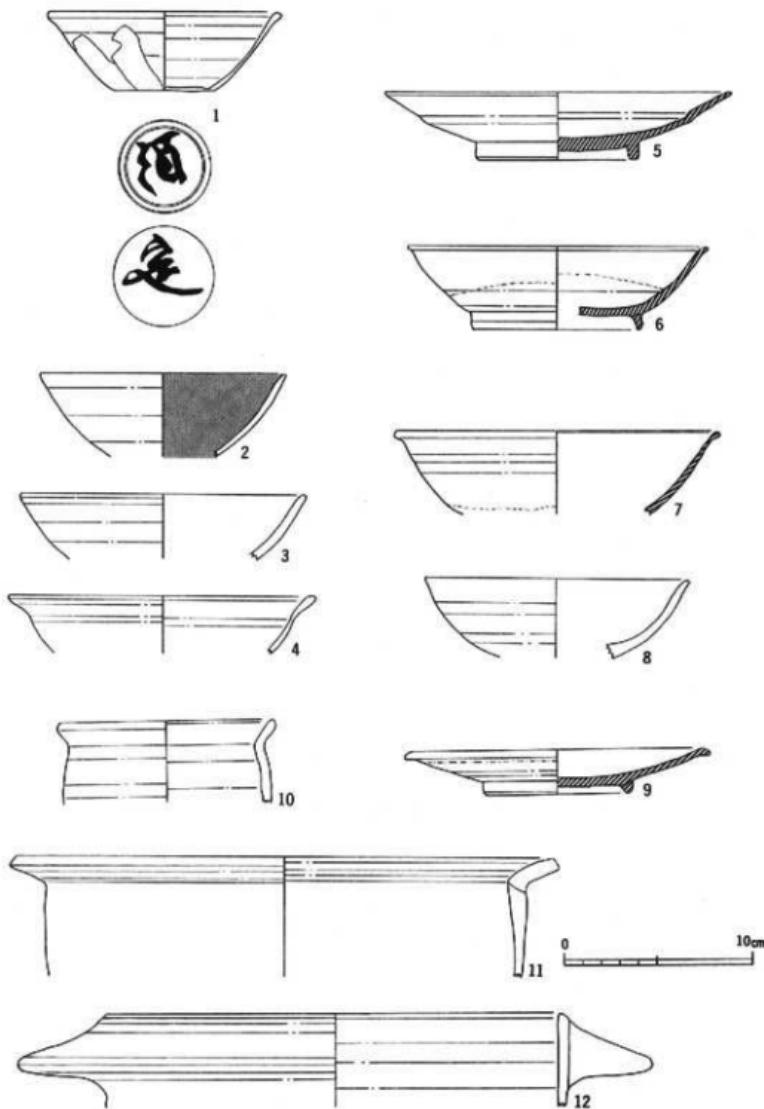


第79図 第17号住居址(1~7) 第18号住居址(8~13)

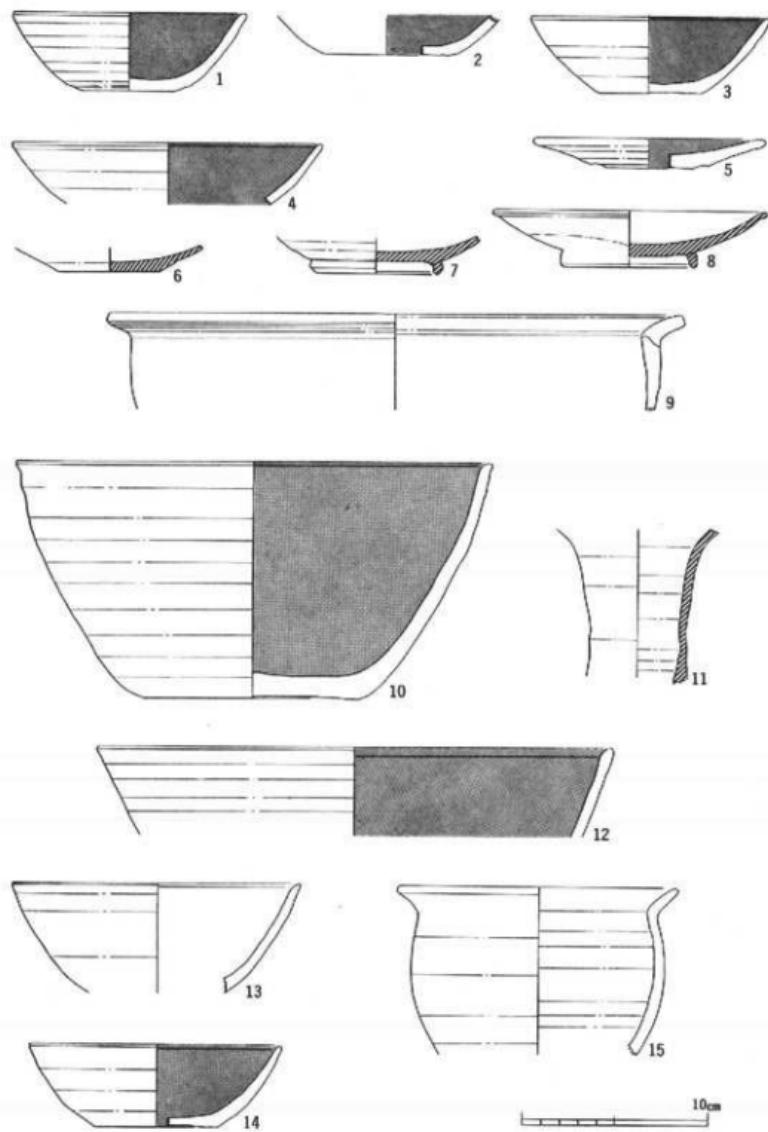
第19号住居址(14~17) 出土遺物実測図



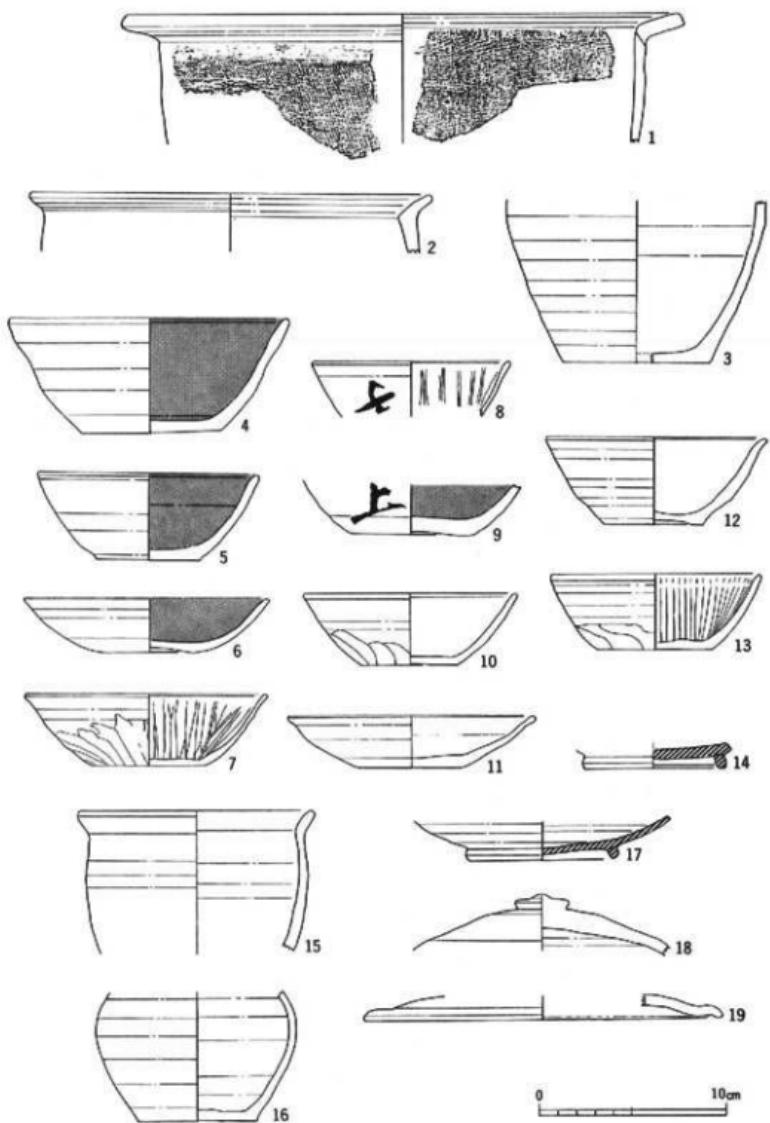
第80図 第19号住居址(1~4) 第20号住居址(5~15) 出土遺物実測図



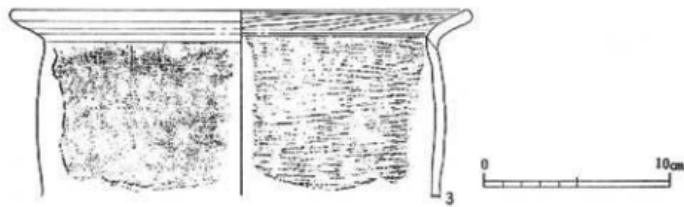
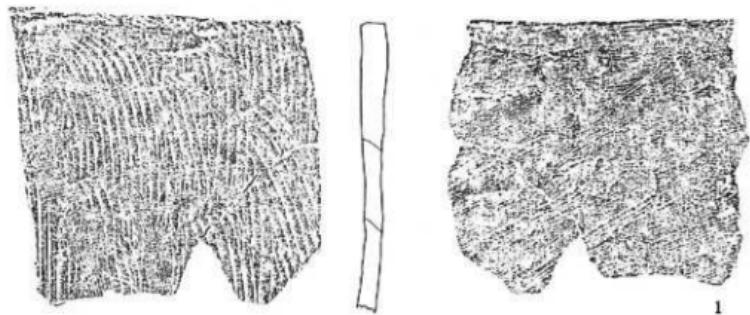
第81図 第21号住居址出土遺物実測図



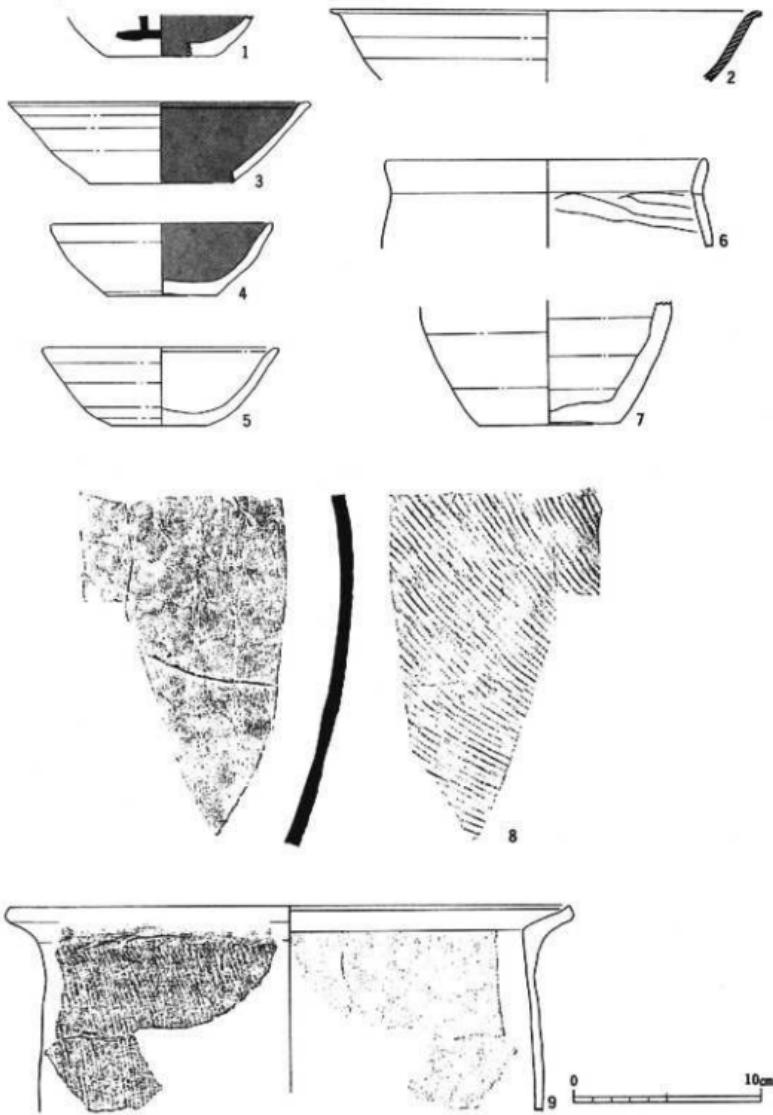
第82図 第22号住居址(1~9) 第23号住居址(10~15) 出土遺物実測図



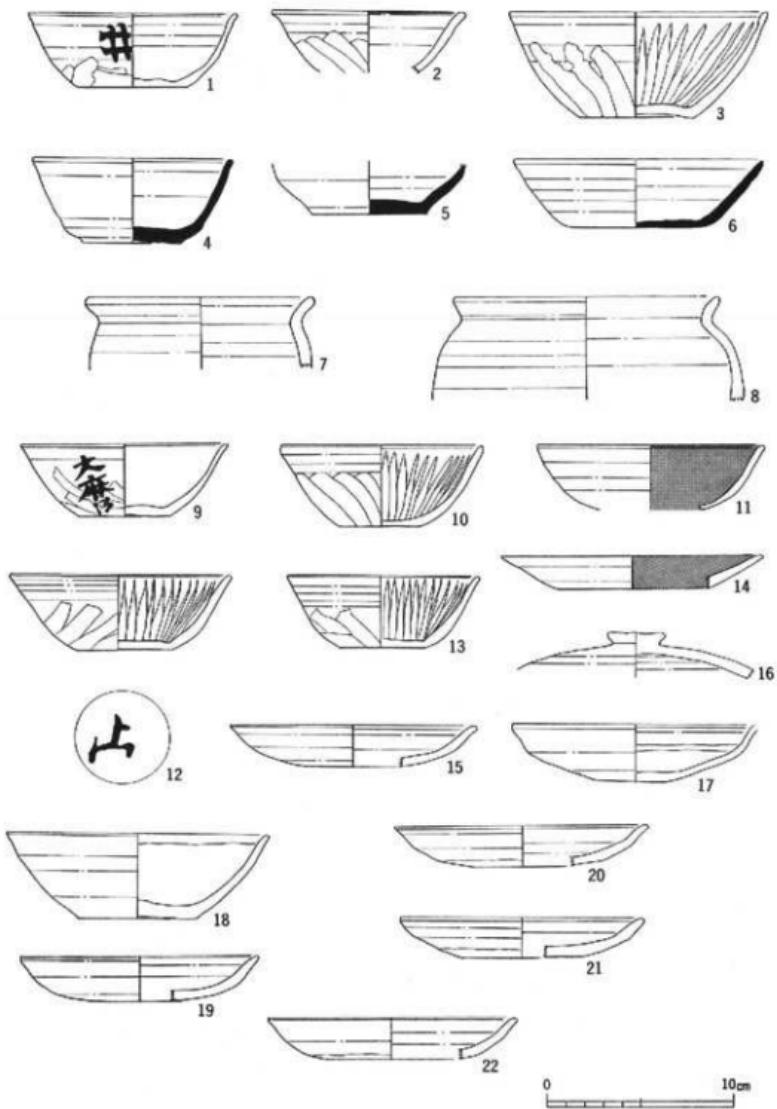
第83図 第23号住居址(1~3) 第24号住居址(4~19) 出土遺物実測図



第84図 第24号住居址出土遺物実測図



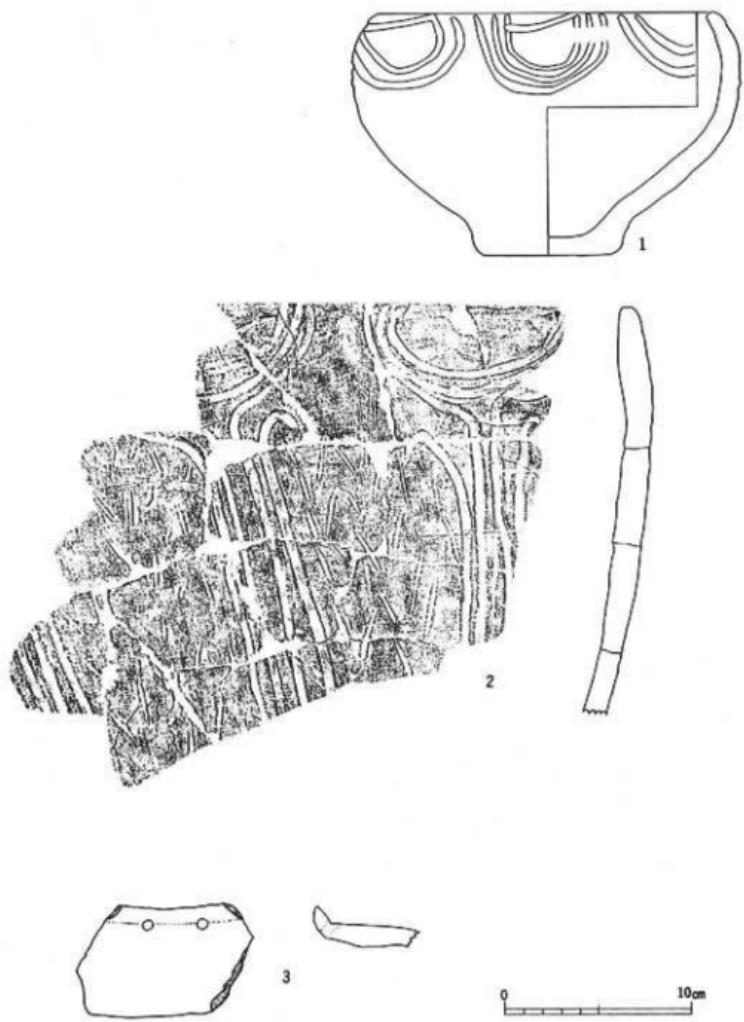
第85図 第25号住居址(1,2) 第26号住居址(3~9) 出土遺物実測図



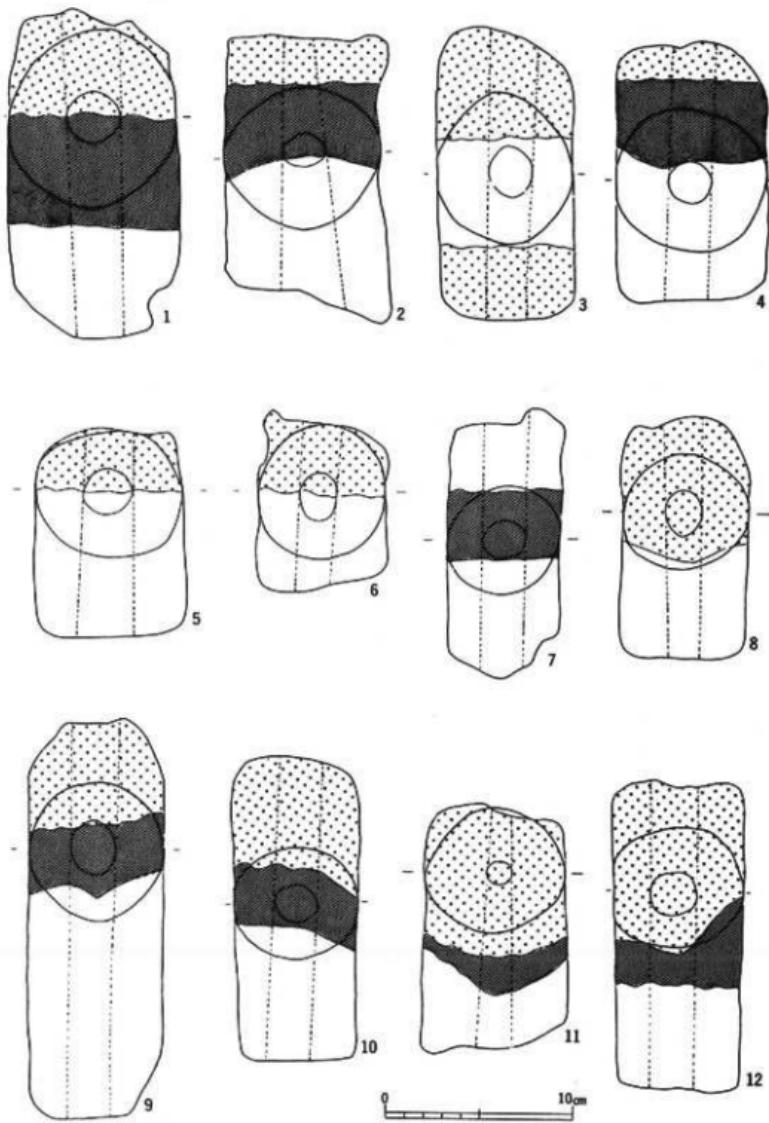
第86図 第27号住居址(1~8) 第28号住居址(9~22) 出土遺物実測図



第87図 第29号住居址(1~10) 第30号住居址(11~15) 出土遺物実測図



第88図 東久保遺跡出土縄文土器実測図 (1,2 第31号住・3第4号住)



第89図 第3号住居址(1) 第9号住居址(2,3,4,5)  
第22号住居址(6,7,8,9,10,11,12) 出土羽口実測図



第90図 東久保遺跡出土遺物実測図(1,2,3,5,6砥石・4分銅・7石帶・8鎌・9鑄鐵)

# 出 土 遺 物 表

器面番号	出土地点	種類	器形	法量cm			形		部	
				口径	器高	底径	口縁	脚	外	内
71-1	第1住	土師	甕	19.2	-	-	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
71-2	第1住	土師	壺	-	-	7.0	- -	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
71-3	第2住	土師	甕	18.2	15.0	8.8	外 反	輪 構	縱方向ハケ目	横方向ハケ目
71-4	第2住	土師	壺	11.6	3.4	6.6	外 縱	輪 構	横ナデ	
71-5	第2住	土師	皿	14.0	2.2	5.8	外傾・U縁	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	機位回転削り
71-6	第2住	土師	壺	15.4	5.3	7.3	外 縱	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
71-7	第3住	土師	壺	12.0	3.9	3.2	外 縱	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
71-8	第3住	土師	甕	26.0	-	-	外 反	縱方向ハケ目	横方向ハケ目	
71-9	第3住	土師	甕	23.0	-	-	外 反	縱方向ハケ目	横方向ハケ目	
71-10	第4住	土師	壺	15.0	- -	-	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
71-11	第4住	土師	壺	15.0	- -	-	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
71-12	第4住	土師	壺	22.3	4.2	6.4	外 反	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
71-13	第4住	土師	甕	17.2	-	-	外 反	縱方向ハケ目	横方向ハケ目	輪 構
71-14	第4住	須恵	甕	-	-	13.2	- -	縱方向叩き締め	横方向叩き締め	
71-15	第4住	須恵	壺	-	-	8.2	- -	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
72-1	第4住	土師	壺	13.9	5.0	4.6	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
72-2	第4住	土師	壺	13.4	4.0	5.2	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
72-3	第4住	土師	壺	13.4	4.5	4.8	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
72-4	第4住	土師	壺	13.0	-	-	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
72-5	第4住	土師	壺	12.7	- -	-	外 反	ロクロ横ナデ	ヘラ磨き	子ヘラ削り
72-6	第4住	土師	壺	11.4	3.9	4.2	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
72-7	第4住	土師	壺	13.6	4.7	6.2	外 反	ロクロ横ナデ	ヘラ磨き	
72-8	第4住	土師	皿	11.8	2.8	2.6	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
72-9	第4住	土師	壺	14.0	5.4	5.4	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
72-10	第4住	土師	壺	11.6	3.8	4.6	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
72-11	第4住	土師	皿	12.4	2.8	5.3	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
72-12	第4住	土師	壺	-	-	5.6	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
72-13	第4住	土師	皿	13.0	2.4	3.8	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	子ヘラ削り
72-14	第4住	灰釉	皿	19.2	-	-	外 縱	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
72-15	第4住	灰釉	壺	17.0	6.4	8.4	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	

方 法		胎 土	焼 成	色 調		備 考
底 部	外 内			外	内	
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
木 材 痕	ヘラ削り	細 い	良 好	茶 橙 色	黒 色	
—	—	やや細い	やや良好	茶 特 色	茶 橙 色	
ヘラ削り	ヘラ磨キ	細 い	やや良好	灰 橙 色	赤 橙 色	器体部内側に 渦巻状被文あり
回転糸切り後 ヘラ消り	ヘラ磨き	細 い	良 好	灰 橙 色	黒 色	タール付着
回転糸切り後 ヘラ削り	ロクロ整形	やや細い	やや良好	黑 橙 色	灰 橙 色	
—	—	やや細い 雲母・長石含む	やや良好	暗 橙 色	暗 橙 色	
—	—	やや細い 雲母・長石含む	やや良好	茶 橙 色	茶 橙 色	
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	黒 色	
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	黒 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	赤 橙 色	暗 橙 色	
—	—	砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
ロクロ整形	ロクロ整形	細 い 砂粒含む	良 好	赤 橙 色	青 灰 色	
貼り付け高台	—	やや細い 砂粒含む	良 好	灰 白 色	灰 白 色	
ヘラ削り	—	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	「吉」の墨書きあり
ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	茶 橙 色	赤 橙 色	「宍」の墨書きあり
回転糸切り後 ヘラ削り	—	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	「万」の墨書きあり
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	「丈」の墨書きあり
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	「吉」の墨書きあり
ヘラ消り	—	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 橙 色	暗 橙 色	
回転糸切り後 ヘラ削り	—	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	「宍」の墨書きあり
ヘラ削り	—	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
回転糸切り後 ヘラ削り	—	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
回転糸切り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	「宍」の墨書きあり
削り出し高台	ロクロ整形	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	「宍」の墨書きあり 花弁状暗文あり
ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
—	—	細 い	良 好	灰 绿 色	灰 绿 色	輪がかかる いる
貼り付け高台	ロクロ整形	細 い	良 好	灰 白 色	灰 白 色	

区分番号	出土地点	種類	器形	法量cm			輪形		
				口径	器高	底径	口縁	外	内
72-16	第4住	土師	甕	13.6	-	-	外反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
72-17	第4住	土師	皿	-	-	7.4	-	-	-
72-18	第4住	灰釉	皿	-	-	8.0	-	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
72-19	第4住	灰釉	皿	-	-	7.0	-	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
72-20	第4住	土師	羽釜	11.0	-	-	外傾	縱方向ハケ目 輪積	輪積
72-21	第4住	土師	甕	12.0	-	-	外反	輪積 縱方向ハケ目	輪積 横向ハケ目
73-1	第5住	土師	片口	13.0	12.1	9.2	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
73-2	第5住	土師	环	11.6	4.6	5.8	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
73-3	第5住	土師	环	12.8	-	-	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
73-4	第5住	土師	环	12.6	-	-	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
73-5	第5住	土師	环	12.4	4.5	5.8	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
73-6	第5住	土師	环	12.0	5.1	5.8	外反	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
73-7	第5住	灰釉	瓶頭蓋	18.0	-	-	外反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
73-8	第5住	土師	环	16.2	-	-	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
73-9	第5住	灰釉	甕	-	-	-	-	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
73-10	第5住	土師	环	15.0	-	-	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
73-11	第5住	土師	环	16.2	-	-	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
73-12	第5住	土師	甕	27.0	-	-	外反	縱方向ハケ目 輪積	輪積 横向ハケ目
73-13	第5住	土師	甕	30.0	-	-	外反	ロクロ横ナデ ヘラ削り	ロクロ横ナデ
74-1	第6住	土師	环	18.6	6.5	6.6	外反	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
74-2	第6住	土師	环	13.8	3.9	4.2	外反	ロクロ横ナデ ヘラ削り	ヘラ磨キ
74-3	第6住	土師	环	20.2	-	-	外傾	ロクロ横ナデ ヘラ削り	ヘラ磨キ
74-4	第6住	土師	环	14.2	4.2	6.6	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ横磨キ
74-5	第6住	土師	环	15.2	-	-	外反	ロクロ横ナデ ヘラ削り	ヘラ磨キ
74-6	第6住	土師	环	15.6	5.0	8.4	外傾	ロクロ横ナデ ヘラ削り	ヘラ磨キ
74-7	第6住	土師	环	12.0	4.3	3.7	外反	ロクロ横ナデ ヘラ削り	ロクロ横ナデ
74-8	第6住	土師	环	12.2	4.2	-	外反	ロクロ横ナデ ヘラ削り	ロクロ横ナデ
74-9	第6住	土師	皿	12.4	2.8	5.2	外反	ロクロ横ナデ ヘラ削り	ロクロ横ナデ
74-10	第6住	灰釉	皿	14.8	3.0	7.2	外反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
74-11	第6住	土師	甕	13.8	-	-	外反	縱方向ハケ目 輪積	輪積 横向ハケ目

方 法		胎 土	燒 成	色 調		備 考
底 部	外 内			外	内	
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
貼り付け高台	ヘラ磨キ	細 い 薺母・砂粒含む	良 好	赤 橙 色	黑 色	
ヘラ削り 貼り付け高台	ロクロ整形	細 い	良 好	灰 白 色	灰 白 色	
貼り付け高台	ロクロ整形	細 い	良 好	灰 白 色	灰 白 色	
——	——	やや細い 薺母・砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
——	——	やや粗い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	灰 橙 色	黑 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	灰 橙 色	黑 色	墨書きはあるが 判読不可
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	黑 色	
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	黑 色	「↑」の墨書きあり
回転名切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	茶 橙 色	黑 色	
回転名切り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	灰 橙 色	黑 色	墨書きはあるが 判読不可
——	——	やや粗い	良 好	灰 黑 色	青 灰 色	ほぼ全体に釉が かかっている
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	黑 色	
——	——	細 い	良 好	綠 橙 色	黑 灰 色	
——	——	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
——	——	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
——	——	細 い 薺母・長石含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
——	——	細 い 薺母・長石含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	黑 色	「吉」の墨書きあり
ヘラ削り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 橙 色	黑 色	「六方」 の墨書きあり
——	——	細 い	良 好	赤 橙 色	黑 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	赤 橙 色	黑 色	
——	——	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	墨書きはあるが 判読不可
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
——	——	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	墨書きはあるが 判読不可
回転糸切り後 ヘラ削り	——	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
貼り付け高台 ロクロ整形	ヘラ削り	細 い	良 好	青 白 色	青 白 色	
——	——	やや細い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	

器面番号	出土地点	種類	器形	法量cm			整 形		病 部	
				口径	器高	底径	口縁	外	内	
74-12	第6住	土師	甕	13.2	—	—	外 反	輪積み 縱方向ハケ目	横方向ハケ目	輪積み
74-13	第6住	土師	甕	26.0	—	—	外 反	輪積み 縱方向ハケ目	横方向ハケ目	輪積み
74-14	第6住	土師	甕	28.0	—	—	外 反	輪積み 縱方向ハケ目	横方向ハケ目	輪積み
75-1	第7住	須恵	甕	16.6	—	—	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
75-2	第7住	灰釉	甕	12.4	—	—	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
75-3	第8住	土師	环	12.1	4.1	5.8	外傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
75-4	第8住	土師	环	12.4	5.0	5.4	外 傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
75-5	第8住	土師	环	12.4	4.5	5.0	外 反	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
75-6	第8住	土師	环	14.6	5.2	6.6	外 傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
75-7	第8住	土師	环	11.4	4.5	5.2	外 傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
75-8	第8住	土師	环	13.4	5.8	6.2	外 反	ロクロ横ナデ 1/2ヘラ削整	ロクロ横ナデ	
75-9	第8住	土師	皿	12.7	2.4	4.9	外 傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
75-10	第8住	土師	皿	12.6	—	—	外 傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
75-11	第8住	土師	甕	28.6	—	—	外 反	輪積み 縱方向ハケ目	横方向ハケ目	輪積み
75-12	第8住	須恵	甕	27.2	—	—	外 反	輪積み 縱方向ハケ目	ロクロ横ナデ	
75-13	第9住	須恵	甕	—	—	—	—	輪方向叩き捺め	ヘラ削り	
75-14	第9住	土師	甕	—	—	5.6	—	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
75-15	第9住	土師	环	11.2	—	—	外 傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
75-16	第9住	土師	环	11.2	4.0	5.6	外 傾	ロクロ横ナデ 側面削除ヘラ削り	ロクロ横ナデ	
75-17	第9住	土師	环	11.9	4.6	5.0	外 傾	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
76-1	第10住	灰釉	皿	19.2	4.0	8.8	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
76-2	第10住	灰釉	皿	—	—	8.2	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
76-3	第10住	須恵	甕	—	—	10.0	—	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
76-4	第10住	土師	甕	16.4	—	—	外 反	輪積み 縱方向ハケ目	輪積み	
76-5	第10住	土師	甕	22.4	—	—	外 反	輪積み 縱方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目	
76-6	第10住	土師	甕	31.6	—	—	外 反	輪積み 縱方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目	
76-7	第11住	土師	皿	13.2	3.0	4.3	外 反	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ	
76-8	第11住	土師	环	14.6	—	—	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
76-9	第11住	土師	环	15.4	4.7	5.0	外 反	ロクロ横ナデ 1/2ヘラ削り	ロクロ横ナデ	
76-10	第11住	土師	甕	23.6	—	—	外 反	輪積み 縱方向ハケ目	輪積み 横方向ハケ目	

方 法		胎 土	焼 成	色 調		備 考
底 部	外 内			外	内	
— — — —	— — — —	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
— — — —	— — — —	やや細い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
— — — —	— — — —	やや細い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
— — — —	— — — —	細 い	良 好	青 灰 色	青 灰 色	
— — — —	— — — —	細 い	良 好	綠 灰 色	綠 灰 色	釉がかかる かかっている
回転名切り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	茶 橙 色	黑 色	「家吉」墨書あり
回転条切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	茶 橙 色	黑 色	「家」の墨書あり
回転条切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	灰 橙 色	黑 色	「家」の墨書あり
回転条切り	— — — —	やや細い	良 好	暗 橙 色	黑 色	「家」の墨書あり
回転条切り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	茶 橙 色	黑 色	「家」の墨書あり
回転条切り後 ヘラ削り	ロクロ整形	やや細い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
回転条切り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
— — — —	— — — —	細 い	良 好	茶 黄 色	黑 色	
— — — —	— — — —	やや細い 砂粒含む	良 好	黑 黄 色	茶 橙 色	
— — — —	— — — —	細 い	良 好	青 灰 色	青 灰 色	
— — — —	— — — —	細 い	良 好	暗 青 灰 色	暗 青 灰 色	
回転条切り	ロクロ横十字	細 い	良 好	灰 橙 色	灰 橙 色	
— — — —	— — — —	やや細い	良 好	茶 橙 色	黑 色	
— — — —	— — — —	やや細い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	花弁状暗文あり
回転条切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	茶 色	黑 色	
貼り付け高台	— — — —	やや細い	良 好	綠 灰 色	綠 灰 色	
貼り付け高台	ロクロ整形	細 い	良 好	灰 橙 色	綠 橙 色	内側に釉がかかる かかっている
貼り付け高台	ロクロ整形	細 い	良 好	暗 灰 色	暗 灰 色	
— — — —	— — — —	やや細い 砂粒含む	良 好	暗 橙 色	暗 橙 色	
— — — —	— — — —	やや細い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
— — — —	— — — —	粗 い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
回転条切り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	赤 橙 色	黑 橙 色	
— — — —	— — — —	細 い	良 好	黑 橙 色	黑 色	
回転条切り後 ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
— — — —	— — — —	やや細い 蓋付・長石含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	

器皿番号	出土地点	種類	器形	法量cm			整 形	
				口径	器高	底径	口縁	脇外
77-1	第12住	土師	环	11.6	5.5	4.2	外縁	ロクロ横ナデ
77-2	第12住	土師	环	11.0	4.7	4.8	外縁	ロクロ横ナデ ナヘラ削り
77-3	第12住	土師	环	14.0	4.2	8.0	外縁	輪積
77-4	第12住	土師	环	—	—	4.4	—	—
77-5	第12住	灰陶	皿	19.4	—	—	外縁	ロクロ横ナデ
77-6	第12住	土師	甕	13.2	—	—	外反	輪積み 瓶方向ハケ目
77-7	第12住	土師	甕	26.4	—	—	外反	輪積み 瓶方向ハケ目
77-8	第12住	須恵	壺	—	—	—	—	ロクロ横ナデ
77-9	第13住	土師	环	13.5	4.3	7.0	外縁	輪積方
77-10	第14住	土師	环	13.2	4.0	6.6	外縁	ナヘラ削り ロクロ横ナデ
77-11	第14住	土師	环	11.4	—	—	外縁	ナヘラ削り ロクロ横ナデ
77-12	第14住	土師	环	15.6	—	—	外縁	ロクロ横ナデ
77-13	第14住	土師	环	15.6	6.2	5.8	外縁	ロクロ横ナデ 横位回転旋削り
77-14	第14住	須恵	甕	—	—	8.0	—	ロクロ横ナデ
77-15	第14住	土師	皿	12.8	2.5	6.4	外反	ロクロ横ナデ
77-16	第14住	土師	环	—	—	4.8	—	ロクロ横ナデ 横位回転旋削り
77-17	第14住	土師	甕	27.2	—	—	外反	輪積み 瓶方向ハケ目
78-1	第15住	土師	环	13.4	4.6	5.8	外縁	ロクロ横ナデ ナヘラ削り
78-2	第15住	土師	环	11.2	—	—	外縁	ナヘラ削り ロクロ横ナデ
78-3	第15住	土師	环	13.4	4.1	6.2	外縁	輪積方
78-4	第15住	須恵	环	11.8	5.4	5.4	外縁	ロクロ横ナデ
78-5	第15住	須恵	环	11.1	4.3	5.4	外反	ロクロ横ナデ
78-6	第15住	土師	环	12.8	3.2	6.4	外縁	ロクロ横ナデ
78-7	第15住	土師	环	11.6	4.4	2.2	外縁	ナヘラ削り ロクロ横ナデ
78-8	第15住	土師	环	9.8	4.3	5.8	外縁	ナヘラ削り ロクロ横ナデ
78-9	第15住	土師	环	11.2	3.6	5.4	外縁	ロクロ横ナデ
78-10	第15住	土師	甕	31.2	—	—	外反	輪積み 瓶方向ハケ目
78-11	第16住	土師	环	11.0	4.0	4.6	外縁	ロクロ横ナデ ナヘラ削り
78-12	第16住	土師	环	14.4	4.6	5.6	外縁	ロクロ横ナデ
78-13	第16住	土師	环	14.6	—	—	外縁	ロクロ横ナデ
								ヘラ磨キ

方 法		胎 七	焼 成	色 調		備 考
底 部	外 内			外	内	
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	花弁状の暗文あり
回転条切り	ロクロ整形	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	花弁状暗文あり
ヘラ削り	——	やや細い	良 好	灰 橙 色	灰 橙 色	
ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	底部に「火」の墨書あり
——	——	細 い	良 好	明 灰 色	明 灰 色	
——	——	細 い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
——	——	粗い 長石・砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
——	——	細 い	良 好	青 灰 色	青 灰 色	
——	——	やや細い	やや良 好	灰 橙 色	灰 橙 色	
——	ヘラ磨キ	細 い	良 好	暗 橙 色	黑 色	
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	花弁状暗文あり
——	——	細 い 小石含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
回転ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	放射状暗文あり
回転条切り 貼り付け高台	ロクロ整形	細 い	良 好	暗 灰 色	青 灰 色	
回転条切り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
回転条切り	ヘラ磨キ	細 い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	黑 色	
——	——	やや細い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
回転条切り ヘラ削り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	茶 橙 色	黑 色	墨書はあるが判読不可
——	——	細 い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	黑 色	「須」の他に墨書あり
ヘラ削り	——	やや細い	良 好	黑 橙 色	灰 橙 色	底部に墨書があるが判読不可
回転条切り	——	細 い	良 好	灰 橙 色	青 灰 色	タールが外側に付着
回転条切り	——	細 い 砂粒を含む	良 好	青 灰 色	青 灰 色	
——	——	やや細い	やや良 好	黄 橙 色	赤 橙 色	
ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	「石」の墨書か?
——	——	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	花弁状暗文あり
——	——	やや細い	良 好	灰 橙 色	灰 橙 色	
——	——	やや細い 雲母・長石含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	「石」の墨書あり
回転条切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 橙 色	黑 色	墨書あるが判読不明
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	黑 色	

画面番号	出土地点	種類	器形	法量cm			整 形		
				口径	器高	底径	口縁	肩 部	
								外	内
78-14	第16住	土師	皿	16.2	2.3	5.9	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
78-15	第16住	灰 軸	甕	-	-	-	-	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
78-16	第16住	土 師	甕	16.6	-	-	外 細	輪 積み ヘラ削り	輪 積み・ヘラ削り 口縁部(縦方向ハケ目)
78-17	第16住	土 師	甕	27.4	-	-	外 反	輪 積み 縦方向ハケ目	輪 積み 縦方向ハケ目
78-18	第17住	土 師	坏	12.3	4.0	5.2	外 反	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
78-19	第17住	土 師	坏	15.0	4.8	6.0	外 反	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
78-20	第17住	土 師	坏	16.8	-	-	外 細	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
79-1	第17住	土 師	坏	17.0	6.2	7.2	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
79-2	第17住	土 師	坏	12.8	4.8	6.0	外 細	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
79-3	第17住	灰 軸	坏	18.0	5.7	9.6	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
79-4	第17住	土 師	皿	14.4	-	-	外 細	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
79-5	第17住	土 師	甕	19.0	-	-	外 反	輪 積み 縦方向ハケ目	輪 積み 縦方向ハケ目
79-6	第17住	土 師	甕	18.0	-	-	外 反	輪 積み 縦方向ハケ目	輪 積み 縦方向ハケ目
79-7	第17住	土 師	甕	19.0	-	-	外 反	輪 積み 縦方向ハケ目	輪 積み 縦方向ハケ目
79-8	第18住	土 師	坏	12.8	5.0	9.0	外 細	ロクロ横ナデ +ヘラ削り	ヘラ磨キ
79-9	第18住	土 師	坏	11.2	-	-	外 細	ロクロ横ナデ +ヘラ削り	ロクロ横ナデ
79-10	第18住	土 師	坏	10.4	-	-	外 細	ロクロ横ナデ +ヘラ削り	ロクロ横ナデ
79-11	第18住	土 師	皿	-	-	4.0	-	ヘラ削り	ヘラ削り
79-12	第18住	土 師	甕	24.2	-	-	外 反	輪 積み 縦方向ハケ目	輪 積み 縦方向ハケ目
79-13	第18住	土 師	甕	37.2	-	-	外 細	輪 積み 縦方向ハケ目	輪 積み 縦方向ハケ目
79-14	第19住	土 師	坏	12.5	4.5	4.2	外 反	ロクロ横ナデ +ヘラ削り	ロクロ横ナデ
79-15	第19住	土 師	皿	13.2	-	-	外 細	ロクロ横ナデ ヘラ削り	ロクロ横ナデ
79-16	第19住	灰 軸	皿	19.0	-	-	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
79-17	第19住	灰 軸	甕	12.2	-	-	外 反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
80-1	第19住	土 師	甕	33.2	-	-	外 反	輪 積み 縦方向ハケ目	輪 積み 縦方向ハケ目
80-2	第19住	土 師	甕	28.8	-	-	外 反	輪 積み 縦方向ハケ目	輪 積み 縦方向ハケ目
80-3	第19住	土 師	甕	23.2	-	-	外 反	輪 積み 縦方向ハケ目	輪 積み 縦方向ハケ目
80-4	第19住	灰 軸	甕	-	-	-	-	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
80-5	第20住	土 師	坏	14.5	-	-	外 細	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ
80-6	第20住	土 師	坏	13.0	3.8	4.2	外 細	ロクロ横ナデ	ヘラ磨キ

方 法		胎 土	焼 成	色 調		備 考
底 外	部 内			外	内	
削り出し高台 ヘラ削り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 棕 色	黑 棕 色	花弁状暗文あり
—	—	細 い	良 好	綠 灰 色	灰 白 色	
—	—	やや細い 砂粒含む	良 好	赤 棕 色	赤 棕 色	
—	—	やや細い 砂粒含む	良 好	暗 棕 色	暗 棕 色	
回転条切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	茶 棕 色	黑 色	
鉛錠糸切り後 貼り付け高台	ヘラ磨キ	砂粒を含む やや細い	やや良好	茶 棕 色	黑 色	「木」の墨書きあり
—	—	細 い	良 好	赤 棕 色	黑 色	判読不可 「火」の墨書きあり
回転条切り	—	細 い	良 好	灰 棕 色	黑 色	
回転条切り	ヘラ磨キ	細い 砂粒を含む	良 好	灰 棕 色	黑 色	
ヘラ削り 貼り付け高台	—	細 い	良 好	灰 色	黄 緑 色	内側に釉がかかっている
—	—	細 い	良 好	茶 棕 色	茶 棕 色	
—	—	やや細い 砂粒含む	良 好	暗 棕 色	暗 棕 色	
—	—	やや細い 砂粒含む	良 好	暗 棕 色	灰 棕 色	
—	—	やや細い 砂粒含む	良 好	暗 棕 色	暗 棕 色	
—	—	やや細い 砂粒含む	良 好	暗 棕 色	黑 色	暗文あり
—	—	細 い	良 好	赤 棕 色	赤 棕 色	花弁状暗文あり
—	—	細 い	良 好	茶 棕 色	茶 棕 色	花弁状暗文あり
ヘラ削り	ヘラ削り	細 い	良 好	茶 棕 色	花 棕 色	
—	—	やや細い 長石・砂粒含む	良 好	赤 棕 色	赤 棕 色	
—	—	やや細い 雲母・長石含む	良 好	黑 棕 色	黑 棕 色	
ヘラ削り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	茶 棕 色	茶 棕 色	
—	—	細 い	良 好	黑 棕 色	灰 棕 色	
—	—	細 い	良 好	綠 灰 色	灰 白 色	釉がかかるとい る
—	—	細 い	良 好	綠 灰 色	綠 灰 色	釉がかかるとい る
—	—	やや細い 小石含む	良 好	茶 棕 色	茶 棕 色	
—	—	やや細い 砂粒含む	良 好	暗 棕 色	暗 棕 色	
—	—	細 い 砂粒含む	良 好	灰 棕 色	灰 棕 色	
—	—	細 い	良 好	綠 灰 色	灰 白 色	
—	—	細 い	良 好	茶 棕 色	黑 色	
回転条切り	ヘラ磨キ	細 い 砂粒を含む	良 好	茶 棕 色	黑 棕 色	

回収番号	出土地点	種類	器形	法 釐cm			整 形	
				口徑	器高	底径	口 縁	脇 外
80-7	第20住	土師	皿	12.2	—	—	外 傾	ロクロ横ナデ
80-8	第20住	土師	坏	13.4	4.0	4.8	外 反	ミヘラ削り ロクロ横ナデ
80-9	第20住	灰釉	坏	19.2	—	—	外 傾	ロクロ横ナデ
80-10	第20住	灰釉	坏	17.0	—	—	外 反	ロクロ横ナデ
80-11	第20住	灰釉	皿	14.8	—	—	外 傾	ロクロ横ナデ
80-12	第20住	土師	坏	—	—	7.6	—	—
80-13	第20住	灰釉	坏	—	—	7.6	—	ロクロ横ナデ
80-14	第20住	灰釉	皿	—	—	7.8	—	—
80-15	第20住	土師	坏	27.0	—	—	外 反	ロクロ横ナデ
81-1	第21住	土師	坏	12.6	4.3	5.4	外 反	ロクロ横ナデ ミヘラ削り
81-2	第21住	土師	坏	13.2	—	—	外 反	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
81-3	第21住	土師	坏	15.4	—	—	外 傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
81-4	第21住	土師	坏	16.6	—	—	外 傾	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
81-5	第21住	灰釉	皿	18.4	3.7	8.8	外 傾	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
81-6	第21住	灰釉	坏	16.0	4.5	9.0	外 反	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
81-7	第21住	灰釉	皿	17.4	—	—	外 反	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
81-8	第21住	土師	坏	14.2	—	—	外 傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
81-9	第21住	灰釉	皿	16.4	2.4	8.2	外 傾	ロクロ横ナデ 横ナデ
81-10	第21住	土師	坏	11.8	—	—	外 反	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
81-11	第21住	土師	坏	29.4	—	—	外 反	輪積み 凝固方向ハケ目
81-12	第21住	土師	羽蓋	24.6	—	—	—	横ナデ
82-1	第22住	土師	坏	12.5	4.2	4.9	外 傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
82-2	第22住	土師	坏	—	6.8	—	—	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
82-3	第22住	土師	坏	12.9	4.1	5.4	外 傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
82-4	第22住	土師	坏	16.6	—	—	外 傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
82-5	第22住	土師	皿	12.6	1.6	4.6	外 反	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
82-6	第22住	灰釉	皿	—	—	5.4	—	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
82-7	第22住	灰釉	皿	—	—	6.4	—	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
82-8	第22住	灰釉	皿	14.8	3.1	7.0	外 反	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
82-9	第22住	土師	坏	31.0	—	—	外 反	輪積み 凝固方向ハケ目
								輪積み 横方向ハケ目

方 法		胎 土	燒 土	色 調		備 考
底 部	外 内			外	内	
——	——	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
回転糸切り ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	
——	——	細 い	良 好	黄 綠 色	黄 綠 色	
——	——	細 い	良 好	黄 綠 色	黄 綠 色	ほぼ全体に釉が かかっている
——	——	細 い	良 好	綠 灰 色	綠 灰 色	ほぼ全体に釉が かかっている
回転糸切り後 貼り付け高台	ヘラ磨キ	細 い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	黑 色	
貼り付け高台	ロクロ整形	細 い	良 好	灰 白 色	绿 白 色	器体部の内側・外側に 釉がかかっている
貼り付け高台 ロクロ横ナデ	ロクロ整形	細 い	良 好	灰 白 色	灰 白 色	底部内側に釉が かかっている
——	——	細 い 砂粒含む	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	底部外に定の墨あり 底部内に白
——	——	やや細い	やや良好	黑 橙 色	黑 色	
——	——	細 い	やや良好	茶 橙 色	茶 橙 色	
——	——	細 い 砂粒含む	やや良好	茶 橙 色	茶 橙 色	
貼り付け高台	——	細 い	良 好	白 綠 色	白 綠 色	ほぼ全体に釉が かかっている
貼り付け高台	——	細 い	良 好	绿 灰 色	绿 灰 色	
——	——	細 い	良 好	黄 綠 色	黄 綠 色	
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
回転糸切り後 貼り付け高台	ロクロ整形	細 い	やや良好	绿 灰 色	绿 灰 色	
——	——	細 い	やや良好	茶 橙 色	茶 橙 色	
——	——	やや細い。雲母・ 長石・砂粒含む	やや良好	暗 橙 色	暗 橙 色	
——	——	粗い。雲母・ 長石・砂粒含む	やや良好	茶 橙 色	茶 橙 色	貼り付け部 4.4 cm
回転糸切り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	赤 橙 色	黑 色	
削り出し高台	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	暗 橙 色	黑 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	やや細い	良 好	赤 橙 色	黑 色	
——	——	細 い	良 好	茶 橙 色	黑 色	
回転糸切り 貼り付け高台	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 橙 色	黑 色	高台部欠損
回転糸切り	ロクロ横ナデ	細 い	良 好	绿 灰 色	灰 白 色	器体内部に釉が かかっている
回転糸切り	ロクロ横ナデ	細 い	良 好	灰 白 色	灰 白 色	
回転糸切り	ロクロ横ナデ	細 い	良 好	绿 灰 色	绿 灰 色	釉薬がかかって いる
——	——		良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	

器面番号	出土地点	種類	器形	法 量cm			整 形	
				口径	器高	底径	口縁	脇 外
82-10	第23住	土師	壺(片口)	25.4	12.8	11.4	外 反	ロクロ横ナデ
82-11	第23住	灰釉	長頸瓶	—	—	—	—	ロクロ横ナデ
82-12	第23住	土師	壺	27.6	—	—	外 瓶	ロクロ横ナデ
82-13	第23住	土師	壺	15.4	—	—	外 瓶	ロクロ横ナデ
82-14	第23住	土師	壺	13.5	4.4	6.6	外 瓶	ロクロ横ナデ
82-15	第23住	土師	壺	15.0	—	—	外 反	ロクロ横ナデ
83-1	第23住	土師	甕	30.2	—	—	外 反	輪 積み 輪方向ハケ目
83-2	第23住	土師	甕	21.6	—	—	外 反	輪 積み 輪方向ハケ目
83-3	第23住	土師	甕	—	—	7.8	—	ロクロ横ナデ
83-4	第24住	土師	壺	15.0	6.2	7.4	外 瓶	ロクロ横ナデ 横位回転造削り
83-5	第24住	土師	壺	11.8	4.7	5.6	外 瓶	ロクロ横ナデ
83-6	第24住	土師	壺	13.0	3.0	5.0	外 瓶	ロクロ横ナデ 横位回転造削り
83-7	第24住	土師	壺	12.8	3.9	6.0	外 瓶	ロクロ横ナデ 脇へラ削り
83-8	第24住	土師	壺	10.6	—	—	—	ロクロ横ナデ
83-9	第24住	土師	壺	—	—	6.0	—	ロクロ横ナデ
83-10	第24住	土師	壺	11.4	3.9	5.0	外 瓶	ロクロ横ナデ 脇へラ削り
83-11	第24住	土師	甕	13.2	2.8	5.6	外 反	ロクロ横ナデ 横位回転造削り
83-12	第24住	土師	壺	11.8	4.7	5.2	外 反	ロクロ横ナデ
83-13	第24住	土師	壺	11.2	4.1	6.2	外 瓶	ロクロ横ナデ 脇へラ削り
83-14	第24住	灰釉	甕	—	—	7.6	—	—
83-15	第24住	土師	甕	12.8	—	—	外 反	ロクロ横ナデ
83-16	第24住	土師	甕	—	—	6.4	—	ロクロ横ナデ
83-17	第24住	灰釉	甕	—	—	7.8	—	ロクロ横ナデ
83-18	第24住	土師	甕	つまみ 3.0	—	—	—	ロクロ横ナデ
83-19	第24住	土師	甕	19.2	—	—	—	ロクロ横ナデ 輪 積み 輪方向ハケ目
84-1	第24住	土師	置き甕	—	—	—	—	輪 積み 輪方向ハケ目
84-2	第24住	須恵	甕	—	—	—	—	叩き締め
84-3	第24住	土師	甕	24.6	—	—	外 反	輪 積み 輪方向ハケ目
85-1	第25住	土師	壺	—	—	—	—	ロクロ横ナデ
85-2	第25住	灰釉	甕	23.0	—	—	外 反	ロクロ横ナデ

方 法		胎 上	焼 成	色 調		備 考
底 部	外 内			外	内	
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	茶 楠 色	黒 色	
—	—	細 い	良 好	緑 灰 色	青 灰 色	全体に釉がかかっている
—	—	細 い	良 好	赤 楠 色	黒 色	
—	—	やや細い	良 好	茶 楠 色	黒 楠 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い 砂粒を含む	良 好	茶 楠 色	黒 色	
—	—	やや細い 砂粒を含む	良 好	暗 楠 色	暗 楠 色	脚部に煤付着
—	—	やや細い、雲母・ 長石・砂粒含む	良 好	暗 楠 色	暗 楠 色	
—	—	細 い 砂粒含む	良 好	暗 楠 色	暗 楠 色	
回転糸切り ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	黒 楠 色	灰 楠 色	脚部に煤付着 (二次的なもの)
ヘラ削り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 楠 色	黒 色	
回転糸切り 削り出し高台	ヘラ磨キ	細 い	良 好	茶 楠 色	黒 色	
回転ヘラ削り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 楠 色	黒 色	
ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 楠 色	赤 楠 色	放射状暗文あり
—	—	細 い	良 好	赤 楠 色	赤 楠 色	放射状暗文あり 「子」の墨書きあり
回転糸切り	ヘラ磨キ	やや細い 砂粒含む	良 好	茶 楠 色	黒 色	「上」の墨書きあり
回転糸切り ヘラ削り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 楠 色	赤 楠 色	
ヘラ削り	ロクロ横ナデ	やや細い	良 好	赤 楠 色	赤 楠 色	渦巻状暗文あり
回転糸切り	ヘラ磨キ	やや細い 砂粒含む	良 好	灰 楠 色	赤 楠 色	
ヘラ削り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 楠 色	赤 楠 色	放射状暗文あり
ヘラ削り 貼り付け高台	ヘラ削り	細 い	良 好	灰 白 色	灰 白 色	底部内側に釉が かかっている
—	—	やや細い 砂粒含む	良 好	暗 楠 色	暗 楠 色	
回転糸切り	ロクロ整形	細 い	良 好	暗 楠 色	暗 楠 色	脚部に煤付着
回転削り 貼り付け高台	ヘラ削り	細 い	良 好	灰 白 色	灰 白 色	
—	—	細 い	良 好	灰 楠 色	赤 楠 色	
—	—	細 い	良 好	茶 楠 色	茶 楠 色	
—	—	やや細い 雲母・砂粒含む	良 好	赤 楠 色	赤 楠 色	
—	—	細 い 砂粒含む	良 好	暗 灰 色	暗 灰 色	
—	—	やや細い、雲母・ 長石・砂粒含む	良 好	茶 楠 色	茶 楠 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	やや細い 砂粒含む	良 好	茶 楠 色	黒 色	墨書きあり 判読不可
—	—	細 い	良 好	青 緑 色	青 緑 色	釉がかかっている

器面番号	出土地点	種類	器形	法量cm			整 形	
				口径	器高	底径	口縁	脇外 脇内
85-3	第26住	土師	壺	16.2	-	-	外反	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
85-4	第26住	土師	壺	11.8	3.9	5.8	外傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
85-5	第26住	土師	壺	12.6	4.2	5.4	外傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
85-6	第26住	土師	甕	17.2	-	-	外反	右側面 縦方向ハケ日 輪積み 輪幅向 ハケ日 輪幅 ヘラ削り
85-7	第26住	土師	甕	-	-	7.4	-	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
85-8	第26住	須恵	甕	-	-	-	-	縦方向叩き詰め 同心円状 叩き詰め
85-9	第26住	土師	甕	30.2			外反	縦方向ハケ日 横方向ハケ日
86-1	第27住	土師	壺	11.0	3.9	5.8	外傾	左へラ削り ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-2	第27住	土師	壺	10.4	-	-	外傾	左へラ削り ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-3	第27住	土師	壺	13.4	5.7	6.0	外傾	ロクロ横ナデ 左へラ削り ロクロ横ナデ
86-4	第27住	須恵	壺	10.6	4.6	5.2	外傾	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-5	第27住	須恵	壺	-	-	6.2	-	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-6	第27住	須恵	壺	13.0	3.7	6.8	外傾	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-7	第27住	土師	甕	12.2	-	-	外反	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-8	第27住	土師	甕	14.0	-	-	外傾	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-9	第28住	土師	壺	11.0	3.9	4.8	外傾	ロクロ横ナデ 左へラ削り ロクロ横ナデ
86-10	第28住	土師	壺	10.8	4.4	4.4	外傾	ロクロ横ナデ 左へラ削り ロクロ横ナデ
86-11	第28住	土師	壺	12.2	-	-	外傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
86-12	第28住	土師	壺	11.9	4.1	5.4	外傾	ロクロ横ナデ 左へラ削り ロクロ横ナデ
86-13	第28住	土師	壺	10.3	3.9	4.5	外傾	ロクロ横ナデ 左へラ削り ロクロ横ナデ
86-14	第28住	土師	皿	14.2	1.8	-	外傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
86-15	第28住	土師	皿	13.2	2.2	-	外反	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-16	第28住	土師	蓋	つまみ 3.2	-	-	-	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-17	第28住	土師	皿	13.2	3.0	4.0	外傾	ロクロ横ナデ 横位回転鋸削り ロクロ横ナデ
86-18	第28住	土師	壺	14.0	4.5	3.2	外傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ
86-19	第28住	土師	皿	12.6	2.4	4.6	外傾	ロクロ横ナデ ロクロ横ナデ
86-20	第28住	土師	皿	13.4	2.2	-	外反	ロクロ横ナデ 横位回転鋸削り ロクロ横ナデ
86-21	第28住	土師	皿	13.0	2.2	6.4	外傾	ロクロ横ナデ 横位回転鋸削り ロクロ横ナデ
86-22	第28住	土師	皿	13.4	2.2	-	外傾	ロクロ横ナデ 横位回転鋸削り ロクロ横ナデ
87-1	第29住	土師	壺	12.0	4.0	5.6	外傾	ロクロ横ナデ ヘラ磨キ

方 法		胎 土	焼 成	色 調		備 考
底 外	部 内			外	内	
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	黒 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	黒 橙 色	黒 色	
ヘラ削り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	赤 橙 色	暗 橙 色	
—	—	やや細い 砂粒含む	良 好	暗 橙 色	暗 橙 色	
回転糸切り	ロクロ整形	やや荒い 小石含む	良 好	灰 橙 色	暗 橙 色	
—	—	細 い 砂粒含む	良 好	暗 灰 色	暗 灰 色	
—	—	やや粗い 蓋母・長石含む	良 好	暗 橙 色	暗 橙 色	
回転糸切り後 ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	「井」の墨書きあり
—	—	細 い	良 好	灰 橙 色	灰 橙 色	
回転糸切り	ロクロ整形	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	花弁状の 暗文あり
回転糸切り	ロクロ整形	細 い 砂粒含む	良 好	青 灰 色	青 灰 色	
回転糸切り	ロクロ整形	やや粗い 蓋母・砂粒含む	良 好	青 灰 色	青 灰 色	
回転糸切り	ロクロ整形	細 い	良 好	青 灰 色	青 灰 色	
—	—	細 い 砂粒含む	良 好	灰 橙 色	灰 橙 色	
—	—	細 い	良 好	暗 橙 色	暗 橙 色	
回転糸切り後 ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	「大麻呂」の 墨書きあり
ヘラ削り	ロクロ整形	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	花弁状の 暗文あり
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	黒 色	
回転糸切り後 ヘラ削り	—	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	花弁状暗文あり 「井」の墨書き面にあり
回転糸切り後 ヘラ削り	—	やや細い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	花弁状暗文あり
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	黒 色	
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
—	—	細 い	良 好	赤 橙 色	暗 橙 色	
回転旋削り	回転旋削り	細 い	良 好	赤 橙 色	赤 橙 色	渦巻状暗文あり
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	暗 橙 色	暗 橙 色	
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
回転旋削り	—	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
—	—	細 い	良 好	茶 橙 色	茶 橙 色	
回転糸切り	ヘラ磨キ	細 い	良 好	黒 橙 色	黒 色	「J」の墨書きあり





## 出土羽口一覧表

通番号	出土地点	器形	法量 cm ( )は孔径			口縁	粘 土	焼成	色 虹	備 考
			口径	全長	底径					
89-1	第3住	円	8.0 (3.0)	17.8 (2.5)	8.3 (2.5)	2.7:1	(粗い) 白色粘土 砂粒を含む	普通	黒灰色 ~淡黄白色	両端にハリサイを持つ
89-2	第9住	椭円	8.3 (1.6)	16.0 (2.0)	8.6 (3.4)	5.2:1	(粗い) 白色粘土 砂粒を含む	普通	黒灰色 ~淡黄白色	先端ハリサイによって孔が せまくなっている。下半寸
89-3	第9住	椭円	7.1 (2.5)	16.0 (2.2)	7.1 (2.2)	2.8:1	(粗い) 白色粘土 砂粒を含む	普通	黒灰色 ~淡黄白色	熱のため危険、剥落
89-4	第9住	椭円	8.0 (2.3)	14.2 (2.3)	8.0 (2.3)	3.5:1	(粗い) 白色粘土 砂粒を含む	普通	黒灰色 ~淡黄白色	両端にハリサイ
89-5	第9住	椭円	7.7 (2.5)	11.4 (3.0)	7.0 (3.0)	3.1:1	(粗い) 白色粘土 砂粒を含む	普通	黒灰色 ~淡黄白色	熱のため危険 下半寸
89-6	第22住	円	6.2 (2.0)	9.7 (2.0)	7.0 (2.0)	3.1:1	白色粘土 小石を含む(粗い)	普通	青灰色 ~淡黄白色	先端部のみ
89-7	第22住	円	5.8 (2.4)	14.8 (2.3)	6.0 (2.3)	2.4:1	(粗い) 白色粘土 砂粒を含む	普通	黒青灰色 ~淡黄褐色	熱のため危険 剥落上半寸
89-8	第22住	円	6.6 (2.0)	13.2 (1.6)	6.6 (1.6)	3.3:1	(粗い) 白色粘土 砂粒を含む	普通	黒青灰色 ~淡黄褐色	熱のため危険、剥落下半寸
89-9	第22住	円	7.3 (2.5)	21.6 (2.3)	7.3 (2.3)	2.9:1	白色粘土 小石を含む(粗い)	普通	黒灰色 ~淡黄白色	熱のため危険、剥落
89-10	第22住	椭円	6.0 (2.4)	16.5 (2.4)	6.3 (2.4)	2.5:1	(粗い) 白色粘土 砂粒を含む	普通	黒青灰色 ~淡黄褐色	熱のため危険、完形
89-11	第22住	椭円	7.0 (1.1)	13.2 (2.0)	7.8 (2.0)	6.4:1	(粗い) 白色粘土 砂粒を含む	普通	黒青灰色 ~淡黄褐色	変形した円筒 上半寸
89-12	第22住	椭円	7.0 (2.4)	16.8 (2.5)	6.5 (2.5)	2.9:1	白色粘土 小石を含む(粗い)	普通	黒青灰色 ~淡黄褐色	先端部のみ 上半寸

## 出土石器・鉄器一覧表

通番号	出土地点	種類	器形	法量 cm			重 量 g	粘 土	備 考
				たて	よこ	深さ			
90-1	第4住	砥石	長方形	17.9	4.3	4.1	620	仕上げ砥	
90-2	第24住	砥石	長方形	14.4	5.0	3.4	380	仕上げ砥	
90-3	第20住	砥石	長方形	7.5	3.2	2.3	90	荒 砥	
90-4	第6住	分銅	長方形	底辺 2.5	上辺 1.5	4.2	30		
90-5	上 挙 46	砥石	長方形	8.8	2.0	1.3	110	荒 砥	
90-6	第5住	砥石	長方形	14.7	長6.1 幅3.4	4.5	550	荒 砥	
90-7	第20住	石斧	正方形	4.3	4.1	0.8	30		
90-8	第22住	鉄器	鍔	刃渡 15.6	4.5	0.3	115		
90-9	第28住	鉄器	整 鋸	29.2	2.8	厚み 1.1	110		

## V. まとめ

東久保遺跡の発掘調査は、鍛冶工房址の発見という大きな成果を得た。ここに若干の考察と問題点を記してまとめにしたいと思う。

### 1. 遺構について

東久保遺跡において前述してきたように検出された遺構は堅穴住居址33軒、掘立柱建物址7棟、溝状遺構2本、土壙160基、その他1の計203遺構である。それぞれについて細かく総合的に見ていくたいと思う。

#### a. 堅穴住居址

検出された平安時代の住居址はそのすべてが国分期にあたり、住居址のプランとしては隅丸方形を呈し、規模は1辺の長さを3m前後、4m前後、5m前後のものを基本とし、特に第28号住居址のように6.4×6.4mを最大規模にしている。柱穴は第20号住居址と第28号住居址においては規則正しく配置されており、南側2本が南寄りになる傾向が見られ、これは出入口との関係と思われる。他の住居址内においてピットは確認されるものの、規則性はなく点在あるいは集中し、穴自体もそれほど大きくなく、比較的掘り込みが浅いので柱穴とは思われない。カマドはすべての住居址に構築されていたと思われるが第7号住、第18号住、第21号住、第25号住などは、耕作等によって破壊されており検出できなかった。検出されたカマドの位置は、そのほとんどが東壁の中央よりやや南寄りに構築されており、第11号住は南東のコーナーに設置されていた。構築材料は河原石を主体にし、白色粘土等を補強材として用いている。カマドの掘り方の平面形態は梢円形及び円形を呈し、煙道部は住居址外に瓶かく延びている。周構は住居址内の壁直下を、カマド部をのぞき全周するものと、北西の角等の隅をのぞき巡るものとがある。

#### b. 掘立柱建物址

掘立柱建物址は遺跡内のほぼ中心部に集中して7棟あり、これを取り囲むように堅穴住居址が構築されていることから、堅穴住居址と共に倉庫的な役割を持った遺構であったことが推察される。1×2間が2棟、2×3間が2棟、1×4間が1棟、2×4間が1棟、3×3間が1棟にあり、3×3間は総柱である高床であったと思われる。

#### c. 溝状遺構

第1号溝は西から東へ向きに延びて存在し、東の先端部には集石土壙が存在し、ここに流れつくようにつくられている。第2号溝は北から南へ向けて延びており、溝の両脇にはピットが掘られており、東側の溝壁中に5本、溝外に3本、西側の溝壁中に2本見られる。南の後端部は耕作等によって破壊されており不明である。第2号溝の覆土中より鉄滓が出土しているが流れ込みによるものであろう。第1号溝、第2号溝とも性格は不明である。

#### d. 土 壤

遺跡内より検出された土壌数は、160基を数え、土壌内からは土器の破片、鉄滓などが極少量出土しているが、年代判定可能なものは出土していない。土壌内より出土の鉄滓は、そのすべてが覆土中からであり、底からは出土しておらず、流れ込みによるものである。前述した土壌の分類は特に頗著に見られるものであって、上壌あるいは土壌群の中には切り合いすぎていて原形をとどめないものもある。土壌を全体的に見ると、東久保遺跡のほぼ全面に点在しているが、大半は10~15基がかたまっている。年代的に見ると第21号住居址を掘り込んで存在する土壌があるため、東久保遺跡が存在した年代とほぼ重なるものと思われる。

#### e. そ の 他 (壁穴を伴う遺構)

遺構の覆土中間層に投げこまれたような石の堆積が見られ、この層から土器片が一点出土しているだけであり、遺構の性格としては不明である。そしてこの遺構を取り囲むかの様に第7号掘立柱建物址の柱穴があり、相互関係は不明である。概要としては4隅に壁柱穴が見られ、かなり太い柱を使用したと思われる。

東久保遺跡内より検出された遺構を総括的に見ると、この南側の地続きには青木北遺跡が調査されており壁穴住居址が17軒、掘立柱建物址5棟検出されている。検出された住居址の中には1辺約6.5mで壁直下の床直下に20cm前後に偏平な石を各4個づつ2m間隔で配置し、柱をささえる礎石ではないかと考えられる住居址もある。青木北遺跡は1世紀頃と思われ、東久保遺跡とほぼ一致する。これらのことから判断すると、平安時代の集落とすると南北350m、東西100mの細長い集落であったと思われる。そして集落のほぼ中央に工房址があり、それを取り囲むように住居址が点在している。第20号住居址より石帶が出土していることから検出されている鍛冶工房址は村の鍛冶屋的なものではなく、鉄製品の供給地ではなかろうか。

### 2. 遺 物 に つ い て

#### a. 住居址内出土土器

東久保遺跡の壁穴住居址より出土した須恵器坏・土師器坏について、最近の山梨県内における平安時代土師器編年の研究の成果を基本にし、その編年的位置について検討したい。

#### 須恵器坏型土器

東久保遺跡内より出土している須恵器坏は、第15号住居址・第27号住居址・第30号住居址から出土しており、第15号住居址から2点・第27号住居址から3点・第30号住居址から1点出土している。

#### 第15号住居址（Ⅰ類）

口径11cm前後、底径 5.4cmあり、底部は回転糸切り未調整である

#### 第27号住居址（Ⅰ・Ⅱ類）

土器番号4・5は第15号住居址より出土している土器に類似。土器番号6は口径13cm、底径6.8cmと比較的大型の壺であり、底部は回転糸切り未調整である。

#### 第30号住居址（Ⅰ類）

口径11.1cm、底径 5.0cmあり、底部は回転糸切り未調整である。

#### 須恵器壺縦年の位置

須恵器壺型土器類は、東京都八王子市南多摩窯址群の御殿山59号窯址出土の壺に類似し、「甲斐型」の壺が共伴し、御殿山59号窯址の製品は9世紀中頃に比定されている。

Ⅱ類は、Ⅰ類と同様に南多摩窯址群の御殿山25号窯址出土の壺と類似し、9世紀後半から10世紀前半に比定されている。

#### 土師器壺型土器

本遺跡より出土している土師器壺型土器は4区分することができ、各区分についてふれて見たい。

##### 第Ⅰ類

器体部下半の整形は斜め箝削りされ、器体部内面には暗文が施され、底部は全面手持箝削りされ、色調は赤褐色を呈する。

##### 第Ⅱ類

第Ⅰ類の形態を引き継ぎ、口唇部の形態は丸形化する。底形は全面手持箝削りされるものもある。

##### 第Ⅲ類

器体部内面に黒色処理を施したいわゆる内黒土器である。口縁部はやや外反し、器体部内面は箝磨きされ、底部外面の整形は回転糸切り未調整であり口底径比は大である。

##### 第Ⅳ類

内面黒色処理された上器であり、器形的には第Ⅲ類の系譜を引き継ぐが、底部整形は回転糸切り未調整であるが、貼付け高台されている。

#### 土師器壺縦年の位置

第Ⅰ類は坂本氏等の縦年によるとⅧ期に入り9世紀第4四半期に比定され、第Ⅱ類はⅩ期に入り10世紀第2四半期に比定され、第Ⅲ類はⅪ期に入り10世紀第4四半期に比定される。

第Ⅳ類は、第Ⅲ類の上器と共に伴しているため同時期であろう。

### 灰陶器窯型土器

当遺跡からは壺・皿・長頸瓶などが出土し、2期に区分することができ各時期について個々に見ていきたい。

#### 第Ⅰ類

高台付の壺であり、高台部からゆるやかに丸味を持って立ち上がり口縁部に至って外反する。器厚は、底部 0.5cm、高台脇 0.7cm、器体部中間 0.2cm、口縁部 0.4cmを測る。口唇部は丸味をもった玉縁のものと、角ばっているものもある。底部は内外面とも笠削りされており、内面底部に重ね積み焼成の痕がある。付高台は、断面を「く」の字状にし、稜をつくり出している。

#### 第Ⅱ類

壺は大壺であり、口径に対し器高が低いので浅い壺という感じである。付高台であり、器底部の立ち上りはやや直線的になり口縁部に至り外反する。口唇部は丸味を持つ。

第Ⅰ類は光ヶ丘1号窯址を標式とし、10世紀前半代に比定されており、第Ⅱ類は大原2号窯址や北丘7号窯址を標式とし、10世紀後半代に比定されている。

以上の結果より本遺跡出土の土器は、9世紀後半から10世紀後半と推定できる。なお、土器によって得られた年代と住居址の重複関係により住居址の年代は次のようになると思われる。

9世紀後半代に入る住居址としては第3号住、第4号住、第13号住、第15号住、第27号住、第28号住、第30号住が入るものと思われ、10世紀前半代に入る住居址としては第4号住、第2号住、第7号住、第8号住、第12号住、第16号住、第18号住、第21号住、第23号住、第26号住が入るものと思われ、10世紀後半代に入る住居址としては第5号住、第6号住、第9号住、第10号住、第11号住、第14号住、第17号住、第19号住、第20号住、第22号住、第24号住、第25号住、第29号住が入るものと思われる。

### 墨書き土器について

東久保遺跡の各住居址から出土している墨書き土器は、判続不明土器を含めると40余点になる。1文字だけ墨書きされている文字は「丈」・「石」・「吉」・「家」・「木」・「上」・「須」・「定」・「子」・「井」・「宍」・「口」などがある。特に「須」・「定」は一個体の笠削りされた底部の内面に「須」、外面に「定」の文字が書かれている。又「木」・「口」などは何かの記号と見られる。

2文字以上墨書きされている土器には「六方」・「家吉」・「大麻呂」があり、「家吉」・「大麻呂」は人名と思われる。この他にも2字から3字程度書かれている土器も見受けられるが破片のため判続できない。

住居址別に見ると第4号住居址と第8号住居址において同一文字が3ないし4個体出土している。第4号住居址は「宍」であり第8号住居址は「家」である。その他の住居址に關しこの

よう同一文字が多数出土する例は見られない。当遺跡内より出土している墨書き器は、所有者等を表示しているものと思われる。

#### b. 石製品

第6号住居址の床面直上より出土している。形態的には四角錐を呈し、4つの角は面取りしており全体的に丁寧に磨かれている。石材は黒雲母花崗岩製である。上部には切り込み線が入っており、紐等が掛けられるように作られている。上辺1.5cm前後、底辺2.5cm前後、高さ4.2cmあり、重量は約30gであり、尺貫法で約10匁にあたる。形態的に見ると竿秤の分銅と思われる。山梨県内において初の出土例であり、今後の発掘調査において問題が残ろう。

#### c. 石帶

第20号住居址の床面直上より出土している。石材は粘板岩製の巡方であり、現寸4.3×4.1cm、厚さ0.8cmを測り、表面と側面はよく研磨されており光沢を持っている。裏面も粗く磨かれており、各辺平行四隅に2孔1対の溝り孔が穿たれている。縦横の割合は0.95:1とほぼ正方形を示す。

#### d. 砥石

各住居址、土壌などから計5個体出土している。そのうち荒砥が3個あり、2個は仕上げ砥である。第4号住居址から出土している砥石は硬砂岩製の砥石であり、四面すべてを使用している。第5号住居址から出土している砥石は黒雲母花崗岩製の砥石であり、荒砥であり、四面使用し曲線状に摩滅している。第20号住居址から出土している砥石は、黒雲母花崗岩製で荒砥用である。四面すべて使用している。第24号住居址から出土している砥石は黒雲母花崗岩製で仕上げ砥用であり、四面すべて使用している。第46号土壌より出土している砥石は黒雲母花崗岩製で仕上げ砥用であり、四面すべて使用している。

#### e. 鉄製品

第22号住居址の床面直上より鎌が1個体出土している。全長15.6cm、刃部先端部幅2.3cm、刃部中央部幅3.5cm、柄部幅3.2cm、重量115gを測る。第28号住居址の覆土中より整鎌が出土している。全長20.2cm、先端部幅0.9cm、中央部幅1.4cm、後端部幅2.5cm、厚さ1.1cm、重量110gを測る。東久保遺跡内において出土した鉄器は以上の2点のみである。

#### f. 羽口について

羽口が出土している住居址は9基あり、それらのうちほぼ完形の羽口が出土しているのは、第3号住、第9号住、第22号住であり、その他の住居址から出土している羽口はすべて小破片である、出土している羽口を形態的に以下3形式に分類した。

#### 第1類

口径6~6.8cm、全長17cm前後、孔径2.5cm前後を測り、断面の形状は円形を呈す。外孔径比は2.5~3.3:1である。

## 第Ⅱ類

口径 7 ~ 7.7cm、全長16cm前後、孔径 2.5cm前後を測り、断面の形状は梢円形を呈す。  
最長の羽口は第22号住居址出土の21.6cmのものである。外孔径比は 2.5 : 1 前後である。

## 第Ⅲ類

口径 8 ~ 8.6cm、全長17cm前後、孔径 2.5cm前後を測り、断面の形状は梢円形を呈す。  
外孔径比は 2.7 ~ 5.2 : 1 である。

出土している羽口は、比較的粒子の粗い白色粘土を使用し、胎土に小石等を混入している。  
前述したように羽口には、先端及び基底部の直径が太いものと、細いものがあるが、孔径の直径にはほとんど変化はなく、同一の硬木の芯棒に粘土を巻きつけて生乾きの状態で引き抜き、  
その前後は不明であるが、鉛削り等をして形を整形し、さらに十分乾燥した後に焼成している  
ものと思われる。いづれの羽口も使用した痕跡が見られ、特に第3号住居址、第9号住居址から出土している羽口は、両端部が高温にさらされるため、溶融状態を呈している。その他の羽口も、先端部は欠損しているものの、熱を受けたため亀裂等が生じ、脆くなっている。

第22号住居址から出土している羽口のうち（図版番号89-6 ~ 10まで）5本は、北西の隅から一括して出土しており、いづれも使用されている。

## 8. 鉄滓について

東久保遺跡より出土している鉄滓の出土量は約 130kgであり、鉄滓が最も多量に出上している住居址は第9号住居址と第22号住居址である。第9号住居址からは20.52kgであり、第22号住居址からは86.71kg出上している。出土している鉄滓の大部分は、住居址の覆土中間層にレンズ状に堆積しており、その中には壊れた羽口の破片も出土しており、このことから推測すると、住居址が鉄滓その他の捨て場になっていたと思われる。

東久保遺跡から出土している鉄滓は、約半分がいわゆる椀形滓であり、その他は不定形の鉄滓である。ここでは椀形滓を対象として肉眼観察の結果について述べたい。形状としては円形及び梢円形を呈し、梢円形を呈するものの中には長軸をのばすものも含まれ、大きさを増大するにつれてその傾向は強くなる。表面の状態は全体的にザラザラしており、色調は暗紫灰色から黄褐色を基調とし、なかには暗赤褐色を呈するものも見られる。各個体の中で黄褐色と呈するものは非常に粗くボロボロしており、整理中に小塊化したもの多く、断面を見ると赤褐色を呈し、気孔が多数あいており、炭小片が混入しているものもあり、磁石に対する反応是非常に弱い。暗紫灰色を呈するものも非常に粗く表面もボロボロしており、断面を見ると多孔質であり、磁石に対する反応も、黄褐色を呈するものと同様である。

武藤雄六氏の御教授によると、出土している鉄滓 130kgから推定すると、砂鉄土が 6 トンから 7 トン必要であり、精製して採取できる鉄の量は49kg程度であるという。

## 鉄滓分析表

東久保遺跡より出土した鉄滓の成分分析を山梨県機械金属工業指導所に依頼したところ、下記の結果を得ることができた。

### 1) サンプリング

試料は長い年月を経ており表面が酸化し、赤サビで覆われているため、これらの部分をハンマーで取り除き中の部分をできるだけ取り出して分析を行なった。この試料を、乳鉢で粉碎し、64メッシュのふるいで分け 110°Cで4時間乾燥してから各々の分析を行なった。

### 2) 粉碎したサンプルの色

表 1

	色 調		色 調
第3号住居址	黒	第22号住居址	黒
第7号住居址	"	第22号鉄片	こげ茶
第9号住居址	赤 茶	第24号住居址	赤っぽい黒
第20号住居址	黒	第29号住居址	黒

### 3) 定性分析

発光分光分析装置によりサンプルの定性分析を行ない、次の元素が確認できた。

表 2

	検 出 元 素
第3号住居址	Fe +++, Si +, Ti +, Ca +, Mg +
第7号住居址	"
第9号住居址	"
第20号住居址	"
第22号住居址	"
第22号鉄片	"
第24号住居址	" (Ti 検出せず)
第29号住居址	"

### 4) 定量分析

- Fe, Ca, Mg, Ti  
サンプルをHCl, H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>, HClO<sub>4</sub>にて分解し、原子吸光度計にて分析
- Si  
二酸化ケイ素重量法にて分析
- C  
炭素分析器にて分析

表 3

	Fe	Si	C	Ti	Ca	Mg
第3号住居址	55%	7.8%	0.08%	0.49%	0.55%	0.68%
第7号住居址	66	2.6	0.33	0.28	0.19	0.21
第9号住居址	60	3.6	0.54	0.23	0.10	0.18
第20号住居址	67	2.4	0.13	0.55	0.10	0.33
第22号住居址	66	2.5	0.14	0.84	0.18	0.48
第22号鉄片	67	2.5	0.18	0.38	0.08	0.33
第24号住居址	68	0.83	4.73	tr	0.05	0.07
第29号住居址	61	4.2	0.17	1.82	0.29	0.70

### 3. 鋼治工房址

22号住居址が鋼治工房址（大鋼治と小鋼治を含む）と考えられ、24号住居址も工房址の可能性が強い。両者とも住居址内中央部に土壙をもつ。

22号住居址は、床面の一部に黄褐色粘土が認められ、中央部に東西1m、南北85cm、深さ30cmの長方形の上抜が掘られており、その東隅に金床石と思われる50cm四方の石が据え付けてあった。又、石や土壙の周辺には鉄粉が飛散しており、土壙の覆土中より鉄滓が出土している。

本遺跡出土鉄製品は、22号住居址床面より鎌が1点、28号住居址覆土より鑿鏽が1点の2点のみで総重量は225gである。前述したように仮に材料鉄が19kg採取できたとすると225gの鉄製品の出土は、非常に少ない。このことから考えると、当遺跡で作られた鉄製品が他地域に供給されている可能性もある。

当遺跡内のほぼ中心部（第9号住居址と第22号住居址）は、この付近の水田を耕作している古者の話によると通称「鋼治林（カジベーシ）」と呼ばれていたことが発掘調査中に判明した。しかしこの「鋼治林」は、小字地名表に記載ではなく字音木に含まれている。このことは、水田（現在水田であるため）を開墾する時に鉄滓、羽目等が出土したためこの地名がついたと思われる。

## IV おわりに

東久保遺跡の発掘調査が、ここに一冊の報告書としてまとめる事が出来、多くの成果を得ることができた。本書が北山摩都ひいては山梨県の平安時代研究の一助になれば幸いである。最後に発掘調査及び遺物整理、本書作成に御協力・御指導をいただいた県文化・埋文センターの各位をはじめ関係諸氏に対し、心より厚く感謝申し上げます。

### \* 参考文献 \*

- 坂本美夫 宮木健 押内真 1983「シンボジウム奈良・平安時代の諸問題」神奈川考古 第14号
- 神奈川県教育委員会 1982 「向原遺跡」
- 窪田藏郎 「改訂 鉄の考古学」 雄山閣
- 窪田藏郎 「製鐵遺跡」 ニュー・サイエンス社
- 田口昭二 「美濃焼」 ニュー・サイエンス社
- 特別展 「猿投窯 一須恵器 瓦器から中世陶へー」 愛知県陶磁資料館
- 日本の考古学 VI 歴史時代(上)河出書房新社

# 図 版

遺跡遠景  
(南より)



遺跡近景  
(北より)

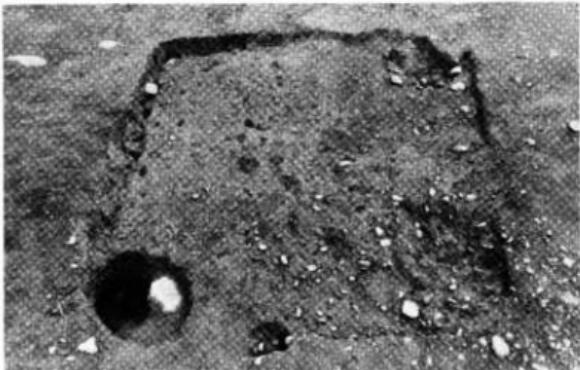


遺跡近景





第1号住居址



第1号住居址

カマド



第2号住居址



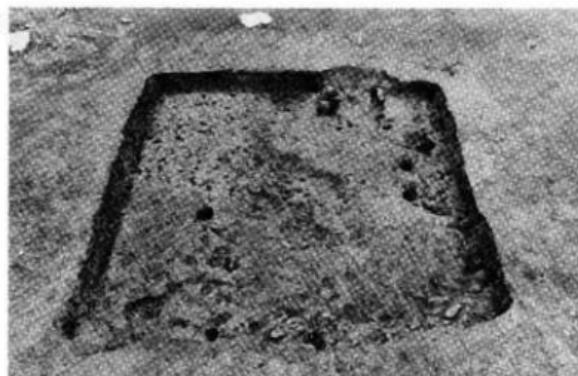
第2号住居址

カマド



第3号住居址

カマド



第3号住居址

カマド



第4号住居址



第4号住居址

カマド

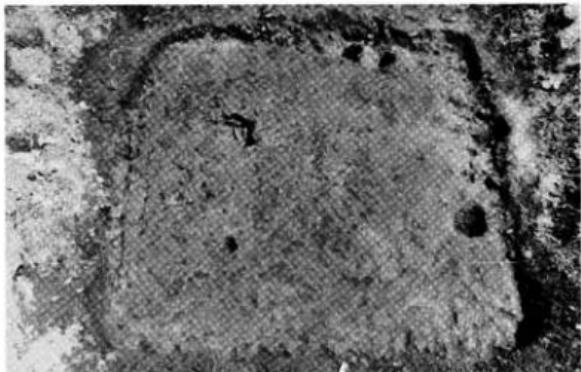


第4号住居址

南側階段状遺構



第5号住居址

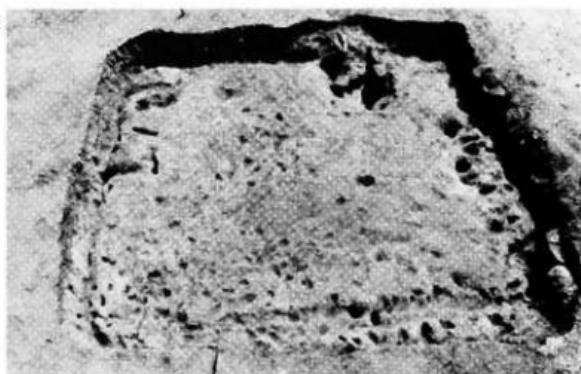


第5号住居址

カマド



第6号住居址



第6号住居址

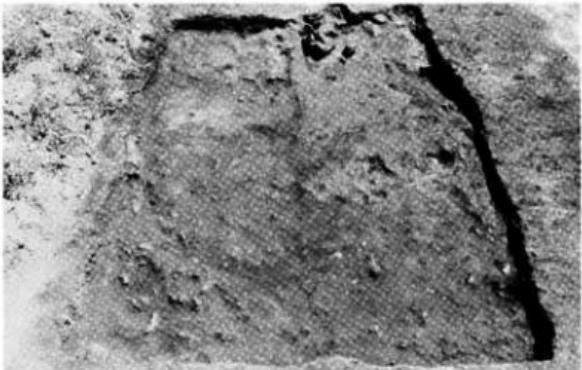
カマド



第7号住居址

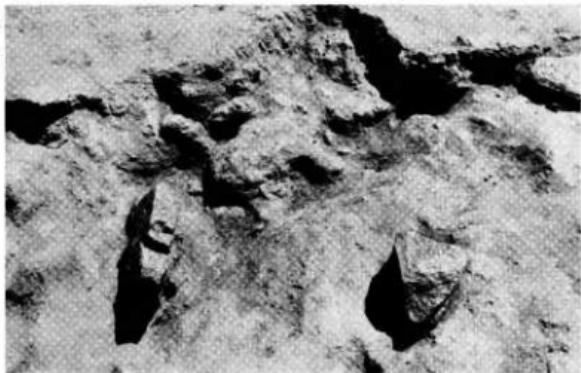


第8号住居址



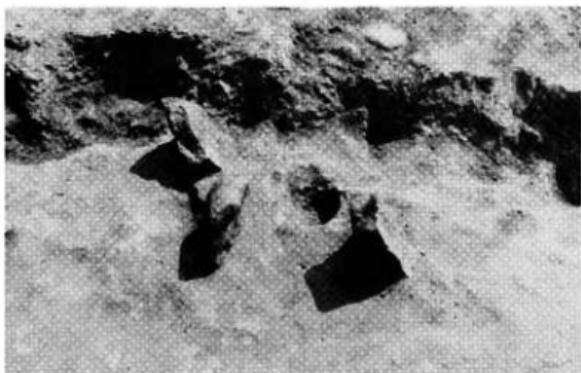
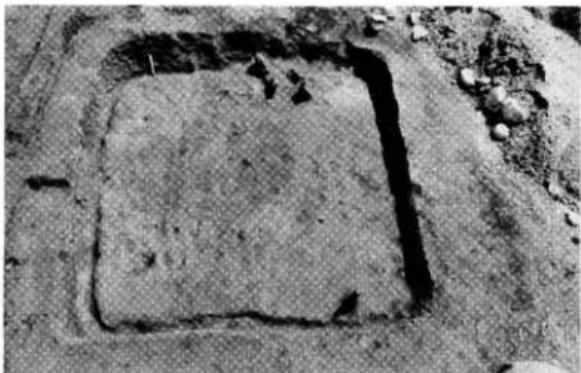
第8号住居址

カマド

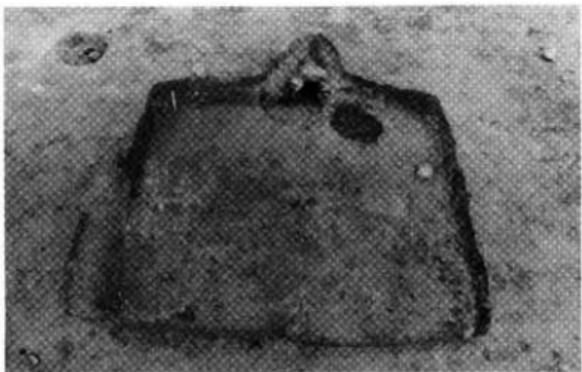


第9号住居址

カマド



第10号住居址

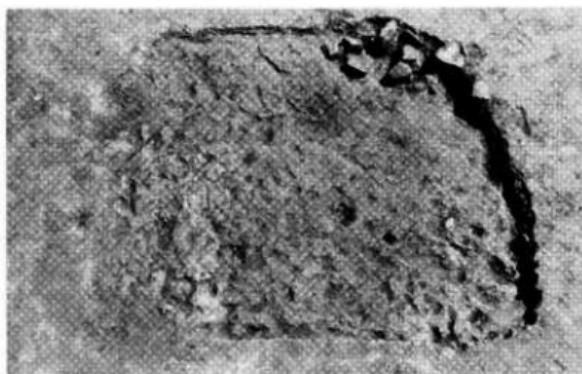


第10号住居址

カマド



第11号住居址

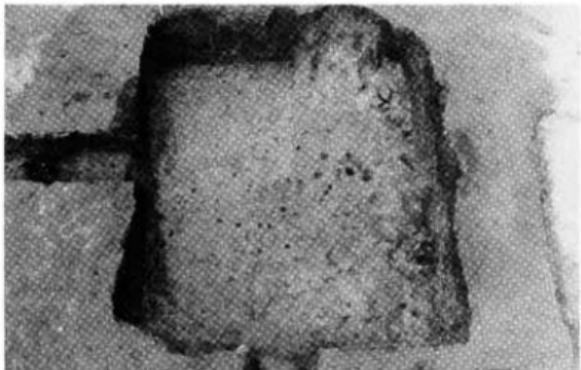


第11号住居址

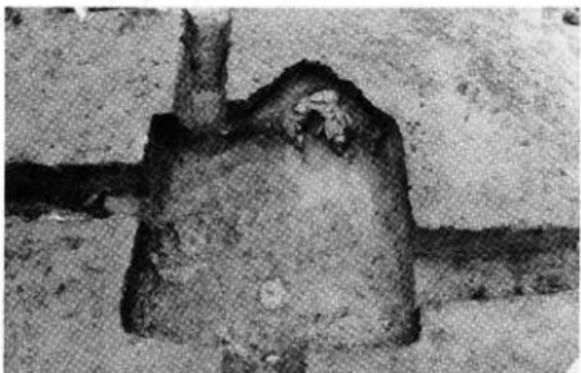
カマド



第12号住居址



第13号住居址



第13号住居址

カマド



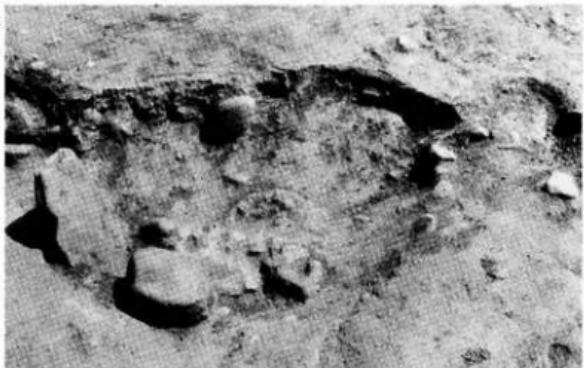
第14号住居址

カマド

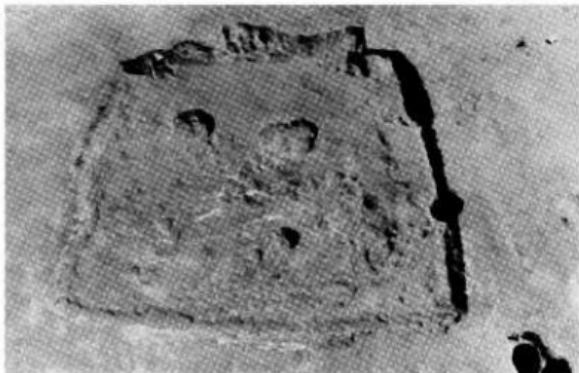


第14号住居址

カマド



第15号住居址

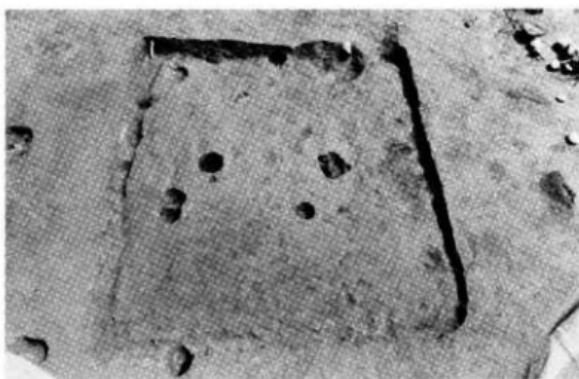


第15号住居址

カマド

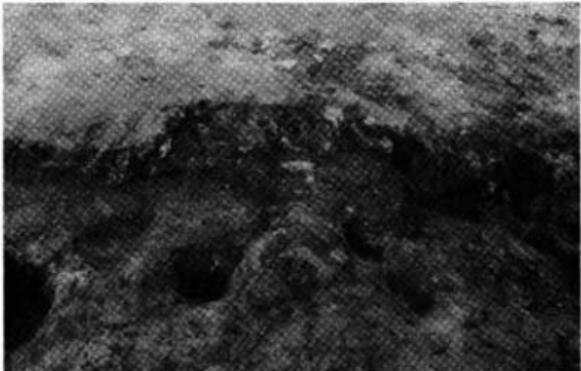


第16号住居址



第16号住居址

カマド



第17号住居址

カマド



第17号住居址

カマド



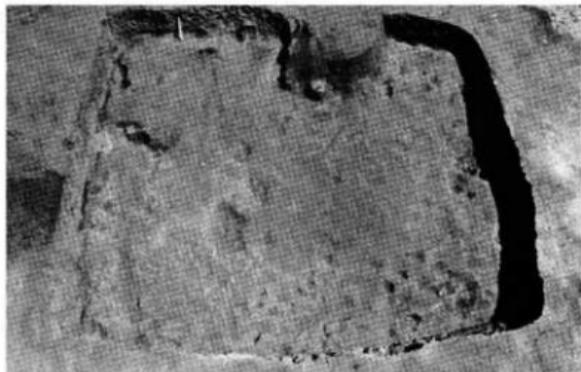
第17号住居址

カマド

側面(北より)



第19号住居址



第19号住居址

カマド



第20号住居址



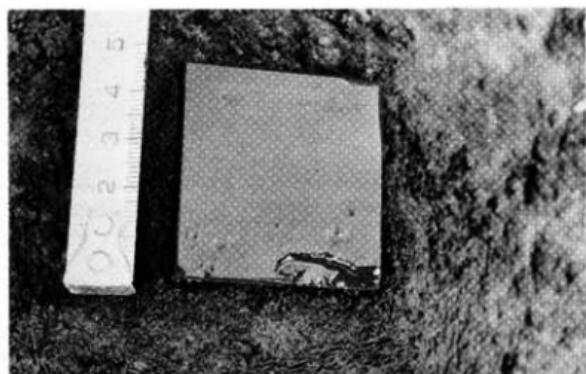
第20号住居址

カマド

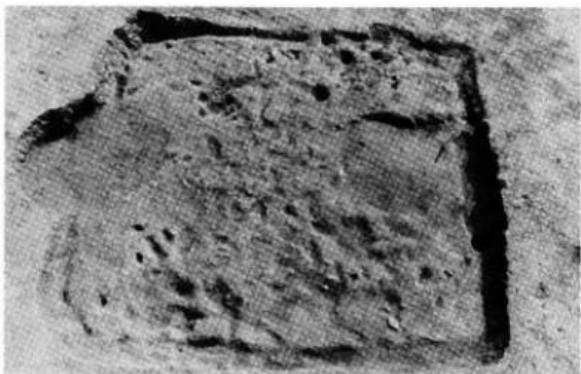


第20号住居址

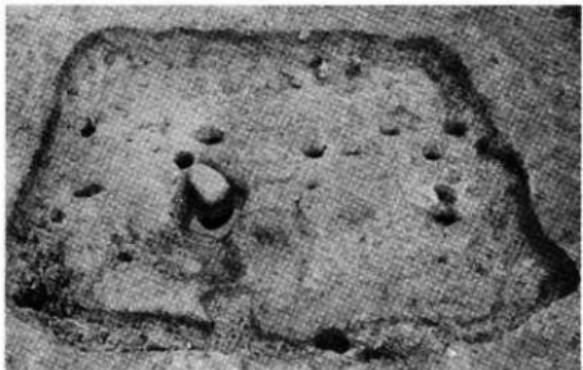
石帯出土状況



第21号住居址

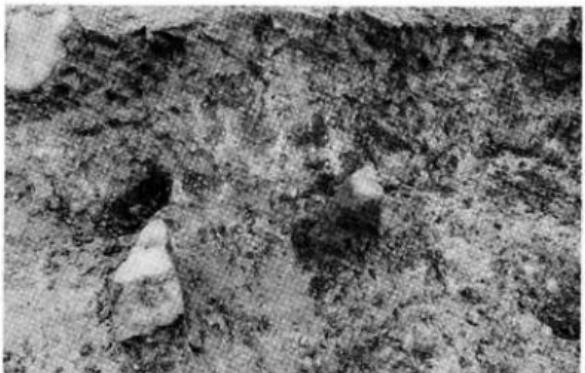


第22号住居址



第22号住居址

カマド



第22号住居址

金床石



第22号住居址

羽口出土状况



第22号住居址

鎌出土状况



第23号住居址



第23号住居址

カマド



第24号住居址



第24号住居址

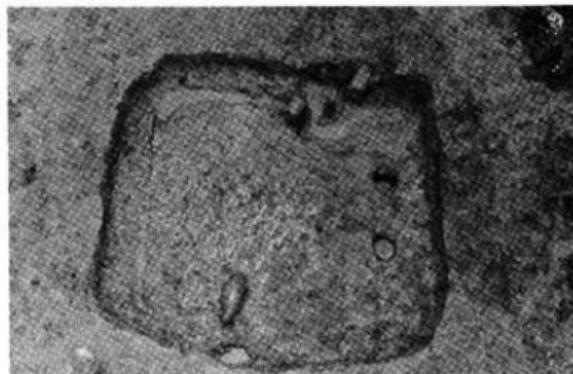
カマド



第25号住居址



第26号住居址

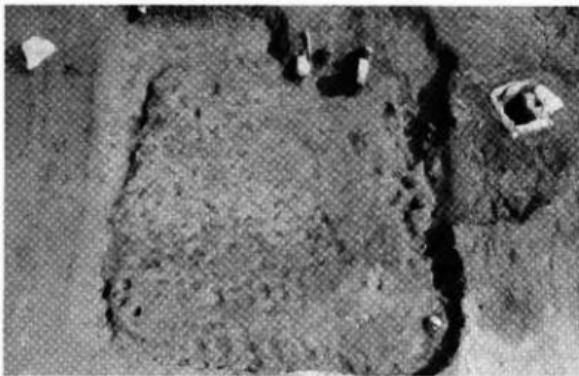


第26号住居址

カマド

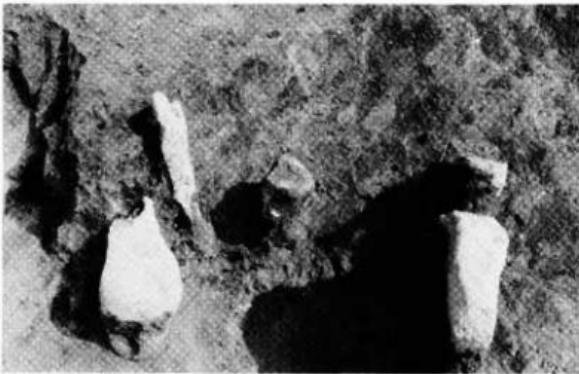


第27号住居址

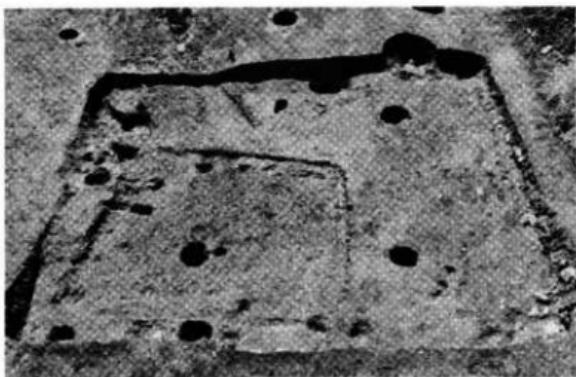


第27号住居址

カマド



第28号住居址

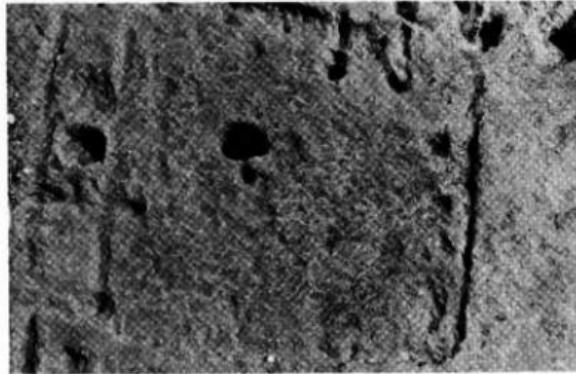


第28号住居址

カカマド

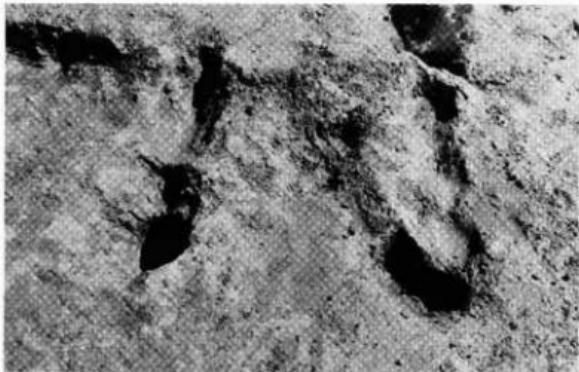


第29号住居址



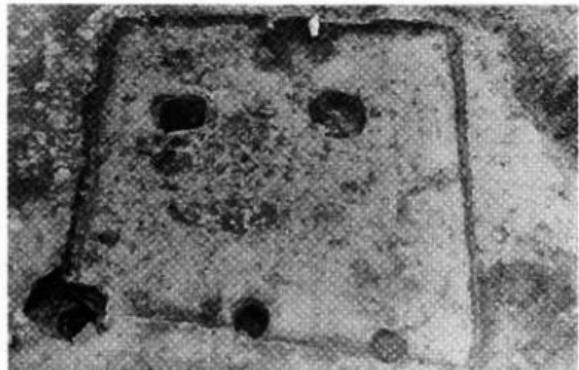
第29号住居址

カマド



第30号住居址

カマド



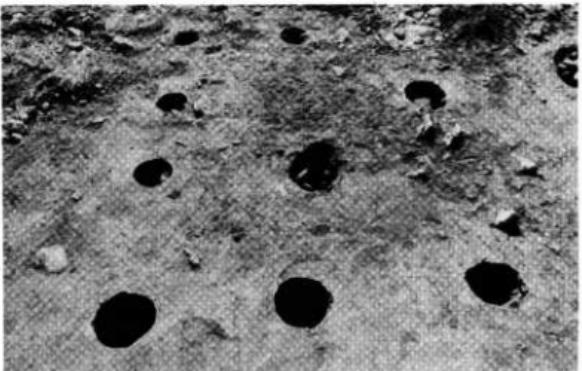
第30号住居址

カマド



第2号据立柱

建物址



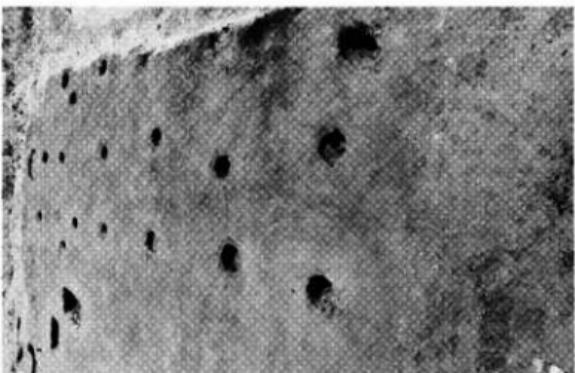
第3号据立柱

建物址

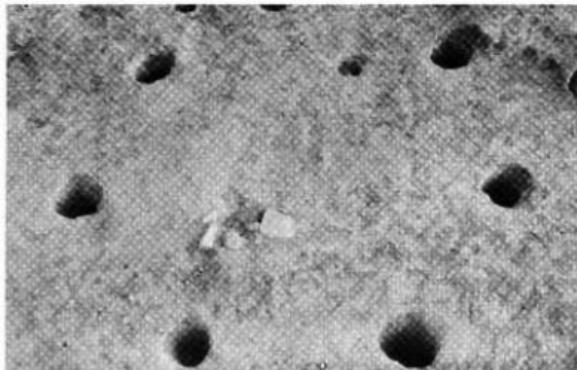


第4号据立柱

建物址



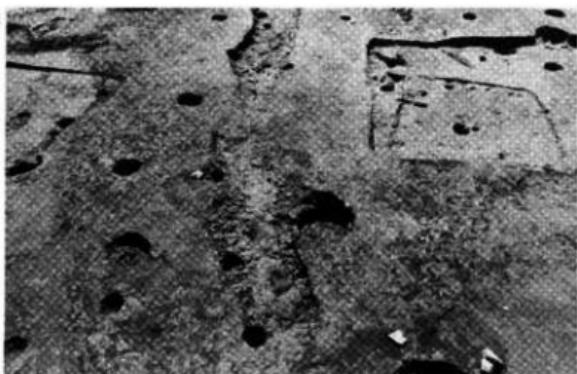
第33号住居址



第1号溝状遺構



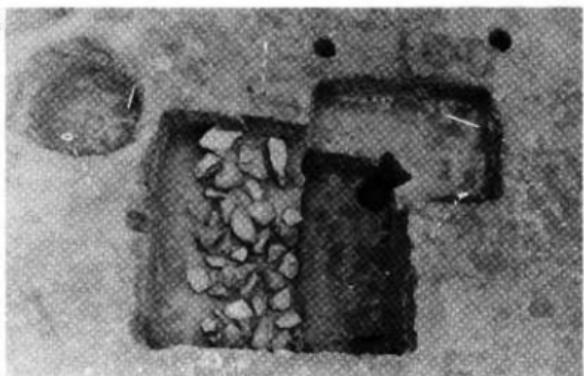
第2号溝状遺構



土 坑 群



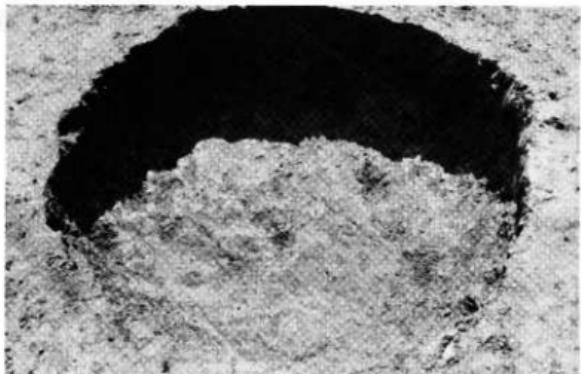
そ の 他



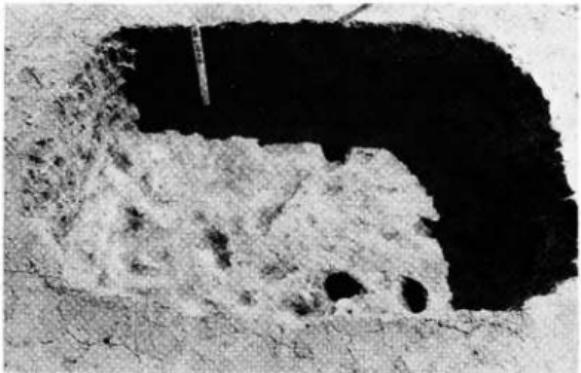
完掘状態



土塙 第1類



土塙 第2類



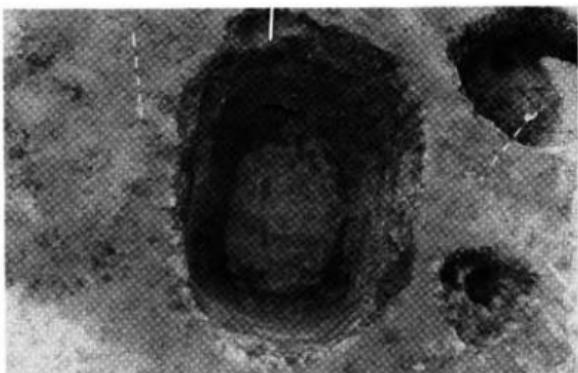
土塙 第3類



土坡 第4類

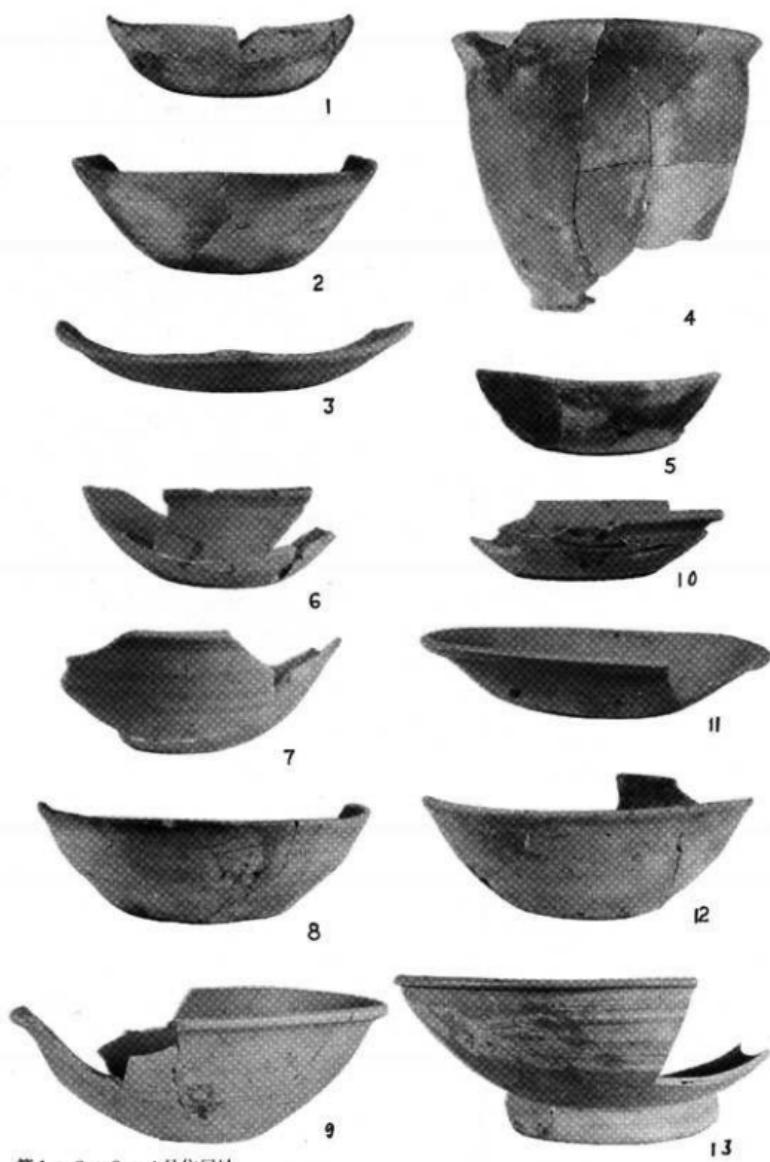


土坡 第4類  
完掘狀態

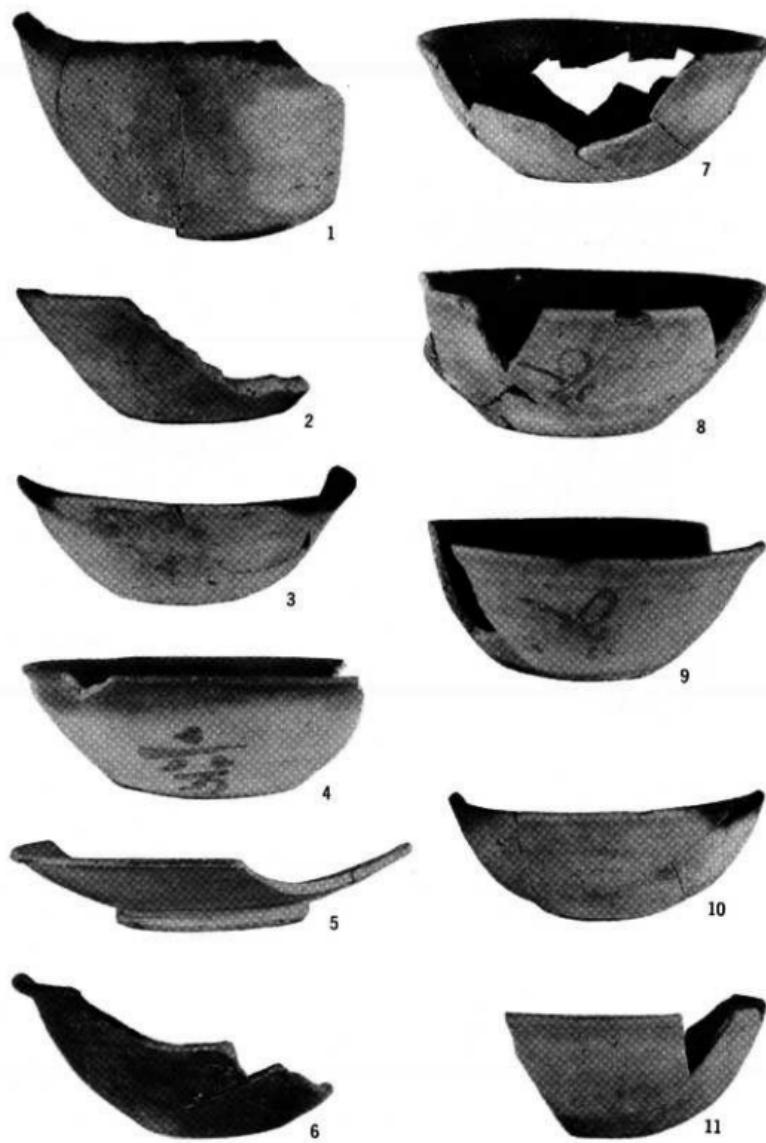


土坡 第5類

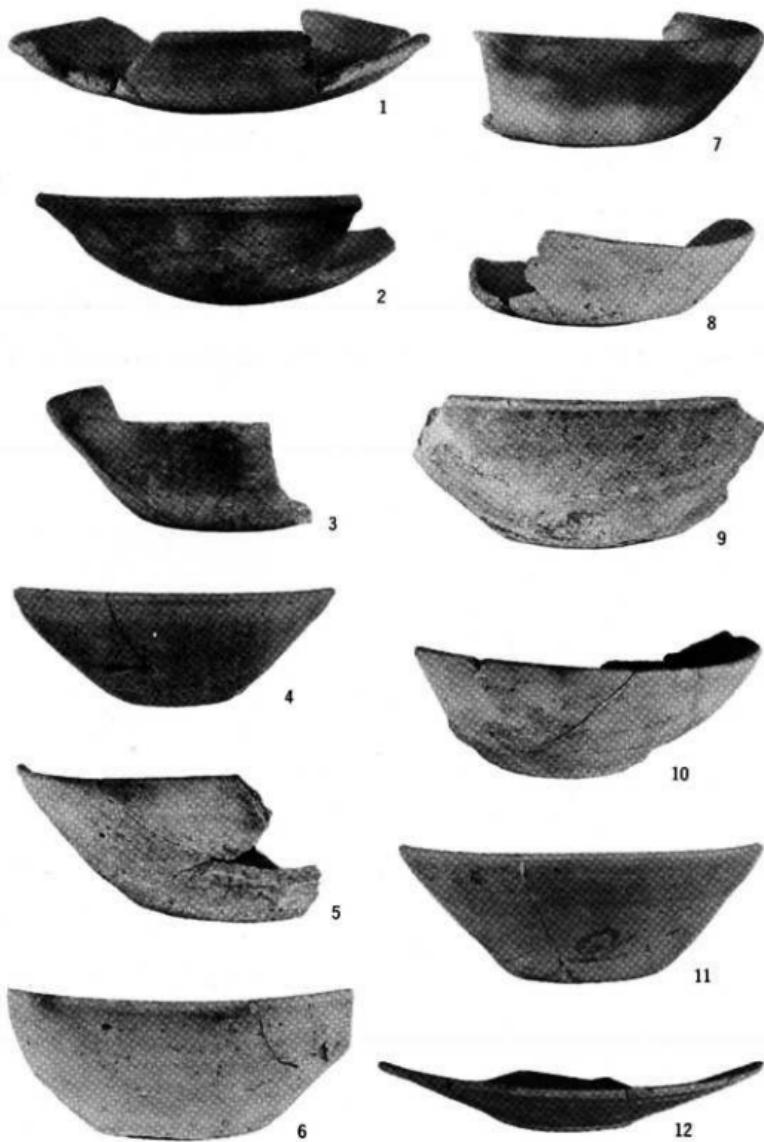




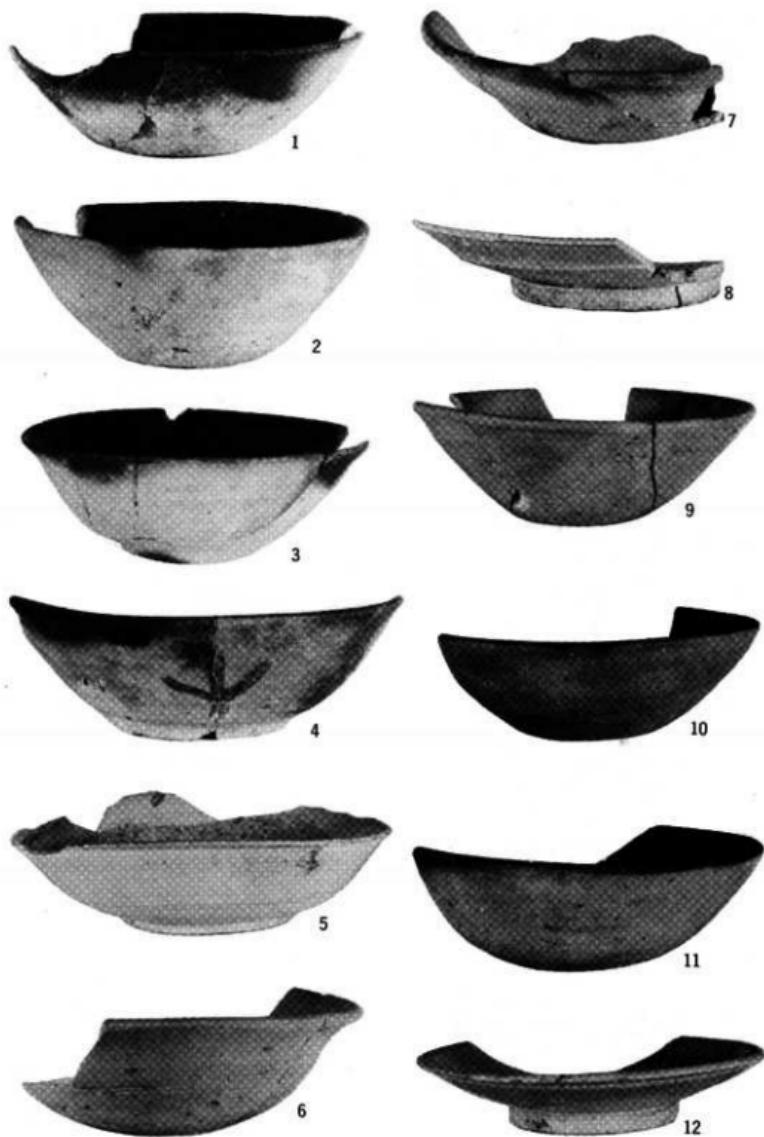
第1·2·3·4号住居址



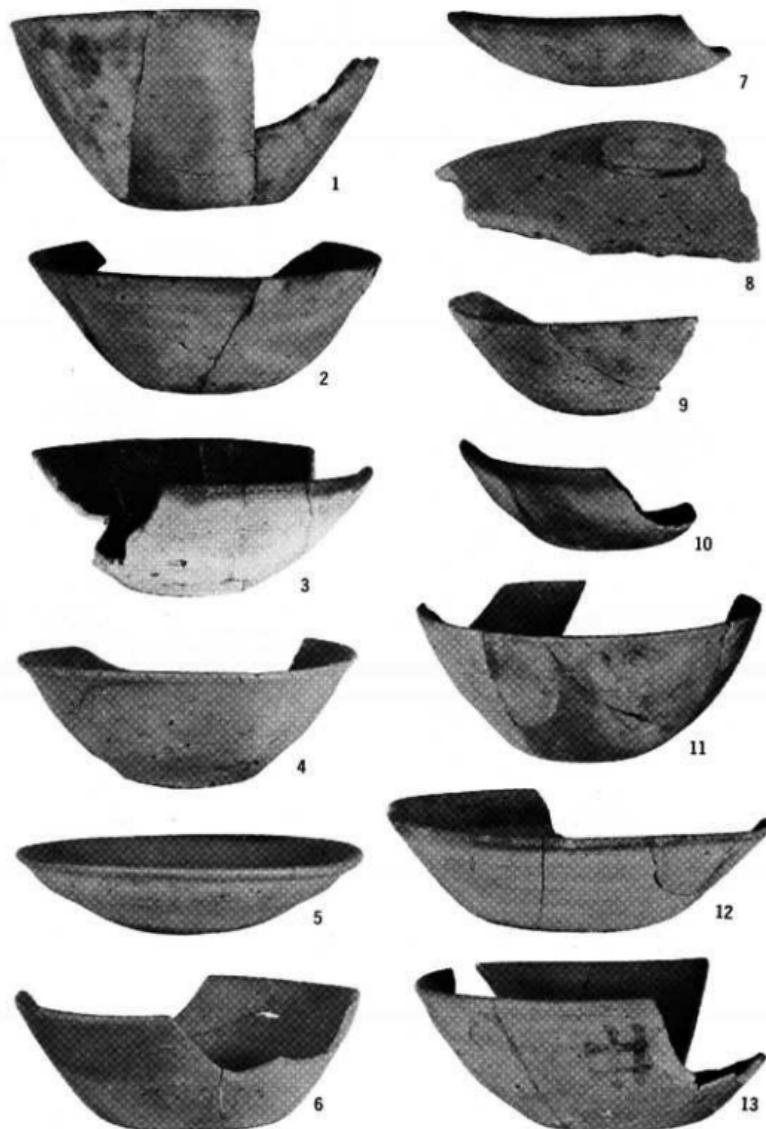
第5号住居址(1~3), 第6号住居址(4,5), 第8号住居址(6~9), 第9号住居址(10,11)



第11号住居址(1,2), 第13号住居址(3), 第15号住居址(4~9), 第16号住居址(10~12)



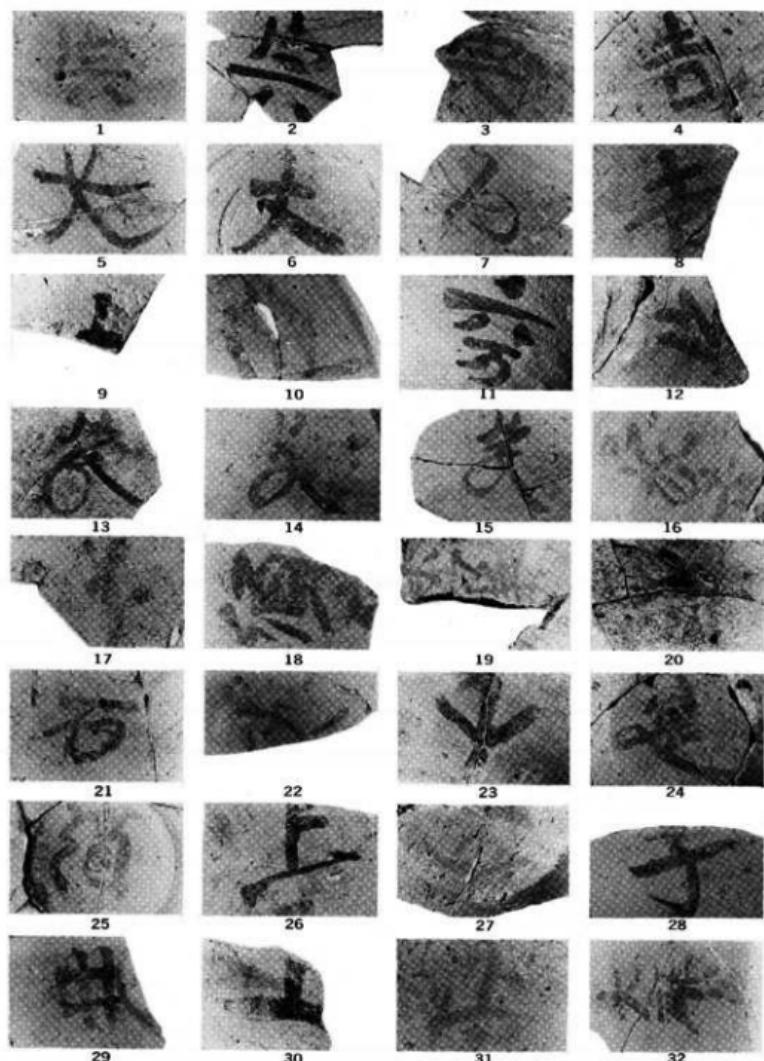
第17号住居址(1~5), 第18号住居址(6), 第20号住居址(7),  
第21号住居址(8,9), 第22号住居址(10~12)



第23号住居址(1), 第24号住居址(2~8), 第26号住居址(9, 10), 第27号住居址(11~13)

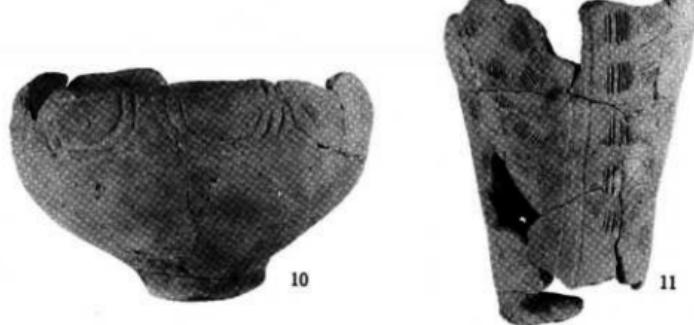
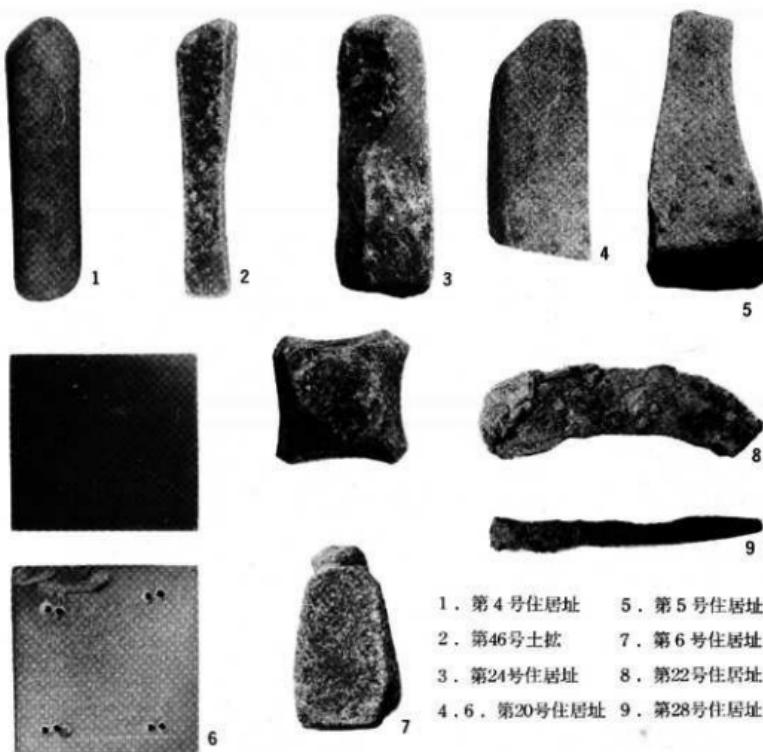


第28号住居址(1~7), 第29号住居址(8), 第30号住居址(9~11)

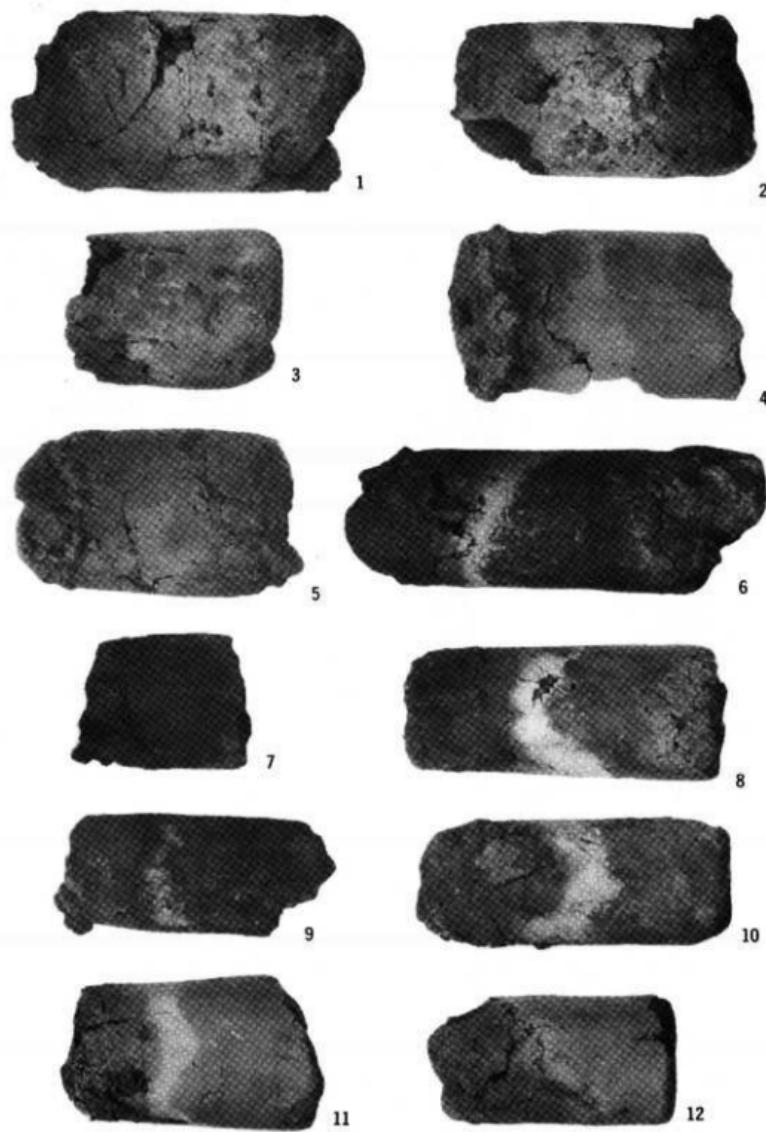


墨書土器写真 第4号住居址(1~7)  
第6号住居址(8~11)  
第8号住居址(12~16)  
第12号住居址(17)

第15号住居址(18~19)  
第16号住居址(20~21)  
第17号住居址(22~23)  
第21号住居址(24~25)  
第24号住居址(26~28)  
第25号住居址(29)  
第27号住居址(30)  
第28号住居址(31~32)



第31号住居址(10,11)



第3号住居址(1), 第9号住居址(2~5), 第22号住居址(6~12)出土羽口

高根町埋蔵文化財 第1集  
昭和 59 年 3 月 25 日 印 刷  
昭和 59 年 3 月 31 日 発 行

**東久保遺跡  
発掘調査報告書**

発行所 高根町教育委員会  
印刷所 純北印刷(株)

